

**令和4年度 愛媛県久万高原町及び高知県津野町における
日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)
に準拠した観光地経営の現状・課題調査事業**

事業実施報告書

令和4年12月

国土交通省 四国運輸局

目次

1. 業務概要	3
1-1. 事業概要	3
1-2. 実施体制	4
1-3. 実施日程	5
2. 事業報告	6
2-1. 関連情報の収集・分析	7
2-1-1. 現地調査	8
2-1-2. 関係者会議（開始時会議）	36
2-1-3. デスティネーションプロフィール	41
2-1-3-1. 久万高原町のデスティネーションプロフィール	43
2-1-3-2. 津野町のデスティネーションプロフィール	44
2-1-4. アセスメントレポート	45
2-1-4-1. 久万高原町のアセスメントレポート	48
2-1-4-2. 津野町のアセスメントレポート	50
2-1-5. 基礎勉強会	54
2-1-6. 中間報告会	66
2-2. 関係者間におけるワークショップの実施	71
2-2-1. ワークショップ実施概要	71
2-2-2. ワークショップ結果報告	72
2-3. 今後実施すべき対応策の取り纏め	91
2-3-1. アクションプラン	91
2-3-1-1. 久万高原町のアクションプラン	94
2-3-1-2. 津野町のアクションプラン	97
2-3-2. 最終報告会	100
3. まとめ	112

別添

- ①デスティネーションプロフィール
- ②アセスメントレポート
- ③アクションプラン
- ④基礎勉強会資料
- ⑤ワークショップ資料
- ⑥最終報告会資料

1. 業務概要

1-1. 事業概要

近年、オーバーツーリズム対策や観光資源の保全をはじめとした持続可能な観光地経営が求められており、具体的に持続可能な観光地経営をするにあたり、観光庁は「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」を2020年6月に作成した。また、訪日外国人旅行者の持続可能な観光に対するニーズも高まっており、新型コロナウイルス感染症をきっかけに、同ニーズの高まりはさらに促進している。

本事業の対象となる愛媛県久万高原町及び高知県津野町は、日本三大カルストの一つ四国カルストや清流四万十川の源流点を中心とした豊かな自然、その豊かな自然を活用したキャニオニング、ハイキング、サイクリングなどの様々なアドベンチャーアクティビティなど、自然環境の保護・保全を意識した観光資源を有する地域である。

しかしながら、当該地域では、JSTS-Dの導入をはじめとした具体的な観光地経営の実施については検討の初期段階にあり、観光関連事業者間においてJSTS-Dが理解されつつも、主要な観光地における具体的な持続可能な観光に関する取り組みの実施が十分ではない、等の課題がある。

以上の背景を踏まえ、愛媛県久万高原町と高知県津野町を対象としてJSTS-Dに照らし合わせた観光開発の現状、課題を、デスティネーションプロフィール及びアセスメントレポートの作成を通じて把握し、それらを元に、優先的に取り組むべく具体的なアクションプランの策定支援を行った。

1-1-1. 事業の目的

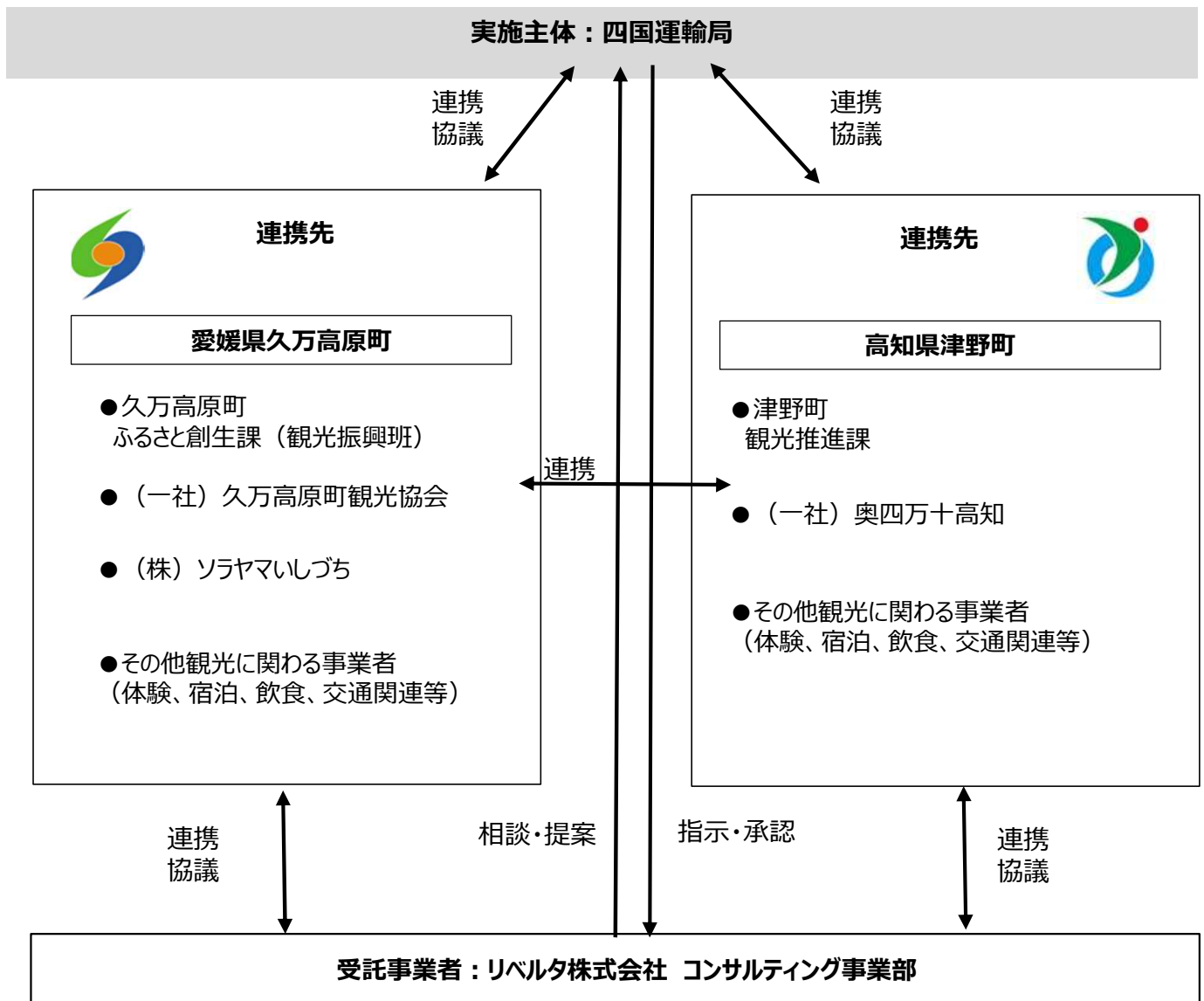
本事業は、日本版持続可能な観光ガイドライン（以下、JSTS-D）に準拠した観光地経営の現状・課題の把握および事業対象自治体や関連する観光事業者の持続可能な観光地経営の意識醸成やサステナブルツーリズムへの活用を目的として実施した。

1-1-2. 事業対象地域

愛媛県久万高原町、高知県津野町

1 - 2. 実施体制

事業対象地域において直接関連する愛媛県久万高原町及び高知県津野町と事業内容について検討し、各業務工程の詳細を、観光関連事業者など必要な関係者と適宜調整しつつ、事業を実施した。



1－3. 実施日程

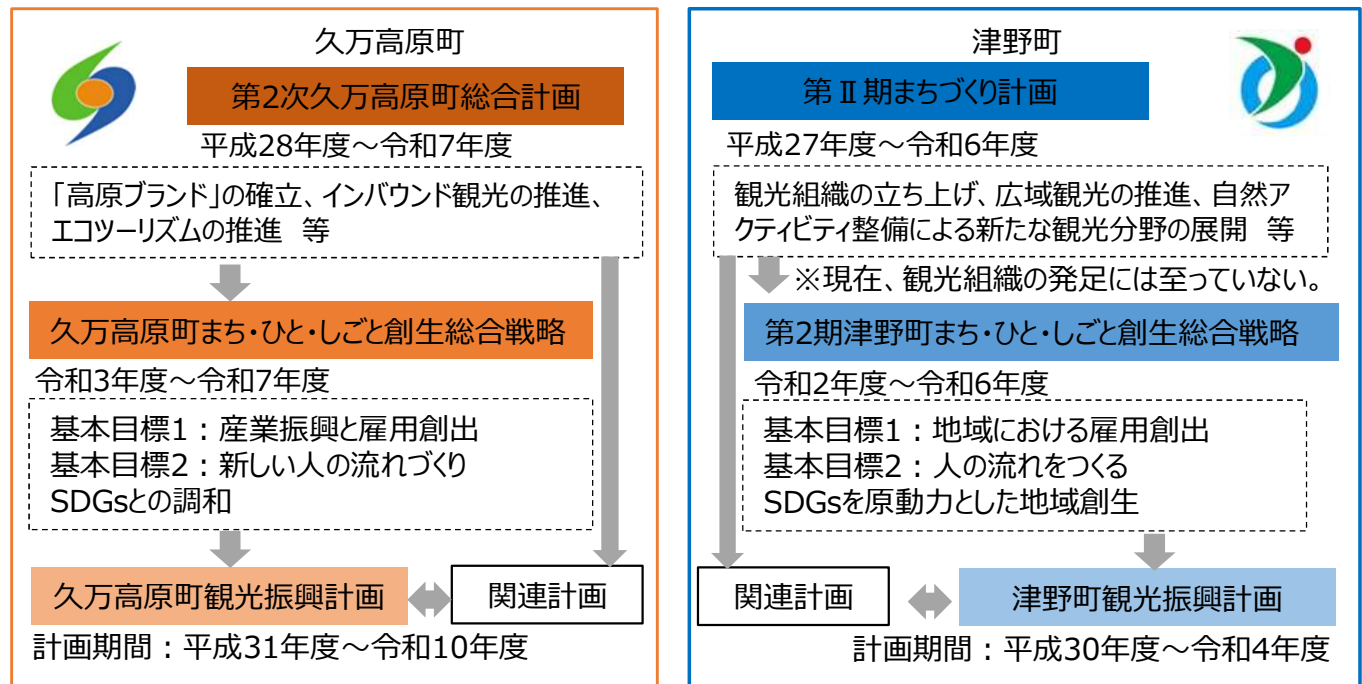
実施日・提出日	実施内容
令和4年7月27日	詳細計画書提出
令和4年8月8日 ～8月11日	現地調査
令和4年8月31日	関係者会議（開始時会議）実施
令和4年9月20日	デスティネーションプロフィール提出
令和4年10月31日	アセスメントレポート提出
令和4年11月1日	基礎勉強会実施
令和4年11月1日	中間報告会実施
令和4年11月18日	ワークショップ実施
令和4年11月30日	アクションプラン案提出
令和4年11月30日	最終報告会実施
令和4年12月12日	最終報告書提出
令和4年12月16日	契約終了

2. 事業報告

● 対象地域の現状

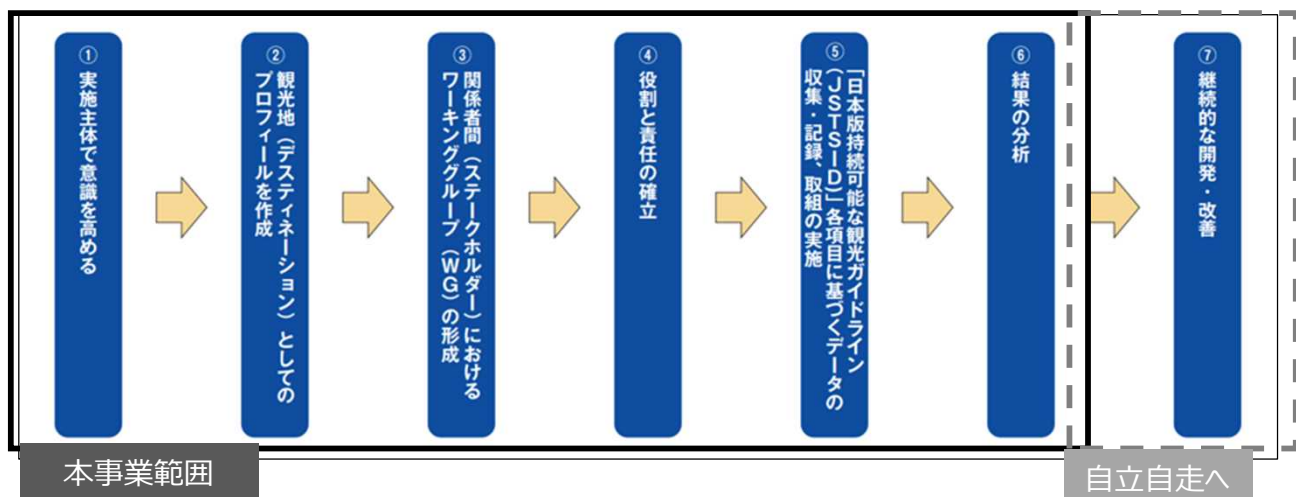
久万高原町・津野町では、それぞれ第2次総合計画、第Ⅱ期まちづくり計画の中で観光推進の方針を下図のとおり位置付けている。また、前提として下記3点については、両町共通した取り組み意向を持っている。

- ①サステナブルツーリズムやJSTS-Dに関する関係者の共通理解を促進し、観光分野へ活用したい。
- ②本事業の機会を活用し、自治体間連携の強化・促進につなげたい。
→組織化には至っていないが、連携に向けた情報交換（愛媛県：久万高原町、西予市、内子町、高知県：津野町、梼原町）を行っているので、本事業における久万高原町と津野町の連携を波及させていければ良い。
- ③持続可能な観光地としての認証取得も検討していきたい。



● 事業の進め方

各業務は2020年6月に観光庁が作成した「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」（以下、JSTS-D）が示す手順に沿って進めた。下図、①から⑥を事業範囲とし、観光庁やUNWTOが作成した資料やツールを活用しながら⑦を念頭に各業務を進め、対象自治体の自立自走のステップアップに繋げることとした。



出典：JSTS-D（2020年6月観光庁）17頁「指標導入のステップ」にリバルタ（株）で事業範囲を追加

2-1. 関連情報の収集・分析

事業対象自治体における持続可能な観光地経営の取り組みに関する現状、J S T S - Dに準拠した観光開発を実施するに当たっての課題などの整理・分析を下記手順で実施した。

①現地調査



事業対象自治体・観光関連機関等に対して、調査目的、調査内容の説明をしたうえで、現地調査を通じてヒアリングを行った。

②デスティネーションプロフィールの作成



観光地としての地域の属性や全体像を明確化するため、デスティネーションプロフィールを作成した。

③アセスメントレポートの作成



効率的に地域の自己分析を行うためのアセスメントレポートを作成した。

④基礎勉強会

持続可能な観光における世界の潮流や事例紹介、観光庁の取り組みについて関係者が共に学び、共通理解に繋げる場を設定した。

2-1-1. 現地調査

(1)調査目的

久万高原町と津野町の2町を対象に、デスティネーションプロフィール並びにアクションプランの作成に先立ち、JSTS-Dに照らし合わせた観光開発の現状把握や課題抽出を目的とした現地調査を実施した。

(2)調査概要

現地調査は下記の通り実施した。

- 日時 : 令和4年8月8日（月）～11日（木祝）の3泊4日
 - 実施方法：現地訪問による視察及び関係者ヒアリング
 - 同行者(*) : 久万高原町ならびに津野町の担当者、四国運輸局、リベルタ（株）
- *現地調査の同行者詳細については次項参照。

(3)調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	大瀬戸 美樹	株式会社 ソラヤマいしづち	
3	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
4	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐
5	事業実施主体	小倉 一仁	国土交通省 四国運輸局	観光部 部長
6	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長
7	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
8	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員

(4)新型コロナウイルス予防対策

現地入りに際しては、愛媛県と高知県両県の感染状況ならびに対策状況を確認し、さらに愛媛県久万高原町と高知県津野町への県外からの移動についての制限が無いことを確認の上、下記の予防対策を講じた。

【新型コロナウイルス予防対策】

- ①調査前：県外より現地入りする者（四国運輸局、リベルタ（株））の4名については、事前の検温や体調管理を行い、発熱や体調不良がないことを確認。さらに、リベルタ（株）については、到着前4～8時間以内のPCR検査にて陰性を確認した。
- ②調査中：検温、施設入館時のアルコール消毒、マスク着用を徹底。
- ③調査後：2週間の経過観察。
→参加・同行者や現地受入側の体調不良や発熱報告なし。

現地入りにおいては、愛媛県ならびに高知県公表の県外からの移動に関する対策も参考とした。

●愛媛県

県職員の県外出張における新型コロナウイルス感染防止対策チェックリスト	
R2.10.29改訂	
1 出張前の対応	
☐	出張先の自治体における感染の発生状況や感染防止対策等をHPなどで確認する。
☐	訪問先企業等における感染の発生の有無や、個別の対策の状況を事前に確認する。
☐	出張当日でも発熱等の風邪症状がある場合は、出張を見合わせる。
☐	厚生労働省（COCOA）及び出張先自治体の接触確認アプリを登録する。
2 出張中の対応	
☐	発熱等の風邪症状が生じた場合には、その後の用務は見合わせる。
☐	マスクは可能な限り常時着用し、マスクなしでは会話をしない。 ※濃厚接触者の定義：陽性者と1m程度の距離で、マスクをせずに15分以上会話をした場合など
☐	面会相手や時間、移動経路、訪問場所など、出張中の主な行動を記録に残す。
☐	3密対策が取られていない、又は混雑して他人との距離が確保できない店舗（飲食店、小売店など）の利用は控える。
3 出張後の対応	
☐	上記1及び2の感染防止対策を徹底することで、帰県後の自宅待機等は不要とする。 ただし、体温を測定するなど健康管理を適切に行い、発熱等の風邪症状が生じた場合には、出勤等は行わず、医療機関等に連絡し、相談・受診する。 （※相談センター：089-909-3483）

出典：愛媛県ホームページ（新型コロナウイルス感染症に関する情報）

●高知県

他県から高知県との往来についてのお願い（令和4年4月20日から）

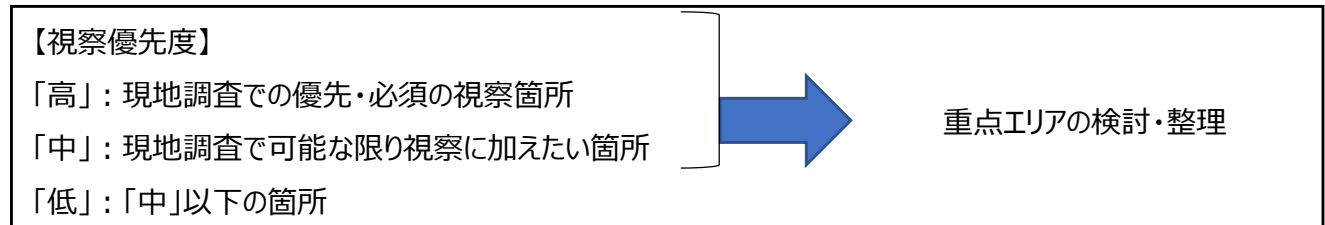
- 1 発熱などの症状がある方や体調の悪い方は、帰省や旅行を控えてください。
- 2 高知県へ旅行や帰省をする際、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方と接する機会がある場合など、感染防止の必要性が高い場合には、事前に「**ワクチンの3回目接種**」又は「**抗原定性検査等による陰性確認（※）**」することを推奨します。
※県外にお住まいの方は、お住まいの都道府県で無料の「抗原定性検査等」を受けることができます。
- 3 高知県で会食する際は、可能な範囲で規模を縮小し、可能な範囲で時間を短縮いただくようお願いします。
飲食店を利用する際は、できる限り「高知家あんしん会食推進の店」の認証店を利用していただくようお願いします。
- 4 多人数での会食など、感染防止の必要性が高い場合には、参加者全員について、「**3回目のワクチン接種歴の確認**」又は「**抗原定性検査による陰性確認**」をした上で、実施することを推奨します。
- 5 特に、飲酒の場などでの「献杯・返杯」や「大声での会話」、「マスクを外してのカラオケ」など、**感染リスクの高い行動は、控えるよう**お願いします。

出典：高知県ホームページ（新型コロナウイルス感染症に関する情報）

(5)視察先の選出

現地調査に先立ち、観光資源の視察候補を抽出した。なお、抽出にあたっては視察先を選定することを目的に、久万高原町ならびに津野町へ観光スポットのリスト化を依頼し、2町のリストを一つに取りまとめて両町へ共有した。さらに、自治体区分として「共通」「久万高原町」「津野町」の3つに分類した。

また、抽出された観光スポットについては持続可能な観光地経営の観点（現状課題の発生状況等）より、現地調査での視察優先度を「高」「中」「低」の3段階で自治体担当者に判断いただき、調査行程を決める際の参考とした。



下表中の「関係者・施設名等」は調査の視察・ヒアリング対象とし、本事業への参画候補者として位置付けた。なお、現地調査日程が四国カルストの夏季ハイシーズンと重なるため、現地での関係事業者（民間事業者）へのヒアリングは可能な範囲でのみ実施した。

①共通：四国カルスト

2町共通の観光資源である四国カルストでは、久万高原町で2つの観光スポット、津野町で2つのスポット、計4つのスポットを選定し、現地調査で視察した。

なお、四国カルストは久万高原町ならびに津野町に加え、愛媛県の内子町、西予市、高知県の梶原町の1市4町にまたがるエリアであり、今回は久万高原町ならびに津野町の2町合同での調査事業であることを踏まえ、最優先エリアと設定した。

No.	観光スポット	エリア区分(＊)	関係者・施設名等	視察優先度	視察内容
1	四国カルスト 姫鶴平～天狗高原	久万高原町 柳谷	柳谷産業開発公社 ・姫鶴荘 ・姫鶴平キャンプ場	高	✓概要の把握 ✓課題の抽出 ✓ヒアリング
		津野町 天狗高原	カルストテラス館長 ・カルストテラス ・キャンプ場・バンガロー (四国カルスト県立自然公園内)	中	
			(一財)天狗荘 ・星ふるヴィレッジTENGU ・セラピーロード	高	
2	四国カルスト E-bike体験	久万高原町 柳谷	・姫鶴荘	中	
		津野町 天狗高原	・星ふるヴィレッジTENGU ・カルスト学習館		

＊エリア区分：四国カルストはそれぞれ、久万高原町の観光振興計画（2019-2028）では「柳谷エリア」、津野町観光振興計画（2018-2023）では「天狗高原エリア」と区分されている。

②久万高原町

久万高原町の観光資源としては、2エリア・4つの観光スポットを選定し、現地を視察した。最優先エリアの四国カルストに次ぐ優先エリアとしては、交通渋滞や観光客マナーの観点から面河エリアを想定。

No.	観光資源	エリア区分 (町内)	関係者・施設名等	視察 優先度	視察概要
1	石鎚スカイライン～土小屋 ～石鎚山	面河	・石鎚スカイライン ・土小屋Terrace ・国民宿舎石鎚 ・山荘しらさ (いの町)	高	✓資源の概要把握 ✓課題の抽出 ✓ヒアリング
2	面河溪		・面河溪 ・溪泉亭面河茶屋 ・鉄砲石川キャンプ場 ・面河山岳博物館	高	
3	国名勝古岩屋～四国のみ ち	美川	・国民宿舎古岩屋荘 ・名勝地内遊歩道	中	✓資源の概要把握
4	四国霊場第4 5番札所 岩屋寺		・岩屋寺	高	

* エリア区分（町内）：久万高原町の観光振興計画（2019-2028）に基づき、「久万」「面河」「美川」「柳谷」の4エリアで分類。

③津野町

津野町の観光資源としては、2エリア・8つの観光スポットを選定し、現地を視察した。最優先エリアの四国カルストに次ぐ優先エリアとしては、観光開発の観点から源流点・風車エリアを想定。

No.	観光スポット	エリア区分 (町内)	関係者・施設名等	視察 優先度	視察内容
1	遊山四万十 せいらの里	源流点・風車	・遊山四万十 せいらの里	高	✓資源の概要把握 ✓課題の抽出 ✓ヒアリング
2	四万十川源流点			高	
3	稲葉洞 ※1			高	
4	焼物工房 白石集落活動センター		・白石集落活動センター	中	✓資源の概要把握 ✓ヒアリング
5	貝ノ川棚田		・棚田保存会	低	
6	不入溪谷（四国カルスト県 立自然公園内）	不入・裏源流	・なし ※2	中	✓資源の概要把握
7	フォレストアドベンチャー・高知 （四国カルスト県立自然公 園内）		・(有)谷脇工業	高	✓資源の概要把握 ✓ヒアリング
8	吉村虎太郎邸 早瀬の一本橋 諏訪神社		・吉村虎太郎邸	中	

* エリア区分（町内）：津野町の観光振興計画（2018-2023）に基づき、「天狗高原」「不入・裏源流」「源流点・風車」の3エリアで分類。

※1 稲葉洞：メディア取材中につき、入口までの視察のみ。

※2 なし：観光スポット内で利用可能なE-bikeレンタル対応窓口（カルストレンタサイクルステーション・カルストテラス）は休業日

(6) 現地調査の行程

前項の視察リストをもとに、以下の行程で現地調査を実施した。

なお、共通エリアの四国カルストのうち両町共通のスポットについては8月9日に2町合同での視察を行った。

日程	行程	時間		内容
		入	出	
8月7日 (日)	前日入り	---	---	【宿泊】伊予市内
8月8日 (月)	久万高原町	8:45	---	久万高原町役場着後 移動開始
		10:15	11:00	石鎚スカイライン～石鎚土小屋周辺調査
		11:30	13:30	面河溪谷内調査（溪泉亭：昼食）
		14:00	15:30	四国霊場第45番札所岩屋寺調査
		15:45	17:00	国名勝「古岩屋」～四国のみち調査
		17:15	18:00	国民宿舎・古岩屋荘にてフォローアップミーティング
		---	---	【宿泊】内子町内
8月9日 (火)	2町合同	10:15	10:30	四国カルスト「姫鶴荘」 姫鶴平調査
		10:30	12:00	四国カルスト「E-bike」体験試乗
		13:00		カルスト内遊歩道散策（姫鶴平～五段高原周辺）
		15:00	17:00	カルストテラスにて関係者ミーティング
		---	---	【宿泊】久万高原町内（ふるさと旅行村）
8月10日 (水)	津野町	9:30	10:30	星ふるヴィレッジTENGU（ホテル・プラネタリウム・天文台）
		10:30	12:00	四国カルスト県立自然公園（バンガロー・セラピーロード）
		12:00	13:00	昼食（吉村虎太郎邸）
		13:00	14:00	吉村虎太郎邸、早瀬の一本橋、諏訪神社
		14:00	15:00	フォレストアドベンチャー・高知
		15:00	16:00	不入溪谷
		16:00	17:00	海洋センターにてフォローアップミーティング
		---	---	【宿泊】津野町内（葉山の郷）
8月11日 (木祝)	津野町	9:30	10:00	道の駅布施ヶ坂
		10:00	10:30	稲葉洞
		10:30	11:30	四万十川源流点
		12:00	13:00	昼食（せいらんの郷）
		13:00	15:00	焼物工房、白石集落活動センター
		15:30	16:30	貝ノ川棚田
		17:30	---	【宿泊】久万高原町内（古岩屋荘）
		調査終了		

(7)ミーティング

3泊4日の現地調査日程途中、3回のミーティングを実施した。

- ①久万高原町フォローアップミーティング
- ②2町合同ミーティング
- ③津野町フォローアップミーティング

各ミーティングの内容については、以下の通りである。

- ・事業全体や各町の観光全体に係る内容：(7) ミーティングに記載
- ・観光スポットや施設に関する詳細：(8) 視察内容に記載

1. 久万高原町フォローアップミーティング

8月8日(月) 視察後、於古岩屋荘



	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	大瀬戸 美樹	株式会社 ソラヤマいしづち	
3	事業実施主体	小倉 一仁	国土交通省 四国運輸局	観光部 部長
4	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長
5	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
6	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員

【内容】：面河エリアの視察内容の補足ならびに久万高原町全体の観光に関する情報共有を行った。

●久万高原町の観光

①ハード整備

昭和50年代以降に進んだ。施設開発として、昭和52年に久万高原ふるさと旅行村(旧久万町)、平成に入り天文台や面河山岳博物館の建設。平成の終わりに道の駅天空の郷さんさんを整備。観光が昭和で止まっているとも言われており、施設等の維持継続が今後の課題となる。

- ・ふるさと旅行村：利用者は減少
- ・古 岩 屋 荘：跡地計画も検討中。着工は昭和49年。四国遍路が減少しており売上減少。昔は泊まってから札所44、45番というルートだったが、交通環境が変わり、宿泊の必然性がなくなった。
→人材不足も深刻で、10年後には運営スタッフ(部屋の清掃等)もいなくなるおそれがある。
- ・Wi-Fiの未整備も課題。久万高原町は光ファイバー、博物館は通信環境が未整備、美術館はWi-Fiあり。
→弱みでもあるが、デジタルデトックスやウェルネスツーリズムをテーマにできるのではないか。

②ソフト面

- ・道後温泉に泊まる旅行者向けの商品造成：道後温泉に+1泊のコンテンツ化
道後プリンスホテルからオープンバスで四国カルスト・面河溪などを巡るツアー開発(プリンセストラベル)が決まっていたが新型コロナウイルスの影響で流れた。道後温泉には久万高原町のパンフレットを提供している。
- ・コロナの影響は大きく、コロナ前には道の駅天空の郷さんさんに寄るバスツアー(団体 40名、一人2,500円くらい消費)が催行されていたので売上が減少。
- ・自然資源はあるが使い切れていない。

③観光推進体制

- ・久万高原町観光協会
アウトドア専用のページを作り、情報発信している(日本語、英語、繁体字)
- ・ソラヤマいしづち
四国近県向けにコンテンツの取りまとめ、モデルルート等まで見せる旅マエの情報発信を重点的に実施。
-アウトドア・・・全国どこでもある
-教育旅行・・・SDGsを題材に訴求しやすい(高知県土佐郡大川村：鉾山で発展し、後に早明浦ダムに役場などが沈んだ。全国最小人口(2020年10月まで、離島を除く)で廃村の歴史や痕跡もあり、移住者が増加傾向。昭和60年頃：農村修学旅行(神奈川県)の受け入れを3年くらいやった。)

2. 2町合同ミーティング

8月9日（火）視察後、於カルストテラス

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	大瀬戸 美樹	株式会社 ソラヤマいしづち	
3	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
4	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐
5	津野町	向井 利夫	一般社団法人 奥四万十高知	事務局長
6	事業実施主体	小倉 一仁	国土交通省 四国運輸局	観光部 部長
7	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長
8	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
9	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員

【内容】：四国カルストに関する各町の情報共有、本事業に関する意見交換等を行った。

①四国カルストについて

●久万高原町

- ・愛媛県の公式観光サイト「いよ観ネット」において四国カルストのアクセス数が道後温泉を抜いて一位。
- ・サイクリング用マップ：四国カルスト版も作成、配布中
- ・四国カルストマップ：久万高原町全体の観光パンフレット「久万高原ソトアソビ」よりも人気がある
 - 日本語：在庫なし（松山城、大阪南港（オレンジフェリー）、松山港に配置）
 - 英語：在庫あり
- ・四国カルストは立ち寄りや食事のみでアクティビティが必要なため、E-bikeを導入した。
- ・四国カルストらしい体験として、
 - 牛を使った体験（餌やり、牛ひき）を検討している。隣接するいの町では、冬季通行止めの状況から、雪上車体験を実施していたがコロナで休止している。
 - 高地トレーニング

愛媛県内の大学のトレーニング地として試験的な受入を検討。星ふるヴィレッジTENGUや姫鶴荘で20名～30名受け入れが可能であるが、車が多いという懸念点がある。現在は町内別エリアにて実施している。

●津野町

・ハード面

老朽化が課題だったが、県のハード整備サポートで星ふるヴィレッジTENGU改修時に周辺施設の老朽化の課題も解決できた。昨年度はカルストテラス、本年度はバンガロー、遊歩道（県有施設）を整備中。

・ソフト面（運営）

津野町が星ふるヴィレッジTENGUに委託。カルストテラスの活用方法としてカフェを導入

したいが、現在、県の条例が未整備。カルストテラスの運営については、県知事と意見交換。暫定的に、今年度は津野町が運営する流れになったが、運営スタッフがいない。人材不足。

・ソフト面（資金）

観光系の事業や大型バス助成等の補助金事業などを活用していきたい。

・四国カルストには観光客が来ているので、町として2番目のキラエリアを作りたい。

→四万十川源流点エリアを想定

- ・次回のNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」は牧野富太郎がモデルのため、高知への来訪者の増加が予想される。県立牧野植物園をはじめ、牧野氏にまつわるスポットとして四国カルストが注目されるため、大型バスが入れるルートが必要。

(前頁続き)

●人材不足への対応

- ・津野町では地域活性化起業人の制度を活用し、(株)五藤光学研究所の小澤氏を招き、天狗高原の星ふるヴィレッジTENGUの天文台やプラネタリウムのソフト面を強化中。現在、3年任期の2年目。
- ・地域おこし協力隊
久万高原町は8名、津野町は2名

②本事業について

- ・関係者会議 (オンライン)
-8月31日 (水) 18:00~
-参加対象者は自治体、連携DMO、観光協会、観光に従事する事業者や個人関係者
- ・久万高原町：西予市、内子町、梶原町へ案内ならびにオブザーブ参加依頼
- ・参加対象者については、サステナブルやSDGsの理解が曖昧で、JSTS-Dについては全く知らない方が多い。
今後、基礎勉強会が予定されているが、事業冒頭にわかりやすく伝えていただきたい (津野町)
→実施計画書に沿った説明は最小限にとどめ、理解促進を最優先とした内容で調整する。

3. 津野町フォローアップミーティング

8月10日 (水) 視察後、於海洋センター

	区分	氏名	所属	役職
1	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
2	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐
3	事業実施主体	小倉 一仁	国土交通省 四国運輸局	観光部 部長
4	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長
5	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
6	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員

【内容】：視察内容の補足ならびに津野町全体の観光に関する情報共有を行った。

* 2. 2町合同ミーティング (8/9(火)) について資料で補足説明。

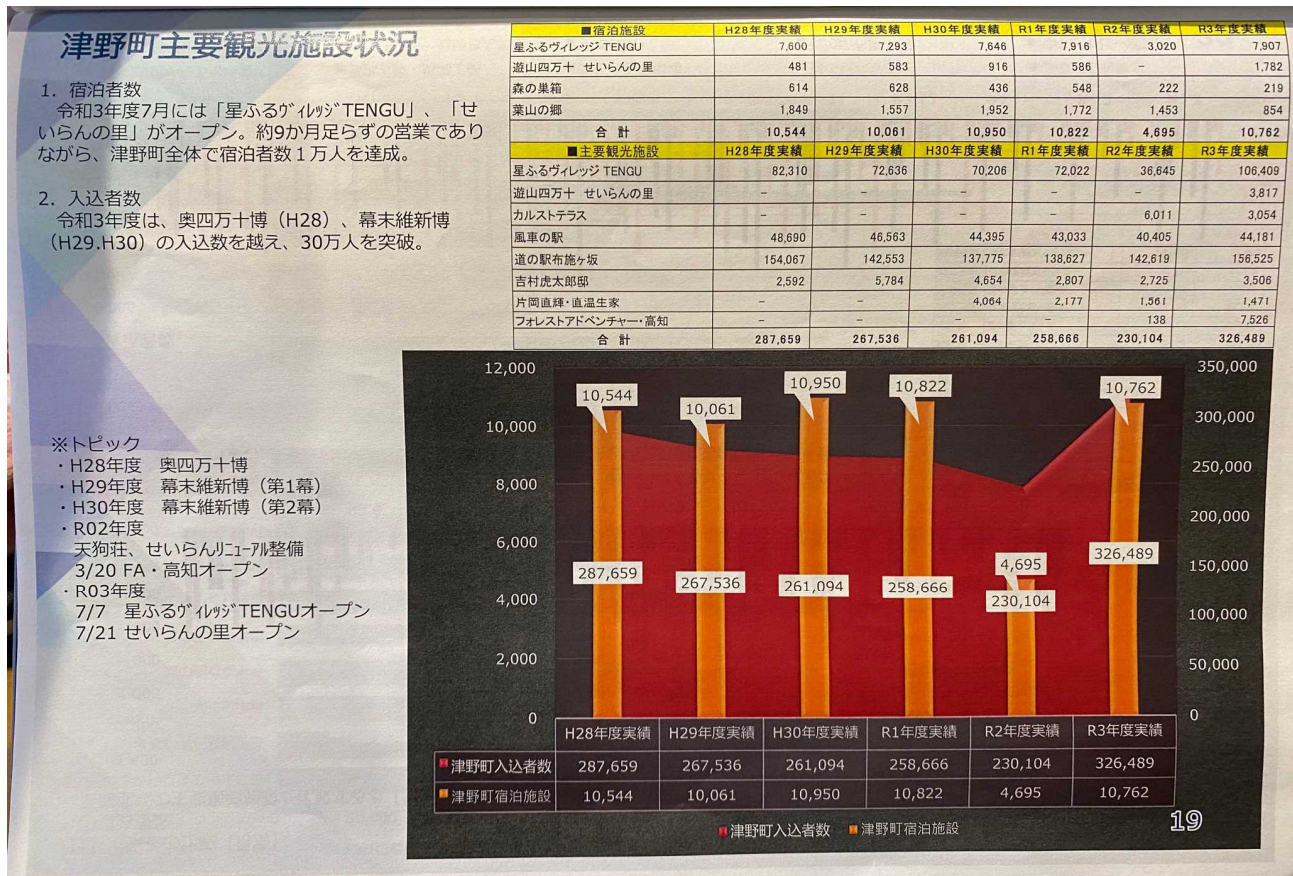
●インバウンドのターゲット

2014年には55人だったが、2017年には348人で6倍に伸長。主な市場は台湾、香港、シンガポール。特に多いのは香港で、コロナ直前は香港400人、台湾78人、シンガポール45人。天狗高原が香港の雑誌に載ったことが影響している。

●新型コロナの影響

星ふるヴィレッジTENGUはコロナの影響を受け入込客数が減少したが、道の駅布施ヶ坂は令和2年、3年と入込客数が増加傾向にある (高知県内の他地域の道の駅は減少している)。その要因としては、星ふるヴィレッジTENGUのリニューアル効果や観光客が海側から山間部に流れてきている可能性が考えられる。

(前頁続き)



出典：津野町 説明資料の一部

(前頁続き)

●持続可能な観光（JSTS-D）について

・財源について

天狗高原の駐車場やトイレが無料でマナー低下も課題だが、有料化を検討できないか（四国運輸局）
→議会を通す必要性があり、入込客数減少の可能性も考えられるため理解を得るのが難しい（津野町）

・ゴミ処理について

- 星ふるヴィレッジTENGU:ゴミの分別回収はしていない
- 道の駅布施ヶ坂：小さなゴミ箱のみ設置

・人材不足への対応

季節変動があるため、通年雇用が難しい。また、町内が広い移動のハードルもある。
→他地域事例だが、長野県小諸市では夏季の宿泊施設の清掃スタッフ不足を解消するため、ハイシーズンにはアルバイトの時給を3,000円（通常期の約2.5倍）にして対応する宿泊施設がある。清掃時間が短いために実施が可能（リベルタ）

●観光の推進体制

・観光協会について

負担金と効果、維持の面で設立が難しい。地方創生交付金を使って設立した場合、3年後自走できるのかという課題があり進んでいない。

・（一社）奥四万十高知

津野町の観光に関する情報発信等を担っている。

(8)視察内容

① 共通：四国カルスト

1. 姫鶴平～天狗高原

日本三大カルストの一つであり、愛媛県と高知県をまたぐ尾根沿いの約25kmに広がるカルスト大地。標高1000～1500mには風力発電の風車や遊牧された牛など、開放感あふれるのどかな風景が広がる。新型コロナウイルスの世界的流行による旅のスタイル変化やアウトドア人口の増加により、近年、夏季ハイシーズンには観光客が集中するオーバーツーリズムのエリアとなっている。



出典：四国カルストマップ 久万高原町観光協会

【視察先（内容）】

➤ 久万高原町

- ・姫鶴荘
- ・姫鶴平キャンプ場、コテージ

食事処を併設する宿泊施設。絶景を目前に味わえるバーベキュー（要予約）や、アマゴ料理のランチがおすすすめ。客室のほかケビンやキャンプ場も併設。E-bikeのレンタルも行う。

➤ 津野町

（四国カルスト県立自然公園内）

- ・カルストテラス
カルストの地質などを学べる高知県の施設。ワーケーション、レクチャールーム、キッズルームなどのスペースを設けている。
- ・キャンプ場・バンガロー
令和4年度改修予定。
- ・星ふるヴァレージTENGU
星を中核とした町有のホテルで、プラネタリウムや(株)五藤光学研究所の天文台を併設。ホテル内に高知県と愛媛県の県境があることでも話題となっている。レストランを併設しており、現在、四国カルストの津野町側エリアでは唯一の飲食施設でもある。
- ・セラピーロード
森林セラピー基地にも認定されており、ヒノキのチップを敷き詰めた道。終点には地球の割れ目といわれる大引割がある。

【関連事業者・団体等】

➤ 久万高原町

- ・柳谷産業開発公社：姫鶴荘、姫鶴平キャンプ場、レンタサイクルステーション等の管理・運営

➤ 津野町

- ・カルストテラス館長：カルストテラスの管理・運営
- ・（一財）天狗荘：星ふるヴァレージTENGUの管理・運営
- ・(株)五藤光学研究所：星ふるヴァレージTENGU内の天文台の管理・運営、プラネタリウムの企画等

【ヒアリング】

馬場誠氏（カルストテラス館長）

- ・カルストの自然に関するガイドを行っている。ガイドやテラス運営を通じてカルストの自然を守っていききたい。
- ・コロナ後の観光客は客層が変わったと感じる。山登りやアウトドア未経験の新規ユーザーが増えたため、マナーが低下している。カルストテラス前の無料トイレについて、一部の利用者（キャンプ客）のマナーが悪くトイレトーパーの持ち帰りも多い。

倉橋盛男氏（星ふるヴィレッジTENGU 支配人）

- ・四国カルストには施設が限られるため、宿泊者以外の対応に追われることが多い。例として、キャンプ場に出た怪我人の対応（救急搬送を含む）など。明確な連絡体制やマニュアルはないが、状況に応じて姫鶴荘と連携協力のうえ対応している。
- ・夏季ハイシーズンの7,8月は予約がすぐに埋まるほど人気だが、冬季は宿泊客も減る。そのため通年での安定雇用が難しく、常駐スタッフに限りがある。人員不足のため、夏季も100%稼働できていない。

小澤祐二氏（株式会社五藤光学研究所、津野町地域活性化企業人）

- ・四国カルストは光の影響が少なく、星空が非常に美しい。観光客だけでなく、地域の小学生向けの教育の一環として天文台やプラネタリウムを活用している。
- ・北半球と南半球の星座は異なるため、インバウンドを想定する場合には南半球の人であれば「ここでしか見られない星座」を楽しむことができる。

【現状】

➤ 共通

- ・観光客は県外や四国外（関西圏や関東圏）が多い。
- ・観光客に対して水の供給量が不足し、水源地の問題がある。
- ・ライダーやサイクリストのニーズに合うため、こうした来訪者も多い。

➤ 久万高原町

- ・姫鶴荘：宿泊、飲食。ツイン12室。貸別荘5棟。飲食英語メニューあり。
夏場にアイスが好評だが人手が少なく限界がある。
- ・冬季には全面通行止めとなるため、姫鶴荘も冬季休業（営業は4月頃～11月頃まで）。
- ・キャンプ場利用者の基本ルール：ごみの持ち帰り、直火での焚き火と花火の禁止、騒音防止 等
- ・キャンプ場の利用は予約受付しておらず、直接受付のみの対応。
- ・利用料金：テント1張500円（税込み）、車中泊1台500円（税込み）
- ・姫鶴荘の給水確保や交通渋滞緩和のため、2面あるグラウンドの1面のみキャンプ場として使用し、1面は駐車場として利用。
- ・トイレの数に限りがあり、ハイシーズンには女性トイレで長い行列ができる。
- ・姫鶴荘の労働者の高齢化（シルバー人材センター）とともに人手も不足。
- ・キャンプ利用者の増加に伴い、キッチンカー出店を管理。町内事業者や高原ブランディングの路線に合う事業者限定している。
- ・冬季閉館により雇用の身分保障が課題。
- ・急患等の対応に時間がかかる。

➤ 津野町

- ・幹線林道と県道48号線および県道304号線ルートは冬季通行止めなし。
- ・冬季の宿泊者（星ふるヴィレッジTENGU）向けに、津野町内からの無料送迎サービスを実施している。
- ・星ふるヴィレッジTENGUは1室のバリアフリー対応の部屋がある。部屋のインフォメーションは日本語だけだが、館内表記は5カ国に対応している。英語対応できるスタッフは1名。
- ・星ふるヴィレッジTENGUが唯一の施設であるため、宿泊や飲食以外の対応（交通トラブルや怪我人が出た際の対応など）を求められる事もある。AEDは館内1台の設置。
- ・遊歩道を整備中。令和4年度に完了予定。
- ・星ふるヴィレッジTENGUは人材不足のため、夏季ハイシーズンに100%稼働できていない。
- ・トイレトーパーの持ち帰りなど、来訪客のマナーの低下がみられる。
- ・星が観光資源となり、天文台やプラネタリウムは天候に左右されない点が強み。
- ・カルストテラスは2022年4月にカルスト学習館からリニューアルした。8月の時点で2万人の入込み。館長の馬場氏はガイドもできる。
- ・カルストテラスには花についての問い合わせが多くいが、同時に盗掘も発生している。

● 参考：冬季通行止め

- ・対象地域：高知県高岡郡津野町から愛媛県西予市野村町に至る一般県道383号四国カルスト公園縦断線
- ・近年の冬季閉鎖の状況

年度	通行止め開始	解除
令和4年度	令和4年12月6日(火)16時	未定
令和3年度	令和3年11月29日(月)16時	令和4年3月18日(金)13時
令和2年度	令和2年12月14日(月)17時	令和3年3月19日(金)13時
令和元年度	令和元年12月27日(金)13時	令和2年3月10日(火)13時



出典：愛媛県ホームページ「姫鶴平キャンプ場」 柳谷産業開発公社

【共通課題（ヒアリング）】

現地視察では過度なオーバーツーリズムやごみ投棄等は見られなかったが、ヒアリングを通して下記の課題が挙げられた。

- ・各方面より四国カルストに来るまでの道が狭く、離合できないポイントが多いため交通トラブルが発生する。
- ・春から夏にかけては観光客が集中し、交通渋滞やオーバーツーリズムが発生。
原因としては、離合できない道を大型の車で安易にあがってきてしまう、また上がってくる時にナビだけ見て来るのも要因。久万高原町も津野町からのルート推奨しており、また津野町ではホームページ（津野ぶら）に推奨ルートを出している。
- ・観光客のマナーやごみ問題が生じているため、対策が必要。
- ・駐車場やトイレ等の利用が無料のため、維持管理の負担が施設側にかかってくる。
- ・労働力不足
- ・施設労働者の高齢化（シルバー人材センターの活用）

2.E-bike体験

四国カルストのロケーションを活かしたゼロカーボンの体験コンテンツであるE-bikeのレンタルが可能。久万高原町と津野町、両町それぞれにE-bikeレンタルの環境が整備されている。姫鶴平～星ふるヴィレッジTENGU間を折り返すルートで約10km。雄大な景観の中、標高1400m前後の高地を走るE-bike体験は国内でも随一。

● 参考：E-bikeコース（一例）



出典：カルストレンタサイクルステーション（久万高原町観光協会）

【視察先（内容）】

- ・E-bike:姫鶴平～津野町の折り返し10kmコース走行
- ・散策：遊歩道（津野町側）

【関連事業者・団体等】

- ・E-bikeレンタル対応窓口（現地調査でE-bikeを利用した8/9（火）はいずれも休業日）

➤ 久万高原町

四国カルスト姫鶴荘横 カルストレンタサイクルステーション

- ・ホームページ：あり
- ・予約フォーム（web）：あり、当日：店舗受付（貸出し状況による）
- ・営業期間：4月1日～11月上旬まで
- ・営業日時：土・日曜、祝日の9:00～16:00
- ※営業日3日前に雨の予報が出た場合は休止
- ・導入台数：E-bike 9台、クロスバイク 4台
- ・利用料金：・1時間以内のちよい乗りプラン：15分/500円(税込) ～1日/6,000円（税込）

➤ 津野町

カルストテラス

- ・ホームページ：あり（レンタサイクルのページは無し）
- ・予約フォーム（web）：なし
- ・営業期間：設定なし
- ・営業日時：水～日(定休日が祝日の場合は開館、翌平日が休館)
- ・導入台数：E-bike 15台
- ・利用料金：1時間/1,500円(税込) ～1日/6,000円（税込）
- * 星ふるヴィレッジTENGU宿泊者には割引あり。

【現状】

➤ 共通

- ・E-bike導入から間が無く、提供内容については準備・強化の段階。
- ・マイカーやレンタカーを側道に一時駐車して写真を撮る観光客が多い。
- ・久万高原町、津野町どちらから出発しても共通ルートを走行するため、マナーや注意点について連携しながら整備していくとより効果的。
- ・天狗荘付近に照明のないトンネル（天狗トンネル）があり、危険箇所の一つ。一時停止とライトの点灯が必須。

➤ 久万高原町

- ・webやパンフレットが整備されており、事前予約の仕組みがある。
- ・現在、E-bikeのガイドを育成中。

➤ 津野町

- ・webサイトやパンフレットは現時点では未整備。

【共通課題（ヒアリング）】

- ・現在はレンタサイクル利用料金のみのため、消費単価が低い。
- E-bikeガイド育成により、四国カルストをフィールドとしたガイドツアーの商品化によって消費単価アップ
- ・レンタサイクル利用者の増加により、マナーやルール等の新たな課題が発生する可能性があり、2町連携で対策を講じることが必要
- ・インバウンド向けの英語対応、英語表記、サイズ展開等が必要
- ・環境や生態系保護に向けた取り組みの強化が必要
- 2町（1市4町）連携のもと、カルストテラスをはじめとした施設やパンフレット等の自治体を越えた相互活用による観光客向けマナーやルールの整備、情報発信、人材育成などが重要

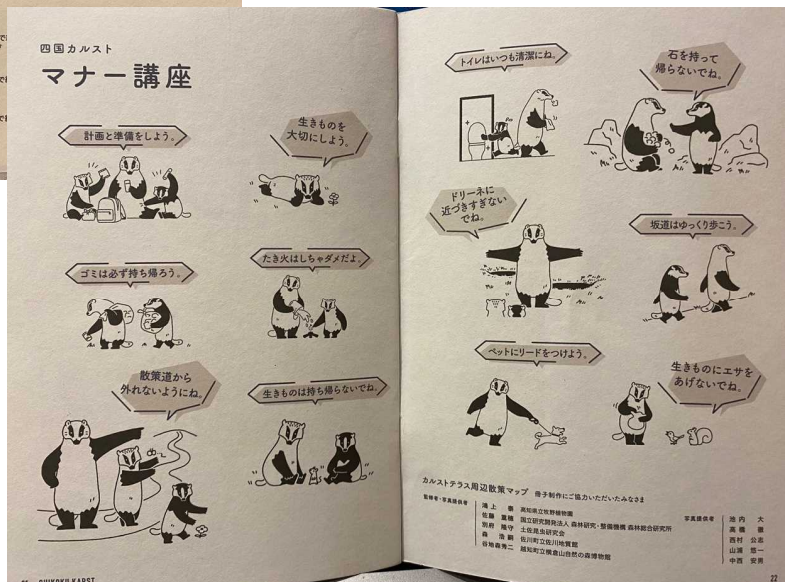
● 参考：カルストテラス 周辺散策マップ



←E-bike走行ルート

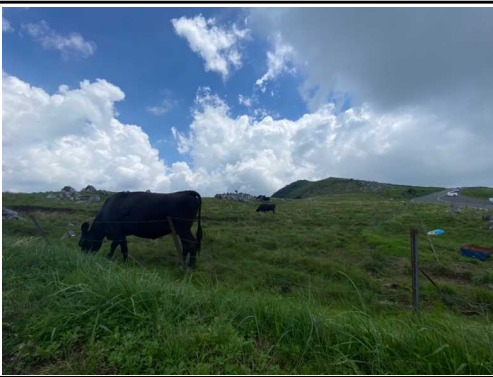
天狗高原から姫鶴平に向かう際、天狗トンネルを通らずにドリーネ群方向へ進むルートが示されている（一方通行）。

四国カルストのマナー→
四国カルストを散策する際のマナーをイラストでわかりやすく伝えている。

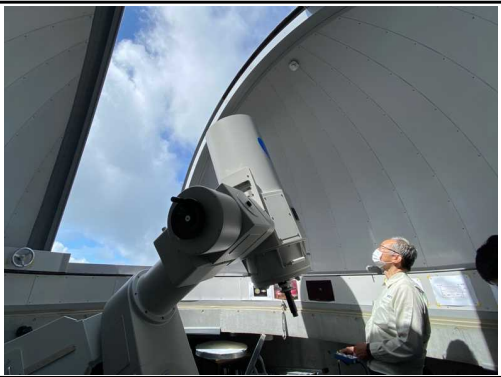


出典：カルストレンタサイクルステーション（久万高原町観光協会）

視察の様子：共通 四国カルスト（久万高原町、津野町）

	
姫鶴荘	姫鶴荘からの眺望（左側が姫鶴キャンプ場）
	
牧場の牛（五段高原）	E-bike（レンタサイクル）
	
E-bike走行の様子	展望台からの眺望
	
カルステラス遊歩道（五段高原）	天候急変の様子

視察の様子：共通 四国カルスト（津野町）

	
星ふるヴィレッジTENGU 外観	星ふるヴィレッジTENGUの一室
	
天文台	プラネタリウム
	
キャンプ場・バンガロー	星ふるヴィレッジTENGU 駐車場（大型）
	
カルストテラス	セラピーロード

②久万高原町 面河エリア、美川エリア

久万高原町においては、四国カルストに次ぐ第二の観光推進エリアとして「面河エリア」を想定し、石鎚山や面河溪周辺を視察した。さらに、エリア外ではあるが四国遍路も重要な観光資源であることから、美川エリアの一部を視察した。

1.石鎚スカイライン～石鎚土小屋周辺（面河エリア）

石鎚山の南、久万高原の北部にあり、面河溪入り口の関門から土小屋遙拝殿のある土小屋まで一気に駆け上がるドライブルート。

【関連施設の視察】

- ・石鎚スカイライン
- ・土小屋Terrace（モンベルフレンドショップ）
- ・国民宿舎石鎚

【現状】

- ・西条市側より土小屋からの登山客が多い。ピークは紅葉シーズン。
- ・国民宿舎石鎚はキャパは大きい、老朽が進んでいる。元面河村営だが現在は民間経営。
- ・飲食店は2020年7月1日に全面リニューアルオープンした土小屋Terraceしかない。
- ・従業員は同じ事業者が運営する土小屋Terraceとともにローテーションを行っている。
- ・石鎚スカイラインは、春から秋にかけては通行可能時間を設定し、冬季には全面通行止めだが、公益的利用であれば県が開けることも可能。11月に降雪がありチェーン規制がかかる場合もある。
- ・石鎚ヒルクライム(ロードレース)を実施。
- ・山岳博物館でガイド対応可能。
- ・UFOラインの自動車のCMをきっかけに、近年マイカーやレンタカー利用の観光客が増えた。
- ・通行料なし。

《石鎚スカイライン通行可能時間》

4月1日～4月28日 : 午前7時～午後6時
 4月29日～5月31日 : 午前7時～午後7時
 6月1日～6月30日 : 午前7時～午後8時
 7月1日～7月10日（お山開き期間） : 午前4時～午後8時
 7月11日～8月31日 : 午前7時～午後8時
 9月1日～11月30日 : 午前7時～午後6時
 冬季全面通行止め
 12月1日～3月31日

【課題】

- ・道が狭く、石鎚土小屋からUFOライン（いの町）に向かう道は離合できないポイントもあり、交通トラブルが発生する。
- ・松山市内や道後温泉からのアクセスも良いため、立ち寄り観光、日帰り観光が中心。
- ・石鎚山登拝者は一定層居るが、宿泊施設が限られている。
- ・スカイラインの通行可能時間があり、一般観光客の宿泊滞在につなげることが難しい。

2.面河溪谷内（面河エリア）

四国随一の溪谷美を誇り、地質学的に貴重な資源である面河溪には、四季を通じ多くの観光客が訪れる。仁淀ブルーと呼ばれ、水質と水の透明度・青さで有名な仁淀川の源流点。

【関連施設の視察】

- ・面河溪
- ・溪泉亭面河茶屋
- ・鉄砲石川キャンプ場
- ・面河地区地域運営協議会（愛称：だんだんおもご）が設立されコミュニティの構築に努力している。
- ・キャニオニングをグッドリバーが運営している。溪泉亭の1階で受付を行っている。

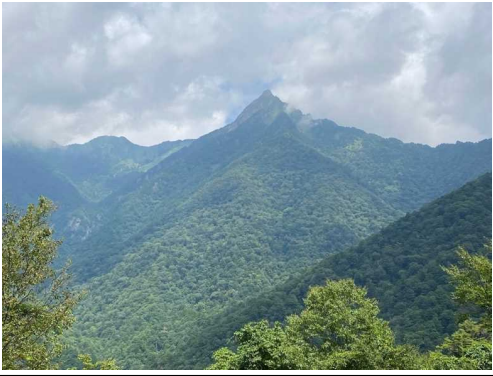
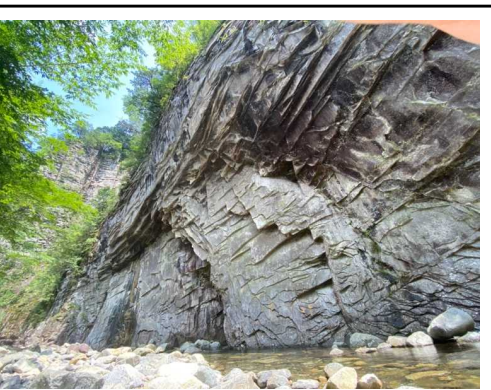
【現状】

- ・紅葉シーズンには面河溪散策を楽しむ多くの観光客で賑わう。
- ・コロナ禍でキャンプ利用が増え、マナーが低下。バーベキューで出たゴミが川辺に散乱する状況。
- ・駐車場、トイレ、キャンプ場利用は無料。

【課題】

- ・観光客、キャンプ利用者に向けたマナー啓発やルールが未整備。
- ・駐車場やトイレ、キャンプ利用の有料化については、人材不足の問題があり実現が難しい。
- ・面河溪には、消費につながるコンテンツがキャニオニングしかない。
- ・滞在時間延長のためガイド付きの面河川対岸展望台コースや鉄砲石川コースなどの造成が必要。
- ・鉄砲石川キャンプ場は県が所有し、町が管理している、無料のキャンプ場。
- ・看板が古く、設置にも国定公園のため許可が必要。
- ・携帯電話の電波が届かない。基地局を建てたいが、国定公園で環境省から許可が下りない。
- ・面河溪入口4.5km手前に「おもごふるさとの駅」があり、ポタリングを設置、周辺ガイド2名配置。

視察の様子：久万高原町（面河エリア）

	
石鎚山（スカイラインより）	土小屋 Terrace
	
国民宿舎石鎚	面河溪
	
溪泉亭 面河茶屋	鉄砲石川キャンプ場
	
鉄砲石川遊歩道	奇石 兜岩（鉄砲石川遊歩道沿い）

3.国名勝「古岩屋」～四国のみち（美川エリア）

秋の紅葉シーズンには多くの観光客が訪れる観光スポット。四国遍路の遍路道（*）沿いにも立地しており誘客が期待される。

*** 遍路道（へんろ道）**

遍路道（へんろみち）とは、四国霊場において霊場間を繋ぎ、お遍路さんが歩く道。一般的には車道も含むが、歩き遍路が使わない道（車やオートバイ・自転車などを使ったお遍路さんが狭義の遍路道を迂回するために通行する道路）は遍路道とは呼ばない。（一社）へんろみち保存協会のロゴマーク（右参照）が目印。



出典：久万高原町観光協会

【関連施設の視察】

- ・国民宿舎古岩屋荘
- ・名勝地内遊歩道

【現状】

- ・遍路道ウォークイベントを実施している。
- ・第44番札所大宝寺から第45番札所岩屋寺までの遍路道は文化遺産としての活用も検討中。
- ・お遍路さんの減少

【課題】

- ・立ち寄り観光
- ・国民宿舎古岩屋荘の老朽化、宿泊者減少。遍路宿の創出。
- ・遍路道の維持管理

4.四国霊場第45番札所岩屋寺（美川エリア）

四国霊場88か所のちょうど中間に位置する札所。NY Timesの2015年に行くべき世界の52箇所「52 Places to Go in 2015」のなかで、日本で唯一「四国」が選ばれ、その際、お遍路のイメージとして岩屋寺の写真が掲載された。

【関連施設の視察】

- ・岩屋寺

【現状】

- ・第45番札所岩屋寺からの遍路道は文化遺産としての活用も検討中。
- ・お遍路さんの減少
- ・岩屋寺遍照閣を活用した宿泊型の商品開発（インバウンド・高価格想定）

【課題】

- ・立ち寄り観光
- ・遍路道の維持管理

視察の様子：久万高原町（美川エリア）

	
岩屋寺への道	岩屋寺・本堂
	
岩屋寺・岩屋からの眺め①	岩屋寺・岩屋からの眺め②
	
岩屋寺・遍照閣	岩屋寺・駐車場
	
遍路道①	遍路道②

③津野町 源流点・風車エリア、不入・裏源流エリア

津野町においては、四国カルスト（天狗高原エリア）に次ぐ第二の観光推進エリアを検討するため、「源流点・風車」と「不入・裏源流」の2エリアを視察した。なお、2つのエリアの特徴をつかむため、視察箇所ごとの課題抽出よりも町内の観光資源の全体把握に重点を置き、資源の概要把握を中心とした。

- 四国カルスト（天狗高原エリア）以外のエリアについて

【現状（共通）】

- ・町内の宿泊施設が限られており、コロナの影響で営業を縮小している宿もあるため、夏季には予約が取りづらい状況。
- ・四国カルストからの町内周遊や滞在に至っていない。
- ・屋外、アクティビティ系の観光資源が多く、不安定な天候に左右される

1.遊山四万十 せいらんの里（源流点・風車エリア）

四万十川源流点の麓にある宿泊施設。津野町特産のお茶を焙じる体験や地元野菜や羽釜のごはんを使った食事が人気。ランチビュッフェの提供もあり、宿泊客以外の一般利用も可能。

【課題】

- ・観光分野の人材不足

2.四万十川源流点（源流点・風車エリア）

苔むした倒木や岩の間を進み源流点に辿り着く。ここから196kmに及ぶ最後の清流四万十川を生み出している。四国固有種のイシツチサンショウウオも生息しており、夏場にはよく見る事ができる。源流点がある船戸地区と裏源流がある郷地区（不入・裏源流エリア）では、それぞれの住民の方が山の手入れを行っている。

【ヒアリング】

豊田庄二氏

（よみがえれ四万十源流の会の立ち上げ人。アメゴをはじめとした徹底した生態調査や近自然河川工法の実現の立役者）

- ・四万十川は下流域が非常に有名だが、源流を生かし守ることが必要不可欠であり非常に重要。
- ・源流点は四国カルストに繋がっている。四国カルストの環境保全は四国カルストにとどまらず、麓の四万十川にも繋がっている。

【課題】

- ・観光客向けのルートとしては、トイレが無い。
- ・ルート上に案内看板はあるが、迷いやすい。
- ・上記を踏まえ、服装や装備、マナーに関して観光客向けにしっかりとした情報発信が必要。
- ・消費につながる要素が少ないため、ガイドツアー等が有効だが人材不足。
- ・源流点と四国カルストとを繋ぐストーリーや情報発信、商品開発が重要。

3.稲葉洞（源流点・風車エリア） ＊入口までの視察

四万十川は、稲葉洞を通り再び地上へ現れる。稲葉洞周辺は古代のサンゴや海綿の化石を見る事ができる、世界的にも稀な地形。

【課題】

- ・観光客向けのルートとしては、トイレが無い。
- ・服装や装備、マナーに関して観光客向けにしっかりとした情報発信が必要。
- ・化石や希少な地形の魅力を伝える手段としてガイドツアー等が有効だが人材不足。

4. 焼物工房、白石集落活動センター（源流点・風車エリア）

・焼物工房

風車のよく見える場所にあり、地元の陶芸体験クラブによる陶芸体験ができる。

【課題】

- ・一般の観光客向けのコンテンツのニーズとしては、随時体験受付できる体制が必要。
- ・インバウンド向けコンテンツのニーズとしては、土や焼き方に地域性が求められる。

・白石集落活動センター

廃校（旧白石小学校）を利用した施設。平成27年度から高知県立大学との域学連携事業により、ピザ窯の製作や地域の魅力再発見に取り組み、地域食材や自然景観、伝統文化などを活かした体験交流、新聞バッグづくりなどに取り組んでいる。シェアオフィスとしても活用中。

【ヒアリング】

松浦健吾氏（白石活性化委員会）

- ・地元食材を活用したピザ焼き体験に取り組んでおり、磨き上げていきたい。
- ・地区の人口減少とともに校舎の活用方法も変わってきたが、地域活性の取り組みとして消費につなげていくことが重要。
- ・環境面では、高齢化に伴い山の維持管理ができなくなっている。それに伴い、日陰が増え、新莊川の水温が昔よりも下がり生態系も変わりつつある。環境や生態系保全の取り組みも必要。

【課題】

- ・一般の観光客向けのコンテンツのニーズとしては、随時体験受付できる体制が必要。
- ・インバウンド向けコンテンツのニーズとしては、ターゲットの絞り込みが重要。
- ・宿泊所として活用したいが、耐震が課題。
- ・維持費負担、耐震、人手不足。

5. 貝ノ川の棚田（源流点・風車エリア）

江戸時代初期より代々受け継がれてきた棚田。10月中旬には棚田キャンドルまつりが開催され、5000本の蠟燭に火が灯り幻想的な景観が楽しめる。集落の2大イベントとして、棚田キャンドルまつりと棚田オーナー制度がある。

【ヒアリング】

大崎正氏（貝ノ川棚田保存会 会長）

- ・棚田の世話役の人手不足や高齢化が進み、維持管理が難しいため現在は約2割が耕作放棄地となっている。あと10年維持できるのか、といった思いもある。
- ・棚田オーナー制度を導入し、オーナーと地区との交流イベント等を企画して、棚田の保存活動を続けている。
- ・キャンドルまつりは、地区で始まったものだが話題となり、町全体まで協力する体制で運営しているが新型コロナウイルスの影響で2020年より中止している。関係者の高齢化も進んでおり、一度休んでいたものを再開できるパワーが残っているか、という声もある。
- ・キャンドルの風よけに使うペットボトルは、製造過程で規格外となり廃棄されるものを活用している。
- ・棚田と民家が近接しており、写真を撮る場合は配慮が必要。

【課題】

- ・関係者の高齢化による棚田の維持。
- ・耕作放棄地の増加。
- ・キャンドルに使用するプラ素材については、サステナブルツーリズムを好むインバウンドには敬遠されるので、インバウンド向けの商品化を検討する際には、プラ素材を活用している背景を伝える必要がある（あるいは、LEDキャンドルへの切り替えを検討 等）
- ・見学者のマナーのアナウンス。

視察の様子：津野町（源流点・風車エリア）

	
四万十川源流点①	四万十川源流点②
	
遊山四万十 せいらんの里とツノトク（トックトック）	稲葉洞
	
白石集落活動センター①	白石集落活動センター②
	
焼物工房	貝ノ川棚田

6. 不入溪谷（不入・裏源流エリア）

四万十川源流点のある不入山で源流点の裏側にあるため四万十川の裏源流と言われている。森林軌道跡や手彫りの隧道（トンネル）がある。車の通行は可能だが、未舗装道や車高の低い車では通れない箇所もある。ツトウでのツアーを年に数回実施。

【課題】

- ・一般観光客向けのルートとしてはトイレが無い。
- ・アクセス情報（インターネット等）が少なく、案内看板もなくわかりづらい。
- ・消費につながる要素が少ない。→E-bikeを使ったツアールート造成を検討したい（津野町）
- ・インバウンド向けには、英語対応が未整備。

7. フォレストアドベンチャー・高知（不入・裏源流エリア）

フォレストアドベンチャーは、「森林のアウトドアパーク」とよばれる施設。フォレストアドベンチャー・高知は、広大な森を利用し、ターザンスウィングやジップラインなど、さまざまなアクティビティが揃っている。

【ヒアリング】

谷脇伸弥氏（有限会社谷脇工業 取締役）

- ・高知県内3番目のフォレストアドベンチャーとして、2021年3月にオープンし、津野町の観光推進の役割を担っている。
- ・天候に左右されるため、大雨となった場合にはアクティビティが中止となる。観光客とスタッフ双方のために、雨の日のコンテンツが必要。
- ・敷地内の定期的な森林整備が山の維持・管理につながっている。
- ・全国のフォレストアドベンチャーを巡る利用者も一定層いるので、津野町の誘客につながっている。
- ・日本人以外では、アジア圏よりも欧米圏の申し込みが多い。
- ・津野町内のほかの事業者と比べると、スタッフは若手が多い。
- ・利用者からは、飲食店の情報等を聞かれることが多い。

【課題】

- ・雨の日のコンテンツ（プランB）が無い
- ・スタッフの収入安定（天候で営業が左右され正社員として常時雇用するのが難しい。）
- ・雨天でもできるアクティビティを検討中。
- ・人手不足で、求人を出しても来ない。

8. 吉村虎太郎邸、早瀬の一本橋、諏訪神社（不入・裏源流エリア）

天誅組を組織した勤皇の志士、吉村虎太郎。家の前には沈下橋の原型とも言われる早瀬の一本橋があり、橋を渡った先には諏訪神社・願成寺があり、歴史を感じられるエリアとなっている。諏訪神社の秋祭りには、五穀豊穡、無病息災を祈願する「津野山式古式神楽」が舞い納められ、国の重要無形文化財に指定されている。津野山古式神楽保存会が中心となり、地元の小中学生に神楽の指導が行われ、伝統文化の継承に力を入れている。

早瀬の一本橋：沈下橋の原形とも言われ、現在の橋脚は昭和時代に補修されたもの。現在の木製の橋は流出を防ぐためワイヤーがつけられている。

諏訪神社：神楽保存会があり、毎週練習を行い、年に1回発表も行われている。

【ヒアリング】

豊田坂江氏

（維新の魁（さきがけ）吉村虎太郎社中 「吉村虎太郎邸」復元の企画当初から携わる）

- ・観光客だけでなく、地元住民の交流の場としても活用している。その一例として、地域住民の手作り商品を販売するコーナーを構え、定期的な交流につながっている。
- ・商品の梱包には新聞紙バッグを使っている。新聞紙バックは、接客や業務の合間に制作している。
- ・着物レンタルと着付けも行っており、利用者は周辺一帯を着物で散策できる。
- ・早瀬の一本橋の維持管理は地区の重要な仕事の一つ。台風等で橋が流されることもあるが、地区の住民が一体となり、復旧作業等も行っている。

豊田庄二氏

- ・四国カルストから四万十川や仁淀川へ流れる川が、下流の地域の人の生活・文化・などに直接関わる。だからこそ源流を守って維持していくことが重要。

【課題】

- ・吉村虎太郎邸は入館料をとっていないため、消費が食事や物販、着物レンタルの利用に限られる。
- ・若手人材の町外流出による、津野山式古式神楽の後継者不足

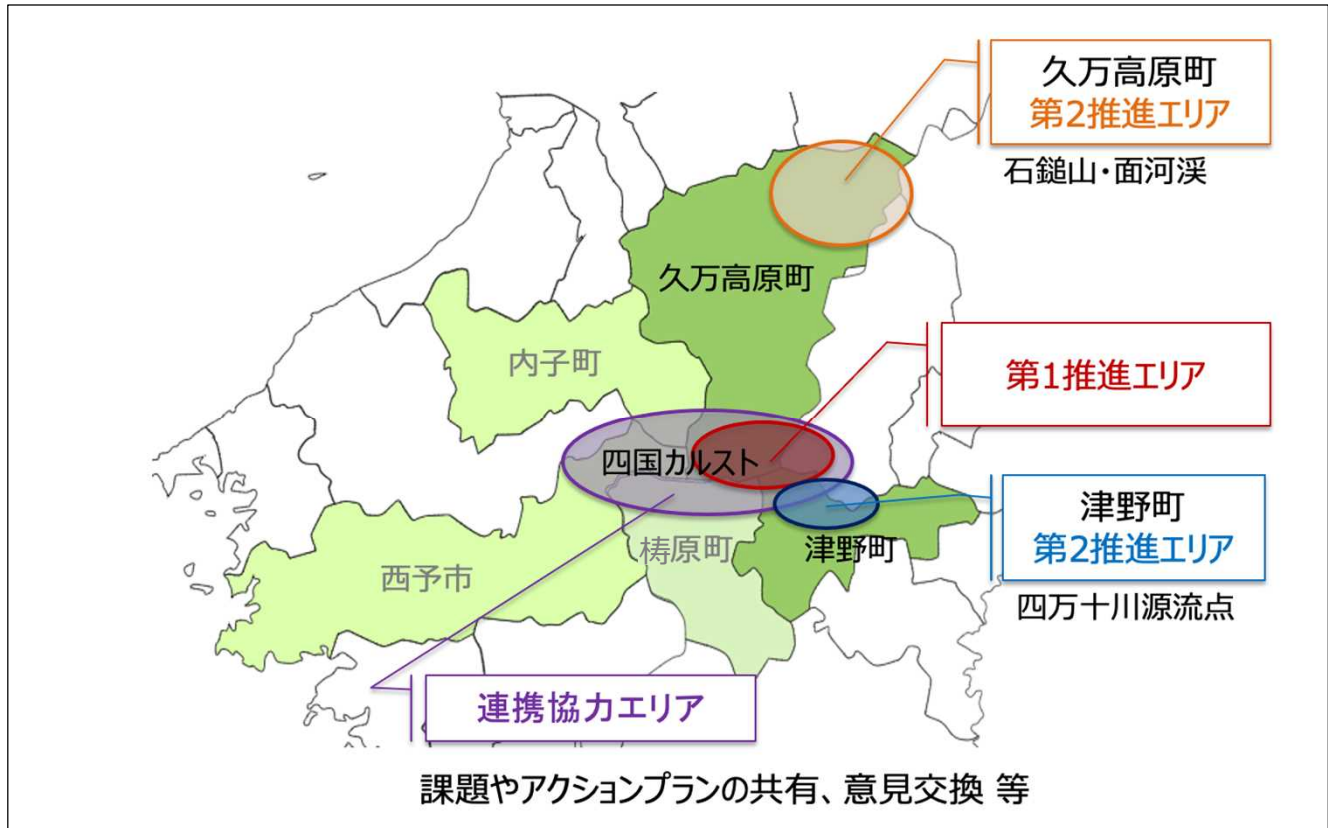
視察の様子：津野町（不入・裏源流エリア）

	
不入溪谷①	不入溪谷②
	
フォレストアドベンチャー高知①（器具の説明）	フォレストアドベンチャー高知②（器具装着の体験）
	
吉村虎太郎邸	地域住民の手作り作品（吉村虎太郎邸にて販売）
	
早瀬の一本橋	諏訪神社

(9) 今後の方向性

現地調査の視察やヒアリング内容を通じて、久万高原町ならびに津野町2町の連携・合同による調査を実施することの意義を強く感じられた。そこで本事業をより効果的に進めるため、以下のゾーニングで課題を整理した。

①本事業を進めていく上でのゾーニング



● 第1推進エリア:2町の連携強化

ハード・ソフトの両面において、これまで久万高原町と津野町の行政区としての取り組みに違いはあるものの、持続可能な観光の推進に向けたアクションプランの作成にあたっては、両町の連携協力が必要不可欠であると考え。そこで、上記の通り久万高原町と津野町、両町を含む四国カルストを第1推進エリアに設定した。

また、第1推進エリアには2町のほか、愛媛県の西予市と内子町、高知県梶原町が含まれる。本事業は2町を対象とした調査事業であるものの、アクションプラン作成や次年度以降の地域連携において1市4町での連携協力が必要不可欠であると考え。そのため、現地調査後の関係者会議や報告会の開催にあたっては、西予市・内子町・梶原町にもオブザーブとして参加いただく方向で進めていく。

本事業においては、1市2町への連絡は久万高原町が担当し、報告会の関連資料やアクションプラン等も必要に応じて共有する。

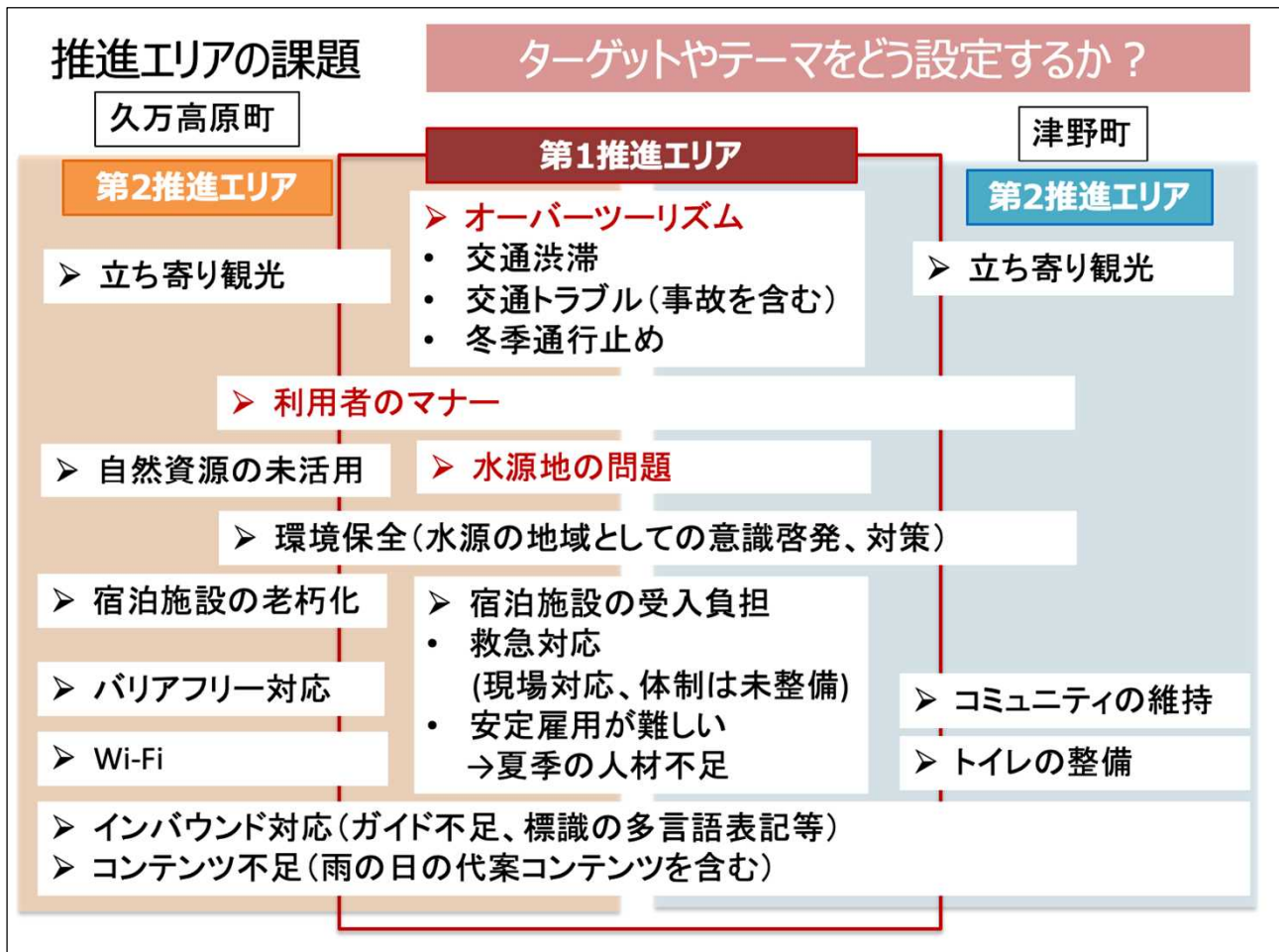
● 第2推進エリア：共通点とストーリー

四国カルストに次ぐ推進エリアとして、久万高原町は面河エリア（石鎚山・面河溪）、津野町は源流点・風車エリア（四万十川源流点）に設定する。設定理由としては各町の意向に加え、いずれのエリアも四国を代表する清流の「源流点」がある点に着目した。

- ・面河溪：仁淀川の源流点（石鎚山系）
- ・不入山：四万十川の源流点（四国カルスト系）

今後のアクションプラン作成や次年度以降の観光関連事業（主に商品造成やガイド育成等）の推進において、清流の源流を守り継いでいくことが重要であり、持続可能な観光においても重要要素である。また、源流点を持つ地域をフィールドとした住民の保全活動や暮らしぶりは非常にストーリー性が高く、メッセージ性があると考え。第1推進エリアにおける2町の課題やアクションプランを土台として、各町が第2推進エリアにもアクションを展開していけるよう、今後の事業を進めていく。

②課題の整理



第1推進エリアにおいては、オーバーツーリズムや利用者マナー、水の需要と供給に関する課題が明確であり、2町に共通していた。また、四国カルスト内の施設が限られるため、結果として宿泊施設が宿泊客以外の観光客の窓口的な役割を担う状況であった。人手不足と業務過多による宿泊施設の負担が大きく、予約システムの整備や新規コンテンツ等の対応が難しい状況であった。

第2推進エリアの共通点としては、四国カルスト以外は立ち寄り観光や通過が多く、消費につながっていない状況である。新型コロナにより大型バスによる各町への観光客が激減したため、道の駅の売上も減少傾向である。また、人材不足や季節変動も共通課題であるため、2町合同のワークショップで意見交換しながら課題解決に向けたアクションプランを検討することが有効である。

【成果】

■ゾーニングと共通課題の見える化

2町合同の現地調査を実施したことで、各町の課題抽出のみならず、共通課題や独自課題が整理された。

■共通ストーリー：源流点を守る地域と人々の暮らしぶり

第2推進エリアの設定にあたり、2町間に四国カルスト以外でストーリー性の高い共通点が見られた。

【今後の展開】

■ヒアリングの継続

今回の現地調査は8月のお盆前時期となったため、2町の観光事業者にとっては繁忙期と重なっていた。限られた調査期間内では関係者からのヒアリングも不十分なため、今後の関係者会議や報告会等においても関係者へのヒアリングを交えながら本事業を進めていく。

■勉強会・ワークショップの実施

第1、第2推進エリアを重点エリアとして、責任ある観光（レスponsibleツーリズム）を視野に入れたルール作りの土台となるよう、基礎勉強会の実施内容（事例紹介等）やワークショップの進行を検討する。

2-1-2. 関係者会議（開始時会議）

（1）実施概要

- 日時 : 令和4年8月31日(水) 18:00
- 実施方法 : オンライン(Zoom)
- 参加者 : オンライン30名
- 内容 :
 - ①開会挨拶（四国運輸局 観光部 部長 小倉 一仁）
 - ②事業概要ならびに進捗報告（リベルタ株式会社）
 - ・事業概要説明
 - ・日本版持続可能なガイドライン（JSTS-D）について
 - ・現地視察報告
 - ③意見交換（全体）

会議の様子



(2) 参加者

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	西村 哲也	久万高原町 ふるさと創生課	課長
3	久万高原町	竹森 洋輔	(一社) 久万高原町観光協会	代表理事
4	久万高原町	高山 哲也	(一社) 久万高原町観光協会	理事
5	久万高原町	正岡 健司	(一社) 久万高原町観光協会	事務局長
6	久万高原町	長谷 薫	(一財) 柳谷産業開発公社	—
7	久万高原町	矢野 真志	面河山岳博物館	係長
8	久万高原町	田村 有加	Petit Clif (キッチンカー経営)	社長
9	久万高原町	立野 好人	NPO法人 TE to TE (地元地域おこし団体)	代表
10	久万高原町	山本 一人	NPO法人 TE to TE (地元地域おこし団体)	理事
11	久万高原町	山下 元司	山下商店	代表
12	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長
13	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐
14	津野町	向井 利夫	一般社団法人 奥四万十高知	事務局長
15	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	津野町地域活性化企業人
16	津野町	豊田 坂江	維新の魁(さきがけ) 吉村虎太郎社中	代表
17	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長
18	津野町	小松 一之	津野町観光振興計画受託者：(株)ModelVillage	代表取締役
19	オブザーブ	桑村啄	四国ツーリズム創造機構	事業推進本部長
20	オブザーブ	松本栄志	四国ツーリズム創造機構	シニアマネージャー
21	オブザーブ	木本雅人	四国ツーリズム創造機構	チームマネージャー
22	オブザーブ	竹本憲生	四国ツーリズム創造機構	マネージャー
23	オブザーブ	堀内 智代	愛媛県西予市役所 経済振興課	
24	オブザーブ	高本 匡介	愛媛県内子町 小田総合支所	
25	事業実施主体	小倉 一仁	国土交通省 四国運輸局	観光部 部長
26	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長
27	事業実施主体	牧野 貴彦	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係長
28	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
29	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員
30	受託事業者	金氣 文隆	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント

(3) 実施内容

サステナブルツーリズムやJSTS-Dについての説明の後、8月に実施した現地調査について報告し意見交換を行った。

①開会挨拶：四国運輸局 観光部 部長 小倉

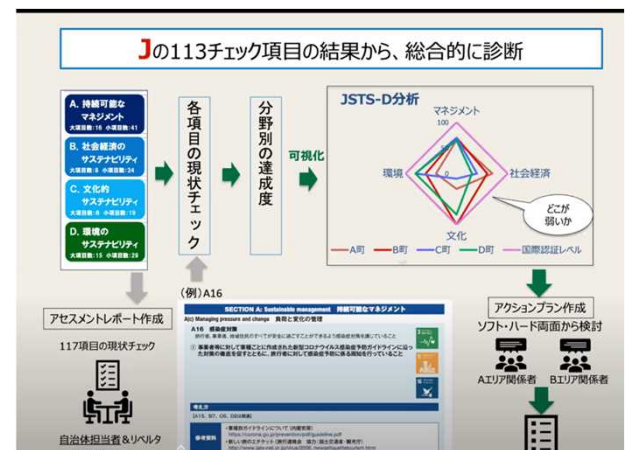
持続可能というのは観光でも大事なテーマとなっている。ブッキングドットコム調査では、サステナブルに旅行したいと答えた方が61%もいる。四国カルストについては、昨年の新聞報道でかなりの人が集まっていると聞いており、持続可能な観光という観点で調査事業を行うこととした。当局では昨年度もJICAと共同で徳島県美馬市、つるぎ町で同様の調査を行った。観光庁では全国的に持続可能な観光の推進、調査を行っており、その取り組みの一つとして日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)を2020年6月策定している。多くの自治体が旅行者の増加に伴って、適切な観光地マネジメントを行っていくことが非常に大事だと感じており、それを行うための指標を示したものがJSTS-D。観光面における健康診断のようなものをしていただき、観光開発の現状や課題を把握し、今後の優先的にどういったことに取組むべきなのかの具体的なアクションプラン策定支援を我々としてさせていただく。本日お集まり頂いた自治体、地域の観光事業者における持続可能な観光地経営の意識醸成、サステナブルツーリズムの拡充につなげていけたらと思う。

②事業概要ならびに進捗報告：リベルタ株式会社 林 （資料に沿って、事業概要ならびに進捗報告）

サステナブルには、横文字、アルファベット表記が非常に多く、“G”、“J”、SDGsもあり、何が違うのかははっきりされていないという方も多い。本事業の中で基礎勉強会を実施予定だが、本日の関係者会議では事業の前段として、サステナブルツーリズムやSDGs、JSTS-Dなどの言葉を整理し、共通理解につなげることを一つの目標としたい。その延長として、こういうことをやっていきましょう、地域全体でこんな姿を目指したい等、そのためにはこんな課題があるといったところを共通で結び付けていきたいと考える。オブザーブの方々も含めて、地域全体に関わる皆様のご意見を頂きながらキックオフのような場としたい。

以下、サステナブルツーリズム、SDGsについての言葉の整理と、JSTS-Dを健康診断に例えて説明した。

- ・サステナビリティは日本語で持続可能性を意味する言葉であり、サステナブルツーリズムは「持続可能な観光地（地域）」であるといった定義や状態。観光地（地域）が目指すべき状態と捉えると、具体的な手法ではなく、あらゆるツーリズムの土台であり、目指すべき姿とも言える。
- ・SDGsは、地域のサステナビリティ実現に向けた目標。その目標達成の先に目指す状態があるという構造。
- ・国際指標のGSTCと、その指標をもとに体系化された日本版のJSTS-Dはいずれも健康診断に例えるならば検査・測定項目のようなもの。これらの項目を通じて、現在の健康状態が客観的に把握できる。



続いて、8月の現地調査の概要を報告し、持続可能な観光地経営に向けてJSTS-Dに準拠したアクションプランを策定するにあたっての方向性を提案し、意見交換を行った。

・久万高原町と津野町、県境を超えた2町合同での調査事業の機会を最大限に活用するため、アクションプランの策定にあたっては共通の観光資源である四国カルストを第一推進ゾーンに設定し、基礎勉強会の事例選定やワークショップを実施する。また、四国カルストを中心とした自治体間連携としては、本日オブザーブ参加の西予市と内子町、本日欠席だが梶原町の1市2町も欠かせない。1市4町としての連携強化に向けた機会と捉え、広域連携で次年度以降のアクションに繋いでいく方向性で本事業を進めていく。

【推進エリア】

- ・第一推進ゾーン：四国カルスト（2町共通）
- ・第二推進ゾーン：石鎚山・面河溪周辺（久万高原町）、四万十川源流点（津野町）

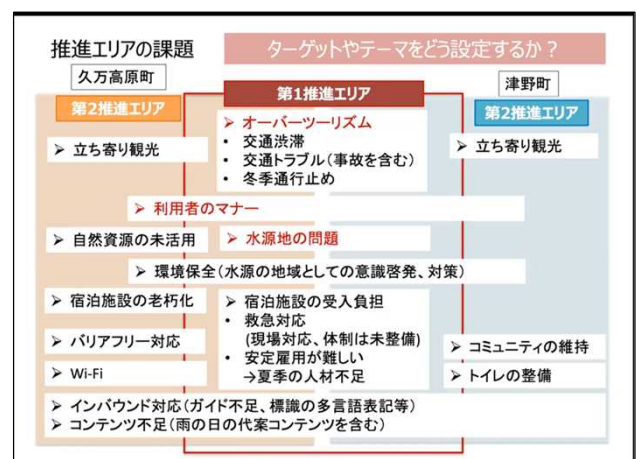
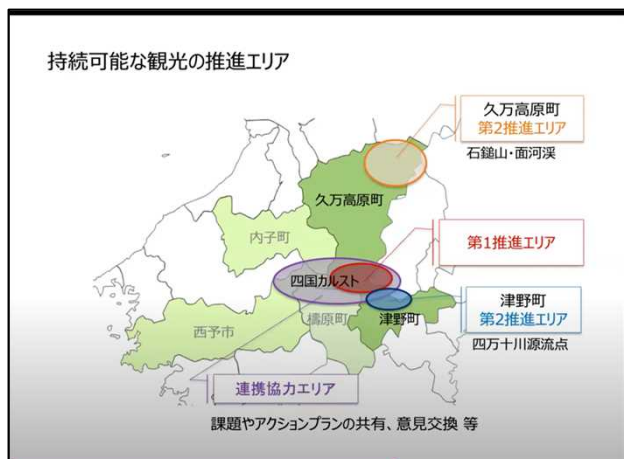
【課題の整理】

推進エリアごとに課題を整理したところ、ソフトとハードの両面において共通する課題がある一方、愛媛県と高知県との取り組みの違いから各町それぞれの抱える課題も見えてきた。

・共通課題：四国カルストの共通課題としては、「水源地の問題」「オーバーツーリズム」「利用者のマナー」が顕著であり、入込客数の季節変動や滞在時間が短く消費につながりにくいこと、人材不足、緊急時の体制整備等も観光地として解決していくことが必要。

・久万高原町：四国カルストには人が来ているが、それ以外のエリアまで人が来ず通過で終わってしまう状況であるため、町内周遊や滞在につながるコンテンツ開発等も必要。また、ハード面では宿泊施設の老朽化やバリアフリー対策、Wi-Fi整備も必要。

・津野町：四国カルスト以外のエリアへの誘客や滞在促進に関しては久万高原町と同様に共通課題であり、アウトドア系のアクティビティが中心のため、雨の日の対応等も必要。また、四万十川源流点や不入溪谷に関してはトイレの整備も必要。



③意見交換

・面河山岳博物館：目指すものが生業作りや保全等立場によって捉え方が変わる。博物館としてはいかに環境保全するかに軸足を置いており、少ない利用者でどれだけ利益を上げられるかが重要。

・久万高原町（観光協会）：四国カルストについて、お客様から道が狭すぎて危険との声が多い。観光協会として道案内するのにまずは安全の確保が重要だと考えている。

・内子町：多くの方に来ていただきたいが、一度来ていただいてファンになってもらい、季節を味わうコンテンツ等、誘客できるメニューを発信出来たら。

・西予市：コロナ禍からお客が増え、細い道で車の通りが悪く渋滞、脱輪など起きている。久万高原町にお声がけいただき1市4町の広域でカルストの発展、観光推進に取り組んでおり、インフラ整備に係る要望活動は進めていこうという話で合意ができている。

・久万高原町（TE to TE）：お客が増えることは良いことばかりではない。車やバイクのエンジン音がうるさい。私の家は国道からだいぶ離れているがそれでも聞こえる。トンネルを通った音も聞こえる。五段高原・四国カルストは、昔から水の事等で苦労して現在はおそこまで出来ている。津野町は国民宿舎なので立派になっており、姫鶴荘も汚い所などを直した。姫鶴荘は、だいぶお客様も来てくれており、町内も買い物する動線等がだいぶ改善されて良くなってきている。コロナ禍からお客が多く来ており、特にキャンプ客が多い。多くの観光客に来てもらうのは有り難いが、交通の問題など色々な課題があるので、対策ができていけば今後素晴らしい観光地となると思うので期待している。

・津野町：冬季の通行止め、夏季の人材不足等、季節による観光客の波の激しさが課題。高知県側でも道路の開発の計画が上がってくるようだが、環境の面を考えたときに2車線全部必要なのか、バランスが大事では。

・維新の魁 吉村虎太郎社中：麓は車もバイクも通るが、須崎と梶原の両方面から四国カルストへ向かう県道304号への一方通行となり戻り（立ち寄り・滞在）がないので、何か麓も潤うような状況にできないか。

・貝ノ川棚田保存会：貝ノ川地区でも何組がバイクで来ていたようだ。

・株式会社 五藤光学研究所：天文の専門家もいるが、配膳、清掃等全ての業務を行っている間にプラネタリウム、望遠鏡の説明を行う程忙しく、突っ込んだコンテンツの開発はできない状態。

カルストテラス：人材育成が大事だと思う。アクセス、道を広げるのも大事だが環境保全をしながらも大事。

・Petit Clif：姫鶴荘の駐車場でキッチンカーをしているが、来たお客様にどこから来たかを聞くと3つに分かれる。
①県内（愛媛高知）の方は、道が悪いので来たくはないが景色が良いので来た。②キャンプの方は、何度も来ている。③県外の方でYouTubeや写真を見て初めて来る方は、途中の道がこんなにひどいとは思わなかったと言われる。景色が良い時は良いが、霧がかかっていたりすると何を過ごして良いか等聞かれるので天候が良くないときの対応を考えたい。

・久万高原町：役場内でも経済活動を回すのか環境保全を優先するのかで進路が変わる。今後皆様の意見を参考に進めたい。

四国ツーリズム創造機構：天候に左右される景色は何とかならないか。ライブカメラをネット上で見られたら不満の解消になるのでは。⇒カルストテラス：梶原町が姫鶴荘に1台ライブカメラを設置している。

・四国ツーリズム創造機構：機構のHPの検索ワードで四国カルストが今年是一位。四国カルストは誘客する大きなコンテンツの一つ。オーバーツーリズムを解消するにあたり、四国カルストは日本の中で唯一車が乗り入れできない地域を目指すのか、乗り入れた所は全てお金を取り、その得た資金を環境に回していく地域にするのか等、ビジョンを自治体が決めていただければ。

④閉会：四国運輸局

本事業ではJSTS-Dを使って地域の状態を確認し、アクションプラン作成までを行う。昨年度、徳島県にし阿波地域では同様のJSTS-D調査を実施し、今年度のコンテンツ・ツアー造成に繋げている。

この地域においても、地域課題に向き合うコンテンツ・ツアー造成を一つのアクションとして想定し、今後の誘客に結び付けられるように発展的に考えていただきながら、調査業務にご協力いただきたい。

2-1-3. デスティネーションプロフィール

各町の観光地としての地域の属性や全体像を明確化するため、各事業対象自治体の基本情報データや地理的情報、主な交通アクセス、観光統計などをとりまとめ、観光分野の基礎情報として共有するため、デスティネーションプロフィールを作成した。

作成概要	
項目	JSTS-D（付録2）デスティネーションプロフィール表の項目を使用
使用ツール	入力シート（エクセル形式）：自治体担当者が主体的かつ効率的に作成できるよう、入力箇所を色分けしたシートを配布し、入力方法を事前に説明（次頁参照）
自治体担当者	久万高原町 ふるさと創生課観光振興班 班長 岡 誠也 津野町 観光推進課 課長補佐 野瀬 隆行
引用・参考データ	・自治体：保管データ（総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、観光振興計画等）、ホームページ公表データ等 ・国・県等関係機関の公表データ（国政調査、環境省自治体排出量カルテ 等） ・民間機関の公表データ（必要な場合のみの使用とする） ・自治体担当課・関係者（観光協会等）ヒアリング

【作成手順】

①入力フォームの準備 （リベルタ）



JSTS-D付録2の記入例を参考とし、入力フォームを作成し、自治体担当者へ事前送付

②データ入力 （自治体担当者）



各自治体で把握しているデータおよび関係課へのヒアリング等によりわかる限りのデータをフォームに入力する

③内容・根拠確認 （自治体担当者・リベルタ）



データの内容・出典等の根拠資料の確認

④全体像の把握・共有 （リベルタ）

デスティネーションプロフィールから各町の全体像を把握し、関係者へ共有する

●デスティネーションプロフィールの入力用シート

記入箇所は方法（担当）で色分け。

自治体コード：

デスティネーション・プロフィール

自治体
記入 は適宜コピーし、該当項目を囲んでください。リベルタ
記入

最終更新日：2022/6/

組 織 概 要			
デスティネーション名			デスティネーションタイプ 都市 歴史文化 自然 温泉 リゾート
代表住所			代表電話番号

地 理 的 情 報									
所属する地方自治体の名称				DMOの名称・設置年				設置年	
人口	人	面積	km ²	人口密度	人/km ²	旧町別人口	町：人、 村：人、		
土地利用状況	農用地		森林		原野		水面・河川・水路		
	道路		宅地		その他				
特徴的な自然環境 海・山（高山・低山）・川・平原・その他（ ）				海拔高度		【平均】 町：m、 町：m、 【最大】m			
気 象	年間降水量(*1)	mm	降水日数(*2)		日				
	最暖月平均気温(*1)	°C	月	最寒月平均気温(*1)		°C 月			
観 光 の 目 玉									

環 境		社 会		経 済	
年間CO2 排出量 (D12)(*3)	68,000 tco2/年	サステナビリティ・コーディネーター (A2)	有・無	地域経済循環分析 (B1)	有・無 実施年 年
環境負荷の少ない交通の利用プログラム (D13)		ステークホルダー・ワーキンググループ (A2)	有・無	宿泊客 平均観光消費額 (B1)	手段：RESAS / EMCalc / その他（ ） 8,467円
有・無	徒歩 自転車 その他（ ）	景観保全条例・計画 (C1)	有・無		

交 通			
主要な鉄道駅			最寄りの国内空港（航空会社） ●●空港（ANA、JAL）
バス運行会社			最寄りの国際空港 関西国際空港
主要タクシー 乗り場	駅から直線距離で m		フェリー・船舶乗り場（クルーズ会社） なし

観 光													
宿泊業・飲食サービス業雇用者数 (B1)		人（男女比 : ）											
月別 観光客推計 (人) (A11)	2021 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	入込客数												
年別 延べ宿泊数 (人) (A11)	(直近5年)	2017(H29)年		2018(H30)年		2019(R1)年		2020(R2)年		2021(R3)年			
	宿泊数												
	国内												
	外国人												

観光客の主要な来訪目的 (A11)

観光統計等がある場合には、そのデータを参考に記入ください。
関連データがない場合には、別途、ヒアリングの上で作成します。

※本項目の記載内容をもとに、右上のデスティネーションタイプを最終化します。

外国人宿泊客の主な国 (上位5カ国) (A11)	2019年	国名	香港	フランス	台湾	アメリカ	オーストラリア	その他	
		宿泊数	泊	泊	泊	泊	泊	泊	
主な宿泊施設収容力 (A11)	2022年	構成比	%	%	%	%	%	%	
		種別	ホテル	民宿	ゲストハウス	民泊			
		軒数	軒	軒	軒	軒			
		定員							

※ 各欄に記載されている (D12)、(A2) 等の標記は、「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」の項目番号を示す。

(*1) ●●観測所による測定結果

(*2) ●●県における降水日数

(*3) 自治体排出量カルテ (2019年度時点)

2-1-3-1. 久万高原町のデスティネーションプロフィール

久万高原町のデスティネーションプロフィールのポイントは下記の通り。デスティネーションプロフィール全体およびデスティネーションプロフィール作成根拠のリストは末尾別添「久万高原町デスティネーションプロフィール」参照。

● 観光資源

- ・四国霊場に代表される歴史文化および四国カルストの自然を主な観光資源とする
- ・「道の駅天空の郷さんさん」は、町内最大の集客を誇り、消費拡大につながっている

● 宿泊客平均観光消費額

- ・詳細なデータは取れていない

経 済			
地域経済循環分析 (B1)	有	無	実施年
	手段: RESAS / EMCalc / その他 ()		
宿泊客 平均観光消費額 (B1)	7000		
	円		

● 観光客数

- ・延べ宿泊数は3万人弱で推移

観 光													
宿泊業・飲食サービス業雇用者数 (B1)			153人 (男女比 55 : 98)										
月別 観光客推計 (人) (A11)	2021 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	入込客数	59,154	70,596	98,261	107,803	121,352	100,508	193,970	187,304	156,775	214,000	206,435	79,158
年別 延べ宿泊数 (人) (A11)	(直近5年)	2017(H29)年	2018(H30)年	2019(R1)年	2020(R2)年	2021(R3)年							
	宿泊数	29,166	29,278	27,761	21,893	28,722							
	国内	-	-	-	-	-							
	外国人	-	-	-	-	-							

● 不明データ

- ・国別外国人宿泊客が取れておらず、年別延べ宿泊数の国内・外国人内訳が不明。
- ・CO2排出量が不明
- ・地域経済循環分析を行っていない

外国人宿泊客の主な国 (上位5カ国) (A11)	2019年	国名					-	-	その他
		宿泊数	泊	泊	泊	泊	泊	泊	泊
		構成比	%	%	%	%	%	%	%

● 宿泊施設

- ・旅館、民宿、民泊はあるが、ホテルがない

主な宿泊施設収容力 (A11)	2022年	種別	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	民泊	その他
		軒数	軒	4軒	2軒	軒	2軒	2軒
		定員		174	41		8	84

2-1-3-2. 津野町のデスティネーションプロフィール

津野町のデスティネーションプロフィールのポイントは下記の通り。デスティネーションプロフィール全体およびデスティネーションプロフィール作成根拠のリストは末尾別添「津野町デスティネーションプロフィール」参照。

- デスティネーションタイプ
 - ・四国カルストや四万十川源流点といった自然・景観を主な観光資源とする
- DMO
 - ・DMOがなく、観光推進体制が整っていない

地 理 的 情 報				
所属する地方自治体の名称	高知県高岡郡津野町	DMOの名称・設置年		設置年

- 環境負荷
 - ・環境負荷の少ない交通として自転車利用のプログラムの設定をしている

環 境	
年間CO2 排出量 (D12)	1,603 tco2/年
環境負荷の少ない交通の利用プログラム (D13)	
有 無	徒歩 自転車 その他 ()

- 交通
 - ・タクシー乗り場の設定が特にならない

交 通			
主要な鉄道駅	須崎駅 (JR四国)	最寄りの国内空港 (航空会社)	高知空港
バス運行会社	津野町企画調整課 (つのバス)	最寄りの国際空港	関西国際空港
主要タクシー乗り場	なし	フェリー・船舶乗り場 (クルーズ会社)	なし

- 観光客数
 - ・延べ宿泊数は1万人弱で推移

観 光													
「星ふるヴィレッジTENGU」、「せいらの里」リニューアルにより7月まで休業		115人 (男女比 35 : 80)											
宿泊業・飲食サービス業雇用者数 (B1)													
月別 観光客推計 (人) (A11)	2021 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	入込客数	10,180	12,313	17,531	16,696	18,718	14,167	37,004	39,524	40,786	46,006	38,990	20,397
年別 延べ宿泊数 (人) (A11)	(直近5年)	2017(H29)年		2018(H30)年		2019(R1)年		2020(R2)年		2021(R3)年			
	宿泊数	-		10,950		10,822		4,695		10,762			
	国内	-		10,397		10,142		4,695		10,762			
「外国人」は「星ふるヴィレッジTENGU」のみのデータ、「国内」は「宿泊数」か		553		680		0		0					

- 宿泊施設
 - ・ホテル・旅館・民宿はあるが、民泊がない

主な宿泊施設収容力 (A11)	2022年	種別	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	民泊	その他
		軒数	1軒	2軒	1軒	軒	軒	軒
		定員	95	57	27			

2-1-4. アセスメントレポート

作成したデスティネーションプロフィールを含む収集した既存資料やデータ等及び事業対象自治体からのヒアリングをもとに、アセスメントレポートを作成した。アセスメントレポートは、JSTS-Dに記載されている指標活用要領に基づいて作成し、チェックシートとしてJSTS-Dの各項目を確認することで、最小限の作業量で地域の自己分析を行うことを目的とし、自治体担当者が主体的かつ効率的に作成しつつ、相対的な現況把握ならびにアクションプランの検討・精査を行えるような形で作成した。

作成概要				
項目	JSTS-Dの113項目（下表参照）を使用 ・4分野(マネジメント、社会経済、文化、環境) ・項目：大項目10、中項目47、小項目113			
	分野	大項目	中項目	指標数
	4	10	47	113
A:持続可能なマネジメント	(a) マネジメントの組織と枠組み		4	12
	(b) ステークホルダーの参画		6	12
	(c) 負荷と変化の管理		6	17
B:社会経済のサステナビリティ	(a) 地域経済への貢献		3	8
	(b) 社会福祉と負荷		5	16
C:文化的サステナビリティ	(a) 文化遺産の保護		5	8
	(b) 文化的場所への訪問		3	11
D:環境のサステナビリティ	(a) 自然遺産の保全		6	14
	(b) 資源のマネジメント		3	5
	(c) 廃棄物と排出量の管理		6	10
使用ツール	入力シート（エクセル形式）：JSTS-D 項目をもとに本事業に沿った形で項目を追加し作成。			
自治体担当者	久万高原町 ふるさと創生課観光振興班 班長 岡 誠也 津野町 観光推進課 課長補佐 野瀬 隆行			
引用・参考データ	・自治体：保管データ(総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、観光振興計画等)、ホームページ公表データ等 ・国・県等関係機関の公表データ（国政調査、環境省自治体排出量カルテ 等） ・民間機関の公表データ(必要な場合のみの使用とする) ・自治体担当課・関係者（観光協会等）ヒアリング			

【作成手順】

①入力フォームの準備 （リベルタ）



JSTS-Dの各項目をチェックシートとして活用するため、入力シートを作成し、自治体担当者へ事前送付

②データ入力 （自治体担当者）



各自治体で把握しているデータおよび関係課へのヒアリング等によりわかる限りのデータをフォームに入力する

③内容・根拠確認 （自治体担当者・リベルタ）



データの内容・出典等の根拠資料の確認・提案および優先度の検討

④全体像の把握・共有 （リベルタ）

アセスメントレポートから各町の全体像を把握し、関係者へ共有する

●アセスメントレポート項目内容

様式
既存フォーマットの項目
転記
JSTS-Dより転記する項目
追加
追加項目

No.	項目	区分	作成・入力		説明
			自治体	リベルタ	
1	大項目	様式	---	---	JSTS-Dの大項目
2	大項目の説明 (JSTS-D本文)	転記	---	○	JSTS-Dより、大項目の補足説明を転記。 目的：作業の効率化
3	小項目	様式	---	---	JSTS-Dの小項目
4	判断基準	追加	---	○	「3.小項目」の実施状況について、「6.取組の状況」の判断基準を追加。 目的：自治体担当者が主体となって作成する際、相対的な判断をするため。
5	JSTS-D参考資料	転記	○	---	JSTS-Dの参考資料を転記。 目的：作業の効率化
6	取組の状況	様式	○	---	取組み状況を6項目より選択。 ・ない/いいえ ・今後準備する予定である ・現在準備中である ・ある ・更新しながら適切に実施している ・わからない 選択項目により0点～5点に自動換算される。
7	取組内容・ スコア判断基準	様式	○	---	自治体の取組み状況とスコア判断根拠を記載。
8	データ（参考資料や データ名とURL）	様式	○	---	「6.取組の状況」「7.取組の内容」の参考資料やデータ名、URL等を記載。
9	備考	様式	○	---	特記事項があれば記載。
10	現状・課題	追加	○	---	「7.取組の内容」の回答における現状・課題(達成・未達成の取組内容等)を記載。 目的：「7.取組の内容」の内容精査、現況・課題の把握
11	対応策	追加	○	○	「10.現状・課題」の客観的な対応策を記載（アクションプランではない）。 目的：「6.取組の状況」の改善・解決のための取組み、考え方等。
12	関連する課題	追加	---	○	現地調査での抽出課題で各項目に関連するものを記載。
13	JSTS-D関連項目	転記	---	○	「3.小項目」に関連するJSTS-Dの大項目を転記。
14	優先度	追加	○	○	アクションプラン検討時、優先的に取り組むべき項目かの判断材料とする。 （基本4項目） ①基礎項目：小項目、大項目を達成するための基礎的な取組 ②住民の満足度や安全に関わる項目：経済、福祉、安全等 ③旅行者の満足度や安全に関わる項目： ④影響度：取り組むことにより、他への影響・波及効果が期待できる （移住促進や雇用創出など） 1：低い 基本4項目のいずれも該当しない場合。 今後も重大な課題が生じる可能性が低い項目。 2：やや低い 基本4項目のうち、1項目に該当。 3：どちらでもない 基本4項目のうち、2項目に該当。 4：やや高い 基本4項目のうち、3項目に該当。 5：高い 基本4項目のうち、4項目に該当。 ※「6.取組の状況」の評価結果との連動による評価ではなく、「6.取組の状況」の実施状況が良好でも優先度の評価は低くなる場合もある。
15	優先度の事由	追加	○	○	「14.優先度」の判断事由を記載。

ステップ1

データ作成

ステップ2

確認・検討・提案

ステップ3

2町のデータを
比較検討・整理

アセスメントレポート入力用シート

The diagram illustrates the layout of the 'Assessment Report Input Sheet' (アセスメントレポート入力用シート). It is divided into several key sections, each highlighted with a red border and labeled with a callout box:

- 自治体・担当者情報** (Municipality/Responsible Party Information): Located at the top left, containing fields for the municipality name and the responsible party's name and contact information.
- 取り組み状況スコア** (Initiative Status Score): Located at the top center, containing a table for recording scores for various initiatives.
- アセスメントレポート項目** (Assessment Report Item): Located at the top right, containing a table for recording the assessment report items.
- 結果概要** (Result Summary): Located in the middle left, containing a table for recording the results of the assessment.
- JSTS-D項目** (JSTS-D Item): Located at the bottom left, containing a table for recording the JSTS-D items.
- 自治体担当者記入** (Municipality Responsible Party Entry): Located at the bottom center, containing a large table for recording the municipality responsible party's entry.
- リベルタ記入** (Liberty Entry): Located at the bottom right, containing a large table for recording the Liberty entry.

2-1-4-1. 久万高原町のアセスメントレポート

久万高原町のアセスメントレポートについて、取り組みの優先度のスコアの高い項目は以下の通り。
全項目については、末尾添付「久万高原町アセスメントレポート」を参照。

A1	デスティネーション・マネジメント	① 観光計画等に「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に取り組むことを明記していること	5
		② 観光計画等は、複数年の計画であること	5
		③ 観光計画等は、定期的な見直し（少なくとも5年ごと）及び一般公表をしていること	5
		④ 観光計画等は、ステークホルダー（地域住民を含む）の参加によって策定していること	4
		⑤ 観光計画等に関連する取組の結果を公表していること	4

→ 観光計画を作成してから状況が変化してきており、全体的に方向性見直しの対応が必要になってきている。

A6	住民参加と意見聴取	① 官民、住民等の地域のステークホルダーが参画する「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に基づいた持続可能な観光の推進を担うワーキンググループ（WG）等があり、定期的な意見交換の機会があること	4
A7	住民意見の調査	① 調査結果は、一般公表されていること	4

→ 住民意見を取り入れる取り組みは行ってきたい。

A12	計画に関する規制と開発管理	① 計画、規制等は、住民の意見を聴取・反映し、十分な検討の元に定めていること	4
-----	---------------	--	---

→ 旧町村エリアから実態に即したゾーニングに基づいた戦略に書き換えを行っていく。

A16	感染症対策	① 事業者等に対して業種ごとに作成された新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに沿った対策の徹底を促すとともに、旅行者に対して感染症予防に係る周知を行っていること	4
-----	-------	--	---

→ コロナの感染状況が日々変化してきているため、日々対応をせざるを得ない状況。外国人の訪問が増加してくる前に特に受け入れ民間企業などがインバウンド対応をしっかりとできるよう指針を示す必要がある。

B3	地域事業者の支援と公正な取引	① 地域の特産品やサービスの利用を促進していること	4
----	----------------	---------------------------	---

→ 町有観光施設では地元の商業者、農業者等からの材料仕入れが行われており、引き続き対策が必要。

B4	コミュニティへの支援	① 事業者や旅行者が住民と共に、地域社会や地域の文化・自然環境の保全に貢献できる機会があること	5
----	------------	---	---

→ 住民・旅行者・事業者等幅広く影響がある項目のため優先度は高い。

C6	文化遺産における旅行者の管理	② 観光が要因となっている道路渋滞に関する課題を調査により把握していること	4
----	----------------	---------------------------------------	---

→ 現状課題となっており、対応の優先度は高い。

C8	観光資源の解説	① 解説が、地域のストーリーとして地域住民と協力して作成されていること	4
----	---------	-------------------------------------	---

→ 住民・旅行者双方に関係することであり、観光資源への正しい理解につながるため、対応を行ってきたい。

D2	自然遺産における旅行者の管理	① 旅行者の流れを把握していること	4
		② 観光が要因となっている道路渋滞に関する課題を調査により把握していること	5
		⑤ 課題が生じている場合、対応策を講じていること（混雑対策）	4

→ 旅行者の動きの実態把握は基礎的な情報として必要。現状課題となっており、対応の優先度は高い。

D3	自然遺産における旅行者のふるまい	① 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発）	4
----	------------------	------------------------------------	---

→ 四国カルストにおいて重要性が高い。

D13	環境負荷の小さい交通	① 地域内での徒歩や自転車での移動の奨励と安全確保を行っていること	4
-----	------------	-----------------------------------	---

→ 取組を進めている状況であり、今後も継続してきたい。

久万高原町アセスメントレポートまとめ

優先度のスコアは高くないものの、特に優先して取り組みたい事項は以下の通り。

A11	旅行者の数と活動の管理	① 宿泊客数及び日帰り客数を計測・公表していること	2
A11	旅行者の数と活動の管理	② 客数の計測は、全体、外国人・日本人別、年齢別に分かれていること	2
A11	旅行者の数と活動の管理	③ 月ごと（季節ごと）の観光客数を計測していること	2
A11	旅行者の数と活動の管理	④ 繁閑差を考慮した誘客のための取組を行っていること	2
A11	旅行者の数と活動の管理	⑤ 旅行者の目的・行き先（昼夜間の動向など）を把握していること	2
A11	旅行者の数と活動の管理	⑥ 旅行者の数と活動の影響は、調査によって明らかにされていること	2

→ 調査の仕組みをつくり、基礎的なデータを揃え、数値に基づいたマーケティング・プロモーションにつなげていきたい。

B2	ディーセント・ワークと雇用機会	① 観光関連事業者への就業を促進する取組があること	3
B2	ディーセント・ワークと雇用機会	② 性別、年齢、季節等に左右されない、安定した雇用や公正な賃金の実現に向けた取組を行っていること	3

→ 観光従事者の確保は緊急度が高い。人手不足への対策が急務。

D2	自然遺産における旅行者の管理	④ 地域における混雑に関する課題を調査により把握していること	3
----	----------------	--------------------------------	---

→ 現状課題となっており、対応の優先度は高い。

【ポイント】

- 観光計画の見直し
 - ・ 2019年から10か年の観光計画を作成してから、計画の見直しを行っておらず、コロナ等の状況により観光分野の状況が大きく変化してきている
 - ・ 上位計画との整合性も含め、全体的に方向性見直しの対応が必要
- データの重要性
 - ・ 観光関連の基礎的な調査データが揃っていないのが現状であり、そのため数値に基づいた観光マーケティングができていないことが大きな課題
 - ・ 調査内容やその継続方法などの仕組みづくりを優先して行っていく
- 受け入れ体制整備
 - ・ コロナが落ち着いて観光客が戻ってくるにあたり、受け入れ体制を整えていくことが目先の対応として必要
 - ・ 特に観光産業に関わる人手不足への対処が急務

2-1-4-2. 津野町のアセスメントレポート

津野町のアセスメントレポートについて、取り組みの優先度のスコアの高い項目は以下の通り。
全項目については、末尾添付「津野町アセスメントレポート」を参照。

A1	デスティネーション・マネジメント	① 観光計画等に「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に取り組むことを明記していること	5
A1	デスティネーション・マネジメント	② 観光計画等は、複数年の計画であること	5
A1	デスティネーション・マネジメント	③ 観光計画等は、定期的な見直し（少なくとも5年ごと）及び一般公表をしていること	5
A1	デスティネーション・マネジメント	④ 観光計画等は、ステークホルダー（地域住民を含む）の参加によって策定していること	5
A1	デスティネーション・マネジメント	⑤ 観光計画等に関連する取組の結果を公表していること	5

→ 次期計画を作成中であり、JSTS-Dの取り組みを始めるのに適したタイミングである。

A6	住民参加と意見聴取	① 官民、住民等の地域のステークホルダーが参画する「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に基づいた持続可能な観光の推進を担うワーキンググループ（WG）等があり、定期的な意見交換の機会があること	4
A7	住民意見の調査	① 調査結果は、一般公表されていること	4

→ 住民意見を取り入れる取り組みは行っていきたい。

A16	感染症対策	① 事業者等に対して業種ごとに作成された新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに沿った対策の徹底を促すとともに、旅行者に対して感染症予防に係る周知を行っていること	4
-----	-------	--	---

→ コロナの感染状況が日々変化してきているため、日々対応をせざるを得ない状況。外国人の訪問が増加してくる前に特に受け入れ民間企業などがインバウンド対応をしっかりとできるよう指針を示す必要がある。

B3	地域事業者の支援と公正な取引	① 地域の特産品やサービスの利用を促進していること	5
B3	地域事業者の支援と公正な取引	② 地元の観光関連の中小企業等が、より市場に参入しやすくなるように支援していること	4

→ 事業者へのサポート等を引き続き行う必要がある。

B4	コミュニティへの支援	① 事業者や旅行者が住民と共に、地域社会や地域の文化・自然環境の保全に貢献できる機会があること	5
----	------------	---	---

→ 住民・旅行者・事業者等幅広く影響がある項目のため優先度は高い。

D2	自然遺産における旅行者の管理	② 観光が要因となっている道路渋滞に関する課題を調査により把握していること	5
D2	自然遺産における旅行者の管理	⑤ 課題が生じている場合、対応策を講じていること（混雑対策）	4

→ 現状課題となっており、対応の優先度は高い。

D13	環境負荷の小さい交通	① 地域内での徒歩や自転車での移動の奨励と安全確保を行っていること	4
-----	------------	-----------------------------------	---

→ 取組を進めている状況であり、今後も継続していきたい。

津野町アセスメントレポートまとめ

優先度のスコアは高くないものの、特に優先して取り組みたい事項は以下の通り。

A2	デスティネーション・マネジメント（観光地経営）の責任	① 管理組織には、持続可能な観光の推進に専念できる担当者（サステナビリティ・コーディネーター）がおり役割が定められていること	2
A2	デスティネーション・マネジメント（観光地経営）の責任	② 管理組織の構成員は部局横断的かつ観光地域の規模に見合ったものであること	2
A2	デスティネーション・マネジメント（観光地経営）の責任	③ 管理組織運営のための財源が確保されていること	2

→ 基本的な体制が整っていないため、優先して体制づくりを行っていきたい。

B7	安全と治安	③ 観光地等において、タクシーの乗降場所等を明示していること（白タク対策）	3
----	-------	---------------------------------------	---

→ 旅行者の動きに大きく影響するため対応が必要。

B8	多様な受入環境整備	⑦ 域外から観光地への公共交通機関等によるアクセスが確保されており、公共交通機関の利活用が推奨されていること	2
----	-----------	--	---

→ 課題が明確であり、優先して進めていきたい。

D3	自然遺産における旅行者のふるまい	① 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発）	2
D3	自然遺産における旅行者のふるまい	② 問題が生じている場合、対策を講じていること（マナー違反対策）	2

→ 四国カルストにおいて重要性が高い。

D4	生態系の維持	① 脆弱で絶滅が危惧される野生生物やその生息・営巣地・生育地の一覧が作成されていること	2
D4	生態系の維持	② 環境への影響の調査を行い、生態系、野生生物を保護する取組があること	2

→ 基礎的な資料をそろえる必要があり、優先度は高い。

【ポイント】

- 次期観光計画を策定中
 - ・ 2023年度からの観光計画を策定中であるこのタイミングで取り組み方針を明確化できる項目が多々あった
- 基本的な推進体制整備
 - ・ 観光協会などの組織がなく、観光の推進体制が整っていないため、まず関係者で方向性を共有し、課題に向き合っていくことが必要
 - ・ 施設のリニューアルやコンテンツ造成の取組など、現状個別で推進されている取組が相互に活きてくるよう、全体を俯瞰して見ることのできる観光推進員の動きが重要
- データの重要性
 - ・ データに基づいた観光マーケティング・プロモーションができるよう、調査・データ収集の継続が必須

アセスメントレポート共通点・比較

取り組み状況

JSTS-Dの基準の各項目について、現在の取組の状況を確認・分析するため、「アセスメントレポート項目6. 取組の状況」について、4分野113項目の「5段階評価」を点数換算し、検証を行った。

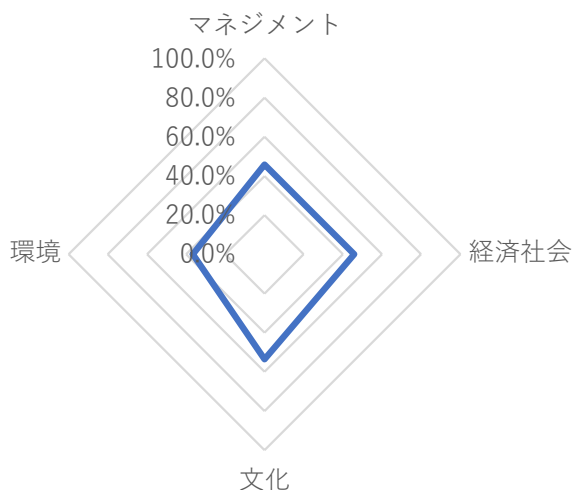
【判定基準と点数】

更新しながら適宜実施	5点
ある	4点
現在準備中	3点
今後準備予定	2点
ない/いいえ	1点
わからない	0点

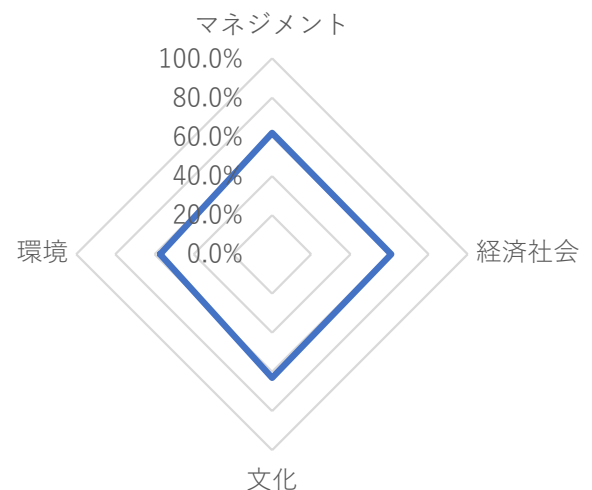
久万高原町				
	分類	合計	JSTS-D 最高スコア	達成率
A	マネジメント	94	205	45.9%
B	経済社会	55	120	45.8%
C	文化	51	95	53.7%
D	環境	53	145	36.6%
	総合点	253	565	44.8%

津野町				
	分類	合計	JSTS-D 最高スコア	達成率
A	マネジメント	127	205	62.0%
B	経済社会	73	120	60.8%
C	文化	60	95	63.2%
D	環境	83	145	57.2%
	総合点	343	565	60.7%

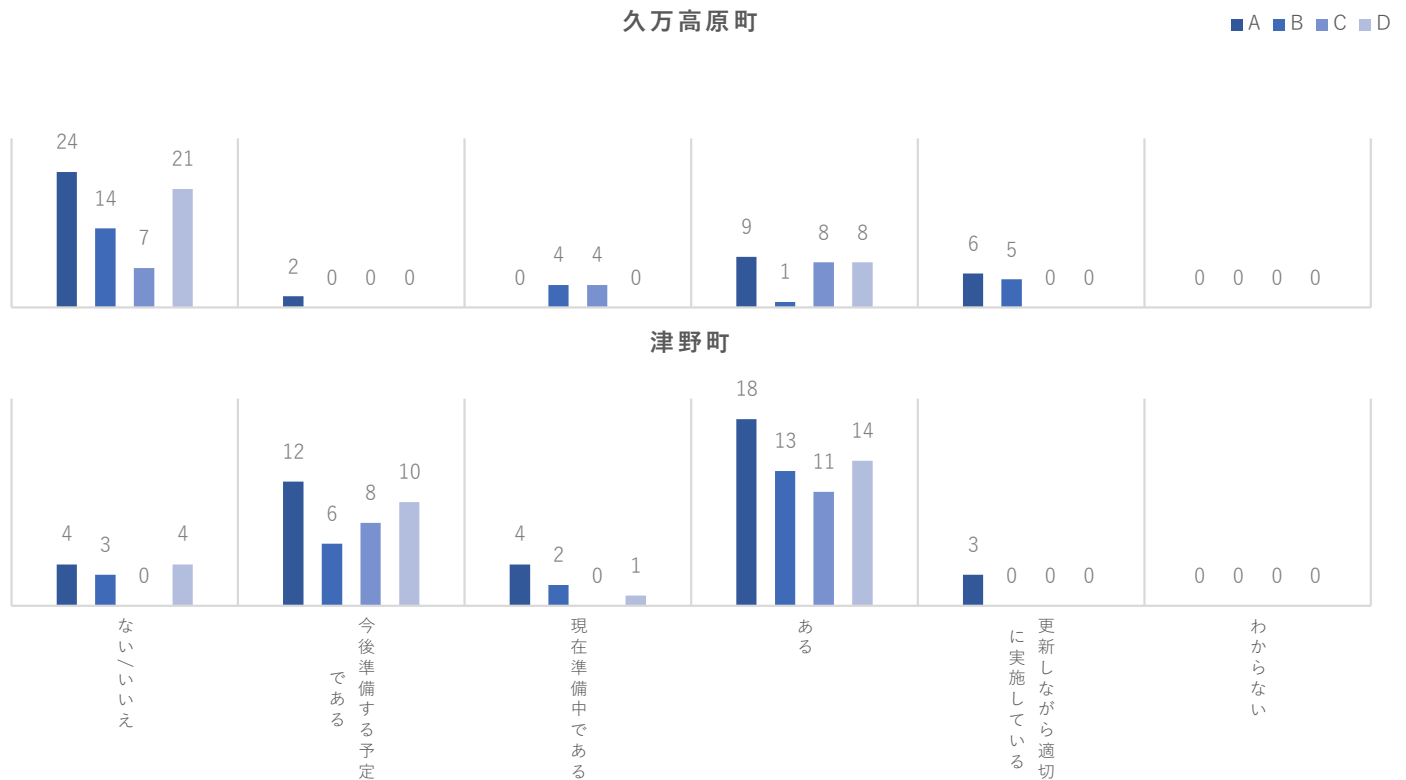
久万高原町



津野町



4分野の達成率を見ると、津野町に比べ久万高原町のほうが全体的なスコアが低い。特に久万高原町では環境分野の取り組みが進んでおらず、対策が必要と考えられる。津野町は各分野のスコア分布はほぼ均等であるが、今後取り組みを進めていき、一つ一つの項目の内容に対応していくことで、持続可能な観光の推進につながれるとよい。



分野別の取り組み状況について、久万高原町は取り組みができていない点も多いが、計画等を「更新しながら適切に実施している」項目も多く見られる。津野町は、取り組みがあるものが比較的多いが、「更新しながら適切に実施している」項目が少ない。取り組みを増やしていくとともに、継続的に適切な運用をしていく必要がある。

【現状・課題】

- ひとつひとつJSTS-Dの内容を確認したところ話題にも出たことがなく検討がされたことのない項目も多かった。
- 両町で共通の課題を持つ項目も多かったが、観光計画の進捗状況や観光協会の体制の違いもあり、優先する項目の違いもあった。
- 各JSTS-D分野に関連する計画等を確認したところ、計画の策定から時間が経過しており、地域の現状にそぐわないものも散見された。

【対応策】

- 課題を認識しつつも、優先順位が低い、観光分野での対策だけでは解決できない、費用がかかる等の理由により具体的な策がとれていない項目が確認されたため、今後も引き続き状況を確認し、分野を横断して一つ一つ取り組みを進めていくことで全体の最適化に近づけることが必要。

2-1-5. 基礎勉強会

事業のこれまでの進捗状況を関係者に共有するとともに、持続可能な観光における世界の潮流や事例紹介、観光庁の取り組みについて共に学び、共通理解につなげることを目的として基礎勉強会を実施した。

(1) 実施概要

- 日時 : 令和4年11月1日(火) 13:30 ~ 15:40
- 実施方法 : 会場(津野町役場西庁舎1階ホール)及びオンライン
- 参加者 : 会場12名、オンライン20名

- 講演(オンライン) :
持続可能な観光における世界の潮流・持続可能な観光マネジメント(事例紹介)
〈スピーカー〉国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所 飯田 明博

- 事例紹介1(オンライン) : 持続可能な観光推進モデル事業について
〈スピーカー〉国土交通省 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 上戸 康弘

- 事例紹介2(会場) : 持続可能な観光開発における国内事例
〈スピーカー〉リベルタ株式会社 林 美希子

(2) 参加者

No	区分	氏名	所属	役職	参加方法
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長	会場
2	久万高原町	西村 哲也	久万高原町 ふるさと創生課	課長	会場
3	久万高原町	大瀬戸 美樹	株式会社ソラヤマいしづち 営業部	営業部 営業課長	オンライン
4	久万高原町	竹森 洋輔	(一社) 久万高原町観光協会	代表理事	オンライン
5	久万高原町	高山 哲也	(一社) 久万高原町観光協会	理事	オンライン
6	久万高原町	正岡 健司	(一社) 久万高原町観光協会	事務局長	オンライン
7	久万高原町	矢野 豪	(一社) 久万高原町観光協会	事務局次長	オンライン
8	久万高原町	藤原 百梨奈	(一社) 久万高原町観光協会	—	オンライン
9	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会	—	オンライン
10	久万高原町	矢野 真志	面河山岳博物館	係長(学芸員)	オンライン
11	久万高原町	田村 有加	Petit Clif (キッチンカー経営)	社長	オンライン
12	久万高原町	山本 一人	NPO法人 TE to TE (地元地域おこし団体)	理事	オンライン
13	久万高原町	山下 元司	山下商店	代表	オンライン
14	久万高原町	福田 剛正	姫鶴荘 ((財)柳谷産業開発会社)		オンライン
15	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長	会場
16	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐	会場
17	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課		会場
18	津野町	倉橋 盛男	星ふるヴィレッジTENGU	支配人	会場
19	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	津野町地域活性化企業人	会場
20	津野町	谷脇 伸弥	有限会社 谷脇工業	取締役	会場
21	津野町	藤村 祐子	フォレストアドベンチャー・高知		会場
22	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長	会場
23	津野町	松浦 健吉	白石活性化委員会	会長	会場
24	オブザーブ	松本 栄志	四国ツーリズム創造機構	シニアマネージャー	オンライン
25	オブザーブ	福本 陽奈	愛媛運輸支局 総務・企画観光部門	係員	オンライン
26		飯田 明博	基礎勉強会講師 UNWTO駐日事務所	企画・渉外部 課長	オンライン
27	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長	オンライン
28	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 主査	オンライン
29	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員	オンライン
30	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員	会場
31	受託事業者	村井 友利乃	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント	オンライン
32	受託事業者	金氣 文隆	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント	オンライン

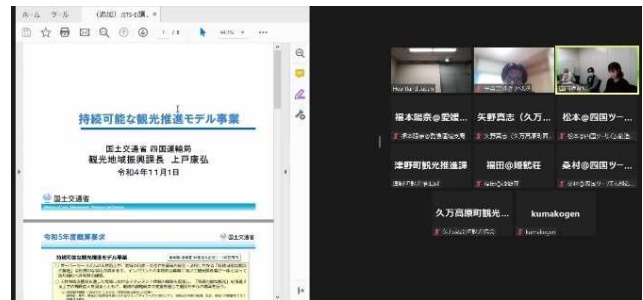
(3) 勉強会内容

① 講演(オンライン)：持続可能な観光における世界の潮流・持続可能な観光マネジメント（事例紹介）

〈スピーカー〉 国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所 飯田 明博氏



勉強会の様子①



勉強会の様子②



勉強会の様子③



勉強会の様子④

《UNWTOの紹介》

国連の専門機関であり、観光分野における世界最大規模の組織。駐日事務所は、奈良に事務所を構えており、アジア太平洋の29か国2地域の観光を支援している。

《国際観光の動向》

持続可能な観光への関心がコロナ禍を経て高まっている。国際観光客の到着者数は、2022年1～7月の7か月間で2019年の57%まで回復、ヨーロッパと中東が最も速く回復してきている。

《持続可能な観光と地域振興(国内外の事例)》

- ・オランダ（アムステルダム）：新政策「2030 Perspective（2030年への展望）」を発表、アムステルダム国立美術館の前の「I amsterdam」という看板を解体や規制の再検討、地域住民への政策立案への参画、インフラ整備の改善等、取り組んでいる。
- ・パオ：入国ビザに地域の環境保全に同意する旨の署名（パオ・プレッジ）を要求している。
- ・カナダ（トムソン・オカナガン）：季節性（7～9月）に観光客が集中していたが、5つの観点から新たな観光商品を開発した結果、平準化（110日で80%の観光収入）した。アクセシビリティの改善や7つの誓約を観光客・観光事業者に署名の促進、NPOプラネットハビネスと連携し、住民の幸福度を測定している。
- ・ハワイ（ハナウマ湾）：コロナ禍を経験し、観光政策を大幅に転換。入場の予約制、入場前に環境保全に関するビデオ視聴、入場料を12ドルから25ドルへ値上げ、入場者数を3,000人から720人へ減らした結果、入場者数は1/4以下だが売り上げはちょうど半分となった。
- ・沖縄：沖縄観光成果指標の策定。「持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画」策定し、入域観光客数を1日あたり1,230人に設定

②事例紹介1（オンライン）：持続可能な観光推進モデル事業について

〈スピーカー〉 国土交通省 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 上戸 康弘氏

《持続可能な観光推進事業（令和5年度 観光庁概算要求中）》

・オーバーツーリズムの未然防止や、地域の自然・文化や生業等の保全・活用にかかる「持続可能な観光の推進」は世界的な関心が高まる中、インバウンドの本格的な再開に向けて観光関係者が一体となって取り組むべき喫緊の課題。

・人材育成支援等を通じた地域におけるマネジメント体制の構築を促進し、「持続可能な観光」を推進する上での裾野拡大を図るとともに、地域の課題解決の支援を通じて優良モデルの構築を行う。

持続可能な観光地域づくりに向けた課題

一過性の対応に終始するのではなく、長期的な視野に立った観光マネジメントの一環として、地域社会における経済利益・コミュニティ・旅行者・文化資源・環境等に対する利益の最大化等の様々な側面への影響を考慮し、地域の観光関係者等が共通の目的や役割を共有しながら、計画の策定・推進に取り組むことが必要。

【主な事業】

①持続可能な観光の推進における優良モデルの構築

②持続可能な観光の推進に意欲的な地域を対象とした人材育成

具体的な事業の開始時期は未定。JSTS-Dに取り組んで頂く際には、こういった事業を活用して頂ければ。

令和4年度 持続可能な観光推進事業について

【事業内容】

①持続可能な観光地経営のモデル形成

（ア）マネジメント体制構築支援

目的A：観光に関する計画やビジョンの策定に取り組む地域（採択：四国地域4件）

目的B：地域課題解決のために具体的な施策を検討する地域（採択：四国地域2件）

目的C：具体的な施策を実施するとともに、分析・改善する地域

（イ）実証事業支援

②持続可能な観光を実践する地域人材の育成・創出

③観光サービスを提供する地域の事業者群の取組の促進

令和3年度事業については、4年度、5年度と違うのは④国際的な認証機関（グリーン・ディステイネーションズ、GD）による評価・表彰制度「TOP100選」へのエントリー支援が入っていた。

③事例紹介2（会場）：持続可能な観光開発における国内事例

〈スピーカー〉リベルタ株式会社 林 美希子

《JSTS-Dの活用》

健康診断のようなもの、国際認証（GSTC）に準拠したもの。マネジメント、社会経済、文化、環境の4分野で構成されたアセスメントレポートを主に自治体で作成している。

JSTS-Dの分野別の達成度を可視化することで、課題解決をするプランを作成することにつながる。自治体のアプローチとして主に下記2パターンがある。

Aパターン：国際認証を目指してバランスよく地域経営を中心とした総合的なアプローチをするパターン

Bパターン：部分的アプローチで重点課題を絞って取り組むパターン

《地域の分類・事例》

- ・釜石市：2022年9月にグリーン・ディステーションズ シルバーアワードを取得。2017年「釜石オープン・フィールド・ミュージアム構想」を策定、GSTC観光地認証の取得を明記されている。持続可能な観光の国際基準による診断調査において、2019年、2021年ブロンズ受賞。
- ・ニセコ町：持続可能な観光を地域住民に理解してもらう為に観光庁のモデル事業に手を挙げて情報ツール（パンフレット）の作成に取り組んだ。
- ・三浦半島：2015年に海水浴場利用者のマナー向上を通じた持続可能な海水浴場運営を目指し、鎌倉・逗子・葉山海水浴場マナーアップ推進協議会を発足。さらにエリアを拡大し、三浦半島観光連絡協議会を立ち上げた。ゴミ箱の撤去によるゴミ持ち帰りキャンペーンやモデル事業として観光客向け調査（ゴミの有料回収に関する意識調査）を行った。
- ・釧路市阿寒湖温泉地区：ペットボトルゴミ削減に向けて何ができるか実証事業に取り組んだ。猛禽類医学研究所とサーモスのコラボレーションしたマイボトルを販売。給水スポットの提供と来訪者への案内として紙面マップとアプリ（my mizu）で案内。
- ・上勝町：特徴として2つの施策（雇用創出「いんどり産業」（葉っぱビジネス）・ゼロ・ウェイスト）がある。ゼロ・ウェイストで宿泊施設の取り組み事例として、チェックイン時に宿泊者自身が使う量の石鹸を測って切り使用する。昨年度リベルタが行った事業内で欧米豪の観光客に対して葉っぱビジネスへの理解として、葉の収穫＋食膳を飾る体験を作った。また、上勝阿波晩茶を利用した晩茶ソムリエによる今年の晩茶飲み比べ体験も作った。事業内でJSTS-Dに準拠させるものとして作ったコンテンツではないが、JSTS-Dの指標に当てはめてみるといういろいろな部分に貢献できているものであった。

《旅行会社目線のポイント》

サステナブルツーリズムの動向：近年非常に盛り上がっているアドベンチャーツーリズムの市場の中にサステナブルのモデルを組み込んでいくような動きというのが見られる。2023年秋ATWS北海道現地開催が決定している為、国内でも来年秋に向けてAT商品作りをしている地域が多くみられる。今年スイスで行われたATWSのテーマ「Swisstainable」。スイス独自のサステナブル認証ラベル（3段階）を作成している。スイスとしてこの認証ラベルのある宿、観光施設の利用を推奨している。

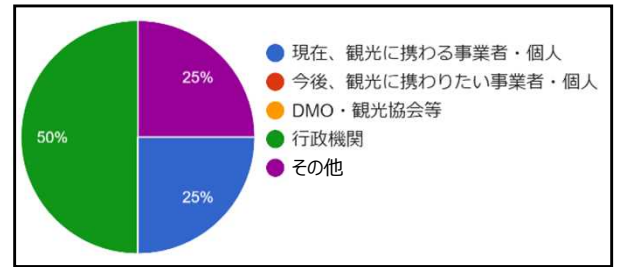
2017年頃から海外では、使い捨てのプラスチック製品の使用禁止、製造禁止というような法律が出来ている。日本は2022年にプラスチック新法が出来たが、規制ではなく、資源循環の促進であるため、世界動向に比べると、制限が緩い。日本はリサイクル率についても、日本基準だと86%だが、サーマル（焼却）はリサイクルではないという定義なのでEU基準だと24%となる。

欧米豪の若年層の世代が海外旅行において、サステナブルな取り組みを重視傾向にあり、旅ナカでの取り組みも一般的という感覚が多い。高年層は、サステナブルに関心層と無関心層にはっきりと分かれる傾向にある。

(4) 参加者アンケート (概要)

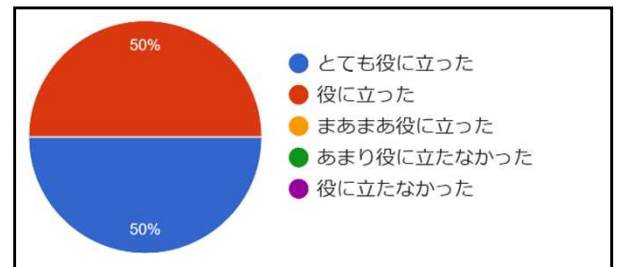
1. 回答者属性

アンケートでは、行政機関従事者・観光に携わる事業者・個人
その他個人から回答があった。



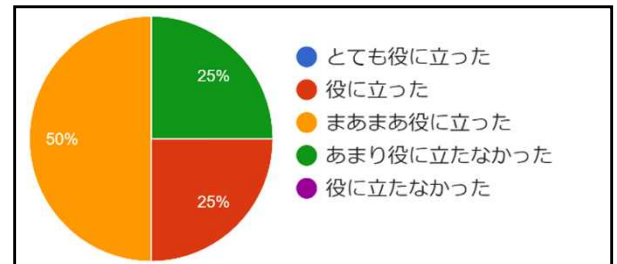
2. 講演 (UNWTO) 持続可能な観光における世界の潮流・持続可能な観光マネジメント (事例紹介) について

「とても役に立った」「役に立った」が全体を占め、「国際的な持続可能な観光の位置づけの概要が分かった」等の意見があり、自身のエリアに対応すべき点は「インバウンド受け入れに向けJSTS-Dへの取り組みが必要」「学んだ知識をスタッフで共有し、運営に活かしたい」等の回答があった。



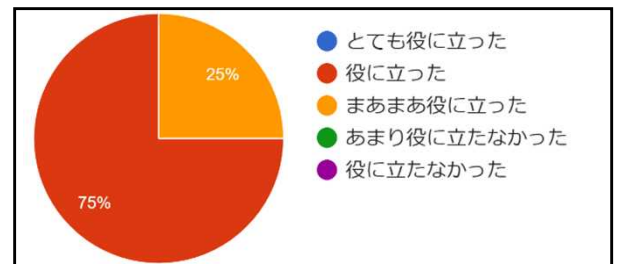
3. 事例紹介1 (四国運輸局) 持続可能な観光推進モデル事業について

「とても役に立った」「役に立った」が半数を占めた。「来年度の補助金メニューについて参考になった」等の意見があり、自身のエリアに活用すべき点は「ガイド育成以外の人材育成につながる事業の設定」「来年度予算へ反映できれば」等の回答があった。



4. 事例紹介2 (リベルタ) 持続可能な観光開発における国内事例について

「役に立った」が75%を占めた。「国内事例が身近でわかりやすかった」等の意見があり、自身のエリアに参考とすべき点は「上勝のように生活や文化の中から地域住民が掘り起こして価値づけする機運が必要と感じた」「GSTCの認証制度についてエントリーをするか検討します」等の回答があった。



5. 勉強会を受けて、ご自身の地域の理想のなりたい姿について

「持続可能性について様々な立場の多様な人々が意見を出せる場と雰囲気がある地域が理想」「環境・文化・観光・経済が好循環できる姿」等の回答があった。

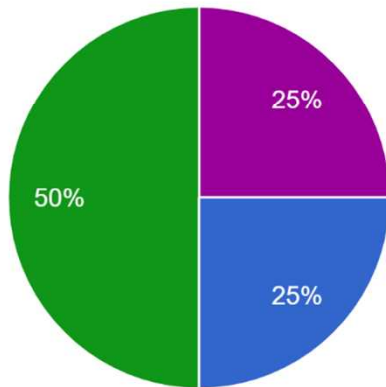
6. 今回の勉強会全体について

「実際の具体的な取り組み方法にシフトしていきたい」「中間報告会と基礎勉強会を別日程でできれば時間の余裕ができたのでは」といった意見があった。

(4) 参加者アンケート（結果）

1-1 参加区分

4 responses

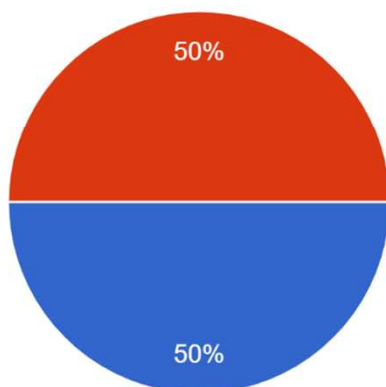


- 現在、観光に携わる事業者・個人
- 今後、観光に携わりたい事業者・個人
- DMO・観光協会等
- 行政機関
- 貝ノ川棚田保存会

2-1. 講演に関する質問

(1) 本テーマの講演内容はいかがでしたか

4 responses



- とても役に立った
- 役に立った
- まあまあ役に立った
- あまり役に立たなかった
- 役に立たなかった

(1) について特にそう感じた内容や理由について記入してください

国際的な持続可能な観光の位置づけの概要が分かったため
海外の事例の取り組みなど参考になりました
まったく知識がなかったが講演によって世界の状況を知ることができた。
遅れていったので聞いていないです。

(2) 講演を受けて、ご自身の担当エリアについて対応すべきと感じた点がありますか。その理由と共にご記入ください。

障害者の方のアクセシビリティ
海外の潮流を考えるとインバウンド受け入れに向けJSTS-Dへの取り組みが必要と感じました
学んだ知識をスタッフで共有し、運営に活かしたい。来場されるお客様へ持続可能な観光につながる情報を発信して、付加価値を提供することで、施設のファンを増やし、仕事をする従業員のモチベーションやホスピタリティの向上に繋がりたいから。
遅れていったので聞いていないです。

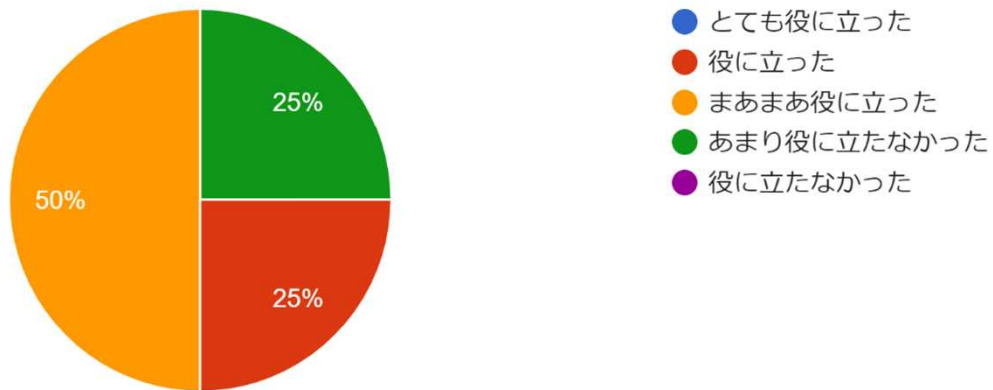
(3) その他、本テーマへのご質問・ご要望等ございましたらご記入ください。

成功事例に合わせて失敗事例の紹介
難しいとは思いますが四国カルストエリアでのGSTCへの具体的なアドバイスがあればお伺いできればと思いました。
今後の研修の内容を楽しみにしております。
遅れていったので聞いていないです。

2-2. 事例紹介1 (四国運輸局) 持続可能な観光推進モデル事業について

(1) 本テーマの事例紹介はいかがでしたか

4 responses



(1) について特にそう感じた内容や理由について記入してください

補助金の概要説明が有益 音声聞き取れなかった
来年度の補助金メニューについて参考になりました
反響してあまり聞き取れなかった。
事例を聞いて良かった。

(2) 事例紹介を受けて、ご自身の担当エリアについて活用すべきと感じた点はありますか。その理由と共に記入ください。

人材育成につながる事業の設定、ガイド育成以外のもの
補助金メニューを参考にして来年度予算に反映できればと思います
申し訳ありません、わかりません。
役場に任せます。

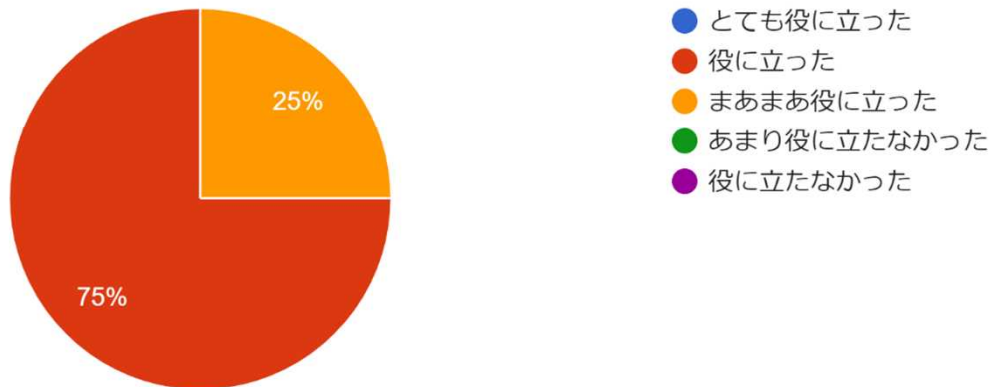
(3) その他、本テーマへのご質問・ご要望等ございましたらご記入ください。

取り組むべき事業と補助事業のマッチング
とくにございません
ありません。
ないです

2-3. 事例紹介2 (リベルタ) 持続可能な観光開発における国内事例について

(1) 本テーマの事例紹介はいかがでしたか

4 responses



(1) について特にそう感じた内容や理由について記入してください

国内の取り組み事例が身近で理解しやすい
具体的に国内事例を紹介していただくことでGSTCへの取り組みについてわかりやすかった
国内の事例について知る良い機会となったため。
日本と海外とで廃プラに関する意識の差があることを知れた。

(2) 事例紹介を受けて、ご自身の担当エリアについて参考すべきと感じた事例はありますか。その理由と共にご記入ください。

やはり上勝 久万高原には観光資源が多いが、それに頼りすぎ。上勝のように生活や文化の中から地域住民が掘り起こして価値づけする機運が必要と感じる。
GSTCの認証制度についてエントリーをするか検討します
ゴミを出さないことや、自然と共存することについて今一度考えるきっかけになりました。
貝の川で行っているキャンドル祭りでは、企業から規格外のペットボトルを貰って、それをキャンドルの材料として利用する事でペットボトルを再利用をしていたが、ペットボトル自体が海外の人からしたらよく思われないという事が分かったので、LEDの電球等に変えていくことも必要なのかなと考えました

(3) その他、本テーマへのご質問・ご要望等ございましたらご記入ください。

うまくいかなかった取り組み例を聞きたい。成功例から学ぶことは実はあまりないと思う。どういう理由でうまくいかなかったかの評価にヒントがあるはず。
特にございません
ありません。
無いです。

勉強会全体について

3. 勉強会を受けて、ご自身の地域の理想のなりたい姿について教えてください

持続可能性について様々な立場の多様な人々が意見を出せる場と雰囲気がある地域が理想 「学ぶ」ことに前向きな地域こそが観光の中に「学びの場」を創造でき、持続可能性を確かなものにできるのではないかと？
環境・文化・観光・経済が好循環できる姿
地域資源を活かした持続可能な観光の発信の拠点の一つとして、従業員同士、地域の観光施設様とのコミュニケーションをはかり、町をはずした四国カルスト界隈のエリア全体でこの地域を盛り上げていきたいと感じました。
他の地区の事例を参考にして、活用できるものがあれば活用していきたい。Tシャツアートやってみみたいなと思っています。

4. 今回の勉強会全体についてのご意見やご質問等ございましたら、自由にご記入ください。

理想の形は見えてきたので、実際の具体的な取り組み方法にシフトしていきたい。 全体の底上げは無理でもどこか要所を押さえることで、芽づる式に理想に近づくのでは。そのキモの部分は地域によって違うだろうが、様々な評価からそれを導き出してほしい。
スケジュール的に厳しいとは思いますが、半日に日程を詰め込んだように感じたので、「中間報告会」と「基礎勉強会」を別日程でできれば時間に余裕ができたのかなと思いました。
SDGSについて学びを深めたいと考えておりましたところ、今回の研修に声がかかり感謝しております。今後も、ワークショップや研修等でお世話になります。 よろしくお願いいたします。
無いです。

(5) 実施成果と課題

【成果】

本勉強会の講演や事例紹介を通じて、持続可能な観光について学ぶことで理解を深めることができた。
また、国内外の事例を多く知ることによって自身のエリアの今後の取組について考える良い機会となった。



【課題】

今回は、現地とオンラインのハイブリッド形式で行ったが、一部オンラインで音声聞き取りづらい箇所があった。また、成功事例だけでなく失敗事例についても学びたいとの意見もあった。
今後も補助金の活用や持続可能な観光の取組について情報を発信・提供する必要がある。

2-1-6. 中間報告会

(1) 実施概要

- 日時 : 令和4年11月1日(水) 15:50 ~
- 実施方法 : 会場(津野町役場西庁舎1階ホール)及びオンライン(Zoom)
- 参加者 : 会場12名、オンライン20名
- 内容 :
 - ①実施業務報告 (リベルタ株式会社)
 - ・デスティネーションプロフィールについて
 - ・アセスメントレポートについて
 - ・意見交換 (地域のなりたい姿について)
 - ・今後の予定
 - ②総括 (四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 上戸康弘)

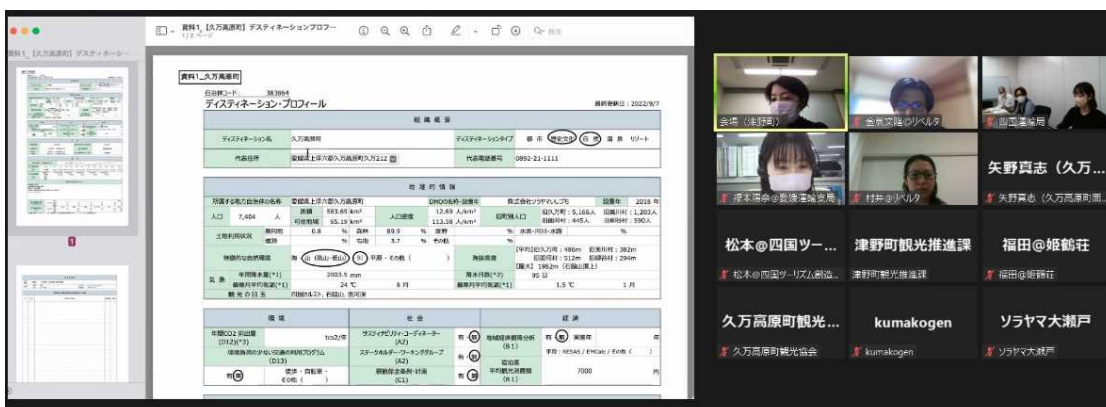
会議の様子



会場①



会場②



オンライン

(2) 参加者

No	区分	氏名	所属	役職	参加方法
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長	会場
2	久万高原町	西村 哲也	久万高原町 ふるさと創生課	課長	会場
3	久万高原町	大瀬戸 美樹	株式会社ソラヤマいしづち 営業部	営業部 営業課長	オンライン
4	久万高原町	竹森 洋輔	(一社) 久万高原町観光協会	代表理事	オンライン
5	久万高原町	高山 哲也	(一社) 久万高原町観光協会	理事	オンライン
6	久万高原町	正岡 健司	(一社) 久万高原町観光協会	事務局長	オンライン
7	久万高原町	矢野 豪	(一社) 久万高原町観光協会	事務局次長	オンライン
8	久万高原町	藤原 百梨奈	(一社) 久万高原町観光協会	—	オンライン
9	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会	—	オンライン
10	久万高原町	矢野 真志	面河山岳博物館	係長(学芸員)	オンライン
11	久万高原町	田村 有加	Petit Clif (キッチンカー経営)	社長	オンライン
12	久万高原町	山本 一人	NPO法人 TE to TE (地元地域おこし団体)	理事	オンライン
13	久万高原町	山下 元司	山下商店	代表	オンライン
14	久万高原町	福田 剛正	姫鶴荘 ((財) 柳谷産業開発会社)		オンライン
15	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長	会場
16	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐	会場
17	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課		会場
18	津野町	倉橋 盛男	星ふるヴィレッジTENGU	支配人	会場
19	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	津野町地域活性化企業人	会場
20	津野町	谷脇 伸弥	有限会社 谷脇工業	取締役	会場
21	津野町	藤村 祐子	フォレストアドベンチャー・高知		会場
22	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長	会場
23	津野町	松浦 健吉	白石活性化委員会	会長	会場
24	オブザーブ	松本 栄志	四国ツーリズム創造機構	シニアマネージャー	オンライン
25	オブザーブ	福本 陽奈	愛媛運輸支局 総務・企画観光部門	係員	オンライン
26		飯田 明博	基礎勉強会講師 UNWTO駐日事務所	企画・渉外部 課長	オンライン
27	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長	オンライン
28	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 主査	オンライン
29	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員	オンライン
30	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員	会場
31	受託事業者	村井 友利乃	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント	オンライン
32	受託事業者	金氣 文隆	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント	オンライン

(3)中間報告会内容

●デスティネーションプロフィール・アセスメントレポートについて

【デスティネーションプロフィール作成】

- ・ 久万高原町は歴史文化や自然区分、津野町は自然区分とリゾートというデスティネーションタイプとした。
- ・ プロフィール作成にあたり、このプロフィールシートに設定されている統計数値が揃っていない部分もあったが、今後、近似データから換算、データを取っていく等、各町に継続して取り組んでいただく。それにより、追加や変更箇所も出てくる。
- ・ シート2ページ目は、持続可能な観光に関する研修等の受講状況についての記録表がある。具体的に国際認証を目指していくとなった場合、持続可能な観光に関する研修やセミナーの受講やサステナビリティコーディネーターの選任、育成等が必要となる。地域の方向性により、今後、その受講状況等を入れていくことになる。

【アセスメントレポート作成】

- ・ 113項目のアセスメントレポートを両町に作成頂いた。エクセル版データから、4分野（地域マネジメント、文化、社会経済、環境）それぞれの分野の結果（スコア）を達成率に変換して、チャート式のグラフを加えて分かりやすくした。
- ・ 両町に共通して言えることとして、取り組み状況は、文化的サステナビリティの項目がやや高い、環境のサステナビリティがやや低いという形。環境分野はなかなか取り組みづらい部分もあり、その部分が認識できたということが良かった点。
- ・ 現状・課題については 検討がまずされてこなかった、今まで話題にも出てこなかったというような項目も多く見られ、再認識ができたということは、とてもよかった。
- ・ 計画や基準等が策定から時間が経過して、現状にそぐわなくなったものだというのも散見された。課題が分かっている認識をしつつも具体的な策が今取れていないという事が確認された点もある。

久万高原町

- ・ 2019年から10か年の観光計画を作成されているとのこと、その見直しが未だにできておらず、2019年から状況が大きく変化しているという上で計画との整合性というところも合わせて全体的に方向性を見直しが必要ということが確認できた。
- ・ データの重要性について、基礎的な調査のデータが揃っていないという点から、具体的な旅行者、観光客の動きがまだよく見えておらず、数値に基づいた観光マーケティングを行うことが大きな課題。
- ・ コロナが落ち着いてきて観光客が戻ってくるという点で受入体制を整えていくことが必要不可欠。観光客が戻ってくことで観光産業に関わる人手不足に対処することが急務であることが確認できた。このような形で優先度をつけていきアクションプランに落とし込んでいくことが重要。

津野町

- ・ 次期観光計画、2023年度からの観光計画を策定中なので、このタイミングで項目1つ1つについて明確な方向性が確認でき、明文化していけるというのが良いタイミングであった。
- ・ 基本的な推進体制の整備という点では、観光協会などの組織がなく、観光の推進体制が整っておらず、まず、関係者の中でも方向性を共有し、課題に向き合っていくことが必要。
- ・ 施設のリニューアルやコンテンツの造成等の様々な取り組みを行う中で、それが相互に連携し生きてくるよう全体を俯瞰して見ることでできる観光推進員の方の動きが今後重要になってくる。
- ・ データの重要性については、データに基づいた観光マーケティングプロモーションというのが重要であり、その継続というのが必須になってくるということが再認識できた。

＜久万高原町 担当者所感＞

- ・ 非常に大変な作業だった。経済、社会環境にかかる部分に対する取り組みの脆弱さ、実施できていない現状を痛感した。
- ・ 特に町としてできてない点は、計画作りをした後の検証、分析、公表というプロセス。観光振興計画も平成30年に策定し、その後評価や公表、見直しをかけていない。市場調査やマーケティングリサーチ等も全然行っていないことを記入することで、現状として突き付けられた。
- ・ エビデンスに基づき、施策を持っていくというところが全くできてないと感じた。SDGsに対する認識と取り組み不足、行政と観光事業者、それ以外の地域住民との横の繋がりの取り組みが全くないことを痛感させられた。今後の課題になる。

＜津野町 担当者所感＞

- ・ 観光振興計画を策定している途中であり、この結果も反映させていただきながら記載できるところは記載をしていきたい。
- ・ 住民向けの観光に関することが共有できていないと感じた。旅行者向けのマナー啓発やオーバーツーリズムに関して住民との連携というのにも必要になってくる。
- ・ 外国人向けの対応が弱いことに気づいた。

●意見交換

＜JSTS-Dへの取り組み方について＞

- ・ JSTS-DやSDGsについてまだまだ消化しきれてないところがあるが、四国カルストのオーバーツーリズムは明確で、町民や観光客からの声が入ってくる場所である。その対策を反映して観光地としての地域を作っていきたいが、拾いきれない課題もあり、観光への取り組みをどう進めていけば良いかと思いながら勉強会を聞いていた。他の勉強会等でも良く聞く先進地を参考に自分達も取り組んでいかなければと思うが、具体的にどう進めていくべきか、どの部分に重点的に取り組めば良いのかわからず、不安もある。
- ・ 津野町は、ターゲットを絞りたいが絞り込めていない。どのターゲットも来てくれるのであれば取りこぼしたくないという面もある。欲張りではと思うが、ピンポイントでターゲットを決めるべきなのか迷いがある。
- ・ 持続可能な観光についての勉強を、町として始めたばかりで、これから事業者の方や地域の方々と一緒に取り組みを進めていくという方向で進めていきたい。住民向けにどのような形で勉強会を開催するのか、お知らせをしていくかについても、効果的な方法を考えていかなければいけない。
- ・ JSTS-Dは項目が多く、観光地を総合的に評価するものを具体的に初めて見た。課題がたくさんあぶり出された状況であるが、これに対するアクションとして、多くの課題を満遍なく底上げしていくのは時間もマンパワーも必要で、現実的ではないと感じている。どこか肝になる課題があると思うので、その部分から優先的に取り組むと、結果として全体の底上げにつながる（他の課題対策に連動的に作用する）と感じた。

＜課題への対応＞

- ・ UNWTOの飯田氏の講演でカナダの事例にあった季節による観光客数の変動の平準化の取り組みが参考になった。星ふるヴィレッジTENGUでも観光客数の季節変動を平準化できれば、提供するコンテンツがもっと充実してくる。現状では、季節と天気による人の入りが影響されるが、それに打ち勝つようなコンテンツを作っていかなければならない。
- ・ コロナ禍でイベントが自粛されていたが、今年度夏ぐらいから徐々にイベントを再開してきて、町内でのマンパワー不足を感じている。町内だけではなく役場内でのマンパワー不足でもある。役場の一課でやり遂げるのではなく、各課が横断的に連携して取り組む必要があると考えており、これは久万高原町だけではなく津野町、ひいては四国カルスト全域に絡む地域との連携が必要だと考えており、その重要性を感じた。
- ・ 四国カルストにおいては、ゴミが例年以上にあると感じている。ゴミ問題については外から来るお客様向けのマナー啓発を含め、楽しみながらできる仕掛けができればよい。
- ・ コロナ前には外国人観光客も来ている。インバウンド研修にも参加しているが、外国人の方にも喜んでいただけるようなおもてなしの対応をしていきたい。

- 四国カルストに来るお客様の動向を見ていると、滞在時間1時間ぐらいでみんなが同じようなところで写真撮って、ババッと景色を見て、ソフトクリームが何か食べて帰るという方が圧倒的に多い。滞在時間を伸ばして満足していただいて地域にお金を落としていただけるような方を増やすことが必要だと思う。姫鶴荘で言えば、宿泊していただけるのが1番。
- ゴミ問題については、基本的にキャンプ場のお客様にもゴミを持って帰ってもらっており、外にもゴミ箱等は設置してない。取り組み事例をもっと具体的に知りたい。

＜持続可能な観光コンテンツについて＞

- 自社のターゲットとして、県内でコロナが収まってきたことで外に出ていくというのも多くなっている為、県外層を少し考えた計画でいる。その中で学生等に学習ができる環境を作れないか。学習については、SDGsやJSTS-D等、修学旅行ではなくても課題学習の形で利用してもらえるような環境づくりを目的に動いている。
- フォレストアドベンチャーでは特別支援学校や様々なハンデをお持ちの方からの体験予約や問合せも増えてきており、ハンデをお持ちの方も楽しんでもらえるような内容を考えて取り組んでいる。近隣の四国カルストの星ふるヴィレッジTENGUや久万高原町との連携が今後のキーポイントだと理解している。津野町の一事業者の従業員の1人として、教育旅行やSDGsと絡めた内容を津野町界隈の地域全体の観光に繋がるように提案・発信していきたい。
- 棚田を活かしてキャンドルイベントを行っていたが、その時に、規格にそぐわないペットボトルを飲料水メーカーからいただいて使っている。国内の方ならまだ許容していただけると思うが、勉強会で話が合ったように、海外から来られる方には、プラスチックの利用がどういう印象を持たれるのかと思った。飲料水メーカー側が生物分解性のプラスチックを利用してできるのであればそちらに移行したいと思うが、メーカー側の都合もあるので一概に無理な願いはできない状況。また、灯りとしてろうそくを使っているが、LED照明への移行も検討している。
- 白石ではピザ焼き体験や新聞バッグ作りなどの体験が提供できる。コロナで中止になっているが、来年度からは企画してやっていきたい。川の環境変化も課題であるため、きれいにする等、川を資源として活用する体験にも取り組んでいきたい。
- プラネタリウム独自のコンテンツを作ったが反響が大きい。具体的には、プラネタリウムを貸し切りにし、誕生日プレゼントやサプライズでお客様専用のものを作ったところ、皆様に感動してもらっている。コンテンツの充実を考えたい。
- 観光分野で学びの場を作っていくことが、今後のインバウンド対応や国内観光市場での新規層の創出・獲得につながる。学びの場というのは、関係者全ての意識が高くなっていく相乗効果があると考えているため、小規模でも学びを創出し、そこから波及していくのが理想。

2-2. 関係者間におけるワークショップの実施

2-2-1. ワorkshop実施概要

本ワークショップでは、愛媛県久万高原町及び高知県津野町での持続可能な観光地域づくりに向けた地域関係者の参画により、地域課題の抽出・整理を行いアクションプランの検討・協議を行うこと目的として、「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」の示す手順を参考にしてグループワーク・意見交換を実施した。

- 日時 : 令和4年11月18日(金) 13:30 ~ 17:00
- 実施方法 : 会場(JR久万高原駅やまなみ2Fギャラリー)での対面ワークショップ
- 参加者 : 26名 (久万高原町10名、津野町6名、その他10名)
- ファシリテーター : 林 美希子 (受託事業者 リベルタ 株式会社)

<タイムスケジュール>

時間	内容	担当	実施方法
13:30	開会挨拶	国土交通省 四国運輸局	会場
13:35	全体説明	リベルタ株式会社	
13:40	グループワーク前半 アクションプラン1: 地域のなりたい姿と課題	各グループ	
14:30	グループ発表1 意見交換: 2町の共通課題の整理	各グループ リベルタ株式会社	
15:10	グループワーク後半 アクションプラン2: 解決課題の特定と具体化	各グループ	
16:10	グループ発表2 意見交換: 2町の共通アクションの整理	各グループ	会場
16:40	総括・閉会	国土交通省 四国運輸局	

2-2-2. ワークショップ結果報告

(1) 参加者

	区分	氏名	所属	役職
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長
2	久万高原町	竹森 洋輔	(一社) 久万高原町観光協会	代表理事
3	久万高原町	矢野 豪	(一社) 久万高原町観光協会	
4	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会	
5	久万高原町	藤原 百梨奈	(一社) 久万高原町観光協会	
6	久万高原町	長谷 薫	(一財) 柳谷産業開発公社	－
7	久万高原町	福田 剛正	(一財) 柳谷産業開発公社	
8	久万高原町	田村 有加	Petit Clif (キッチンカー経営)	社長
9	久万高原町	山本 一人	NPO法人 TE to TE (地元地域おこし団体)	理事
10	久万高原町	宮脇 和雄	久万高原町 集落支援員	－
11	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐
12	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課	
13	津野町	高橋 芙柚音	津野町 観光推進課	
14	津野町	小澤 祐二	株式会社 五藤光学研究所	津野町地域活性化企業人
15	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長
16	津野町	藤村 祐子	フォレストアドベンチャー・高知	
17	オブザーブ	竹本憲生	四国ツーリズム創造機構	マネージャー
18	オブザーブ	大瀬戸 美樹	株式会社 ソラヤマいしづち	フードツーリズムマイスター
19	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長
20	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 主査
21	事業実施主体	谷口 雄亮	国土交通省 四国運輸局	国際観光課 係員
22	事業実施主体	富永 大貴	国土交通省 四国運輸局	観光企画課 係員
23	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員
24	事業実施主体	福本 陽奈	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	総務・企画観光部門 係員
25	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員
26	受託事業者	村井 友利乃	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント

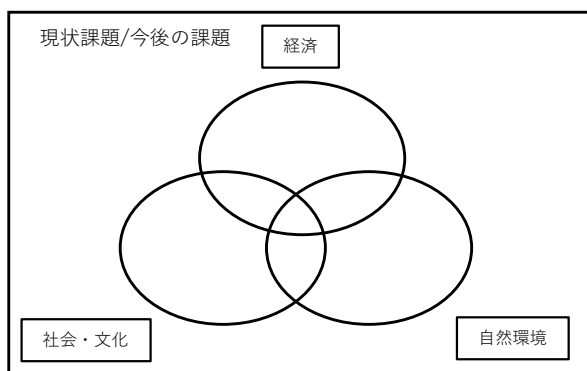
(2) ワークショップ内容

■全体の流れ

参加者を久万高原町、津野町の2グループに分け、前半・後半各1時間程度のグループワークを行い、各回グループワーク終了後に各グループで話し合った内容を発表し意見交換を行った。

前半のグループワークでは「地域のなりたい姿と課題」について検討を行った。まず、四国カルストを中心とした第1・第2推進エリアと全体の現状の課題を洗い出し、なりたい姿を話し合って共有し、そこで今後出てくると考えられる課題を明確にした。課題については、「経済/社会・文化/環境」の側面で検討を行った。2町の共通課題について特に意見を出し合った。

後半グループワークでは「解決課題の特定と具体化」について検討を行った。前半のグループワークで検討した課題の中で優先的に検討していくべき重点課題を2～3ピックアップし、その重点課題を解決する取り組みを、ロジックツリーの形で確認した。2町で連携して行えるアクションについて意見を出し合った。



前半発表フォーム

重点課題1	
最終アウトカム	
中間アウトカム	
初期アウトカム	
具体的な内容	

後半発表フォーム

現状課題/なりたい姿/今後の課題

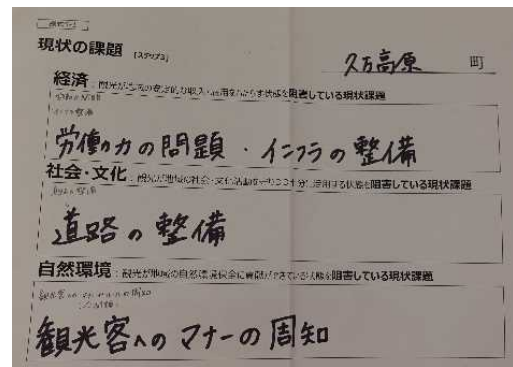
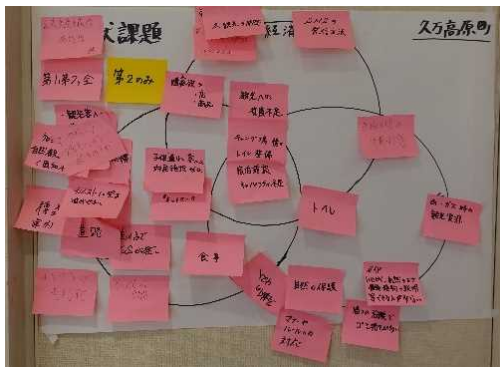
経済面

社会・文化面

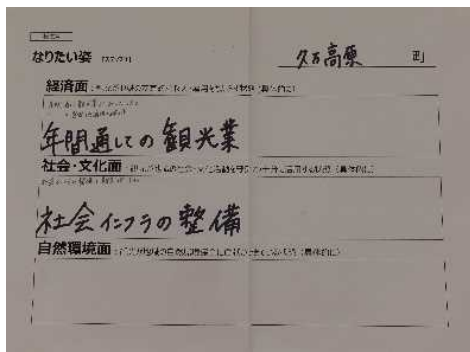
自然環境面

①地域のなりたい姿と課題

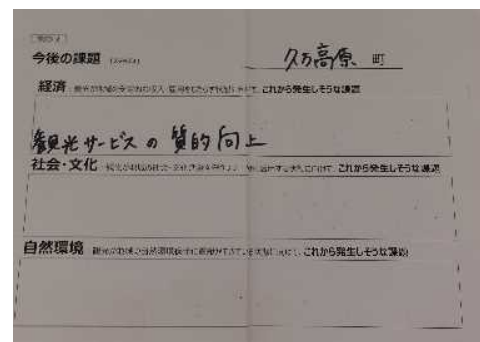
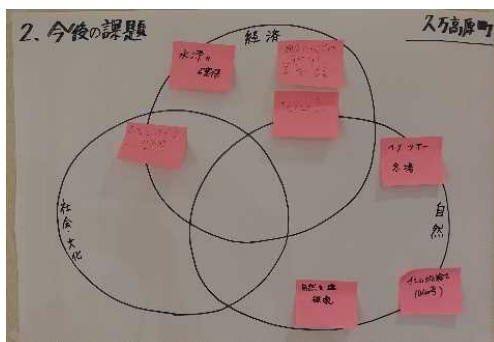
■ 久万高原町



現状課題		◎重要課題
1	経済	◎繁忙期の労働力不足
2		◎冬季の収入不足
3		冬観光の開発ができていない
4		購入意欲の喚起
5		観光への投資不足
6		◎キャンプ場横のトイレ整備、宿泊施設キャパシティ不足
7		SNSの発信が十分でない
8		日帰り型の消費形態（宿泊型への移行）
9	社会・文化	公共交通の脆弱性
10		マーケティング・プロモーション能力の欠如
11		子連れ客への対応施設ゼロ
12		◎道路整備不足
13		食事の場・質の向上
14		標識案内の整備不足
15		インフラの老朽化
16		美川までGSがない
17		インバウンド対応
18	社会・文化/自然	カルストに上る道が狭い
19		自然観光の周知不足
20	自然	トイレの未整備
21		自然の保護
22		◎観光客へのマナーの周知
23		雨・ガス時の観光資源不足
24		ガイドができる人が少ない
25		帰りの沿線でごみ捨てが多い

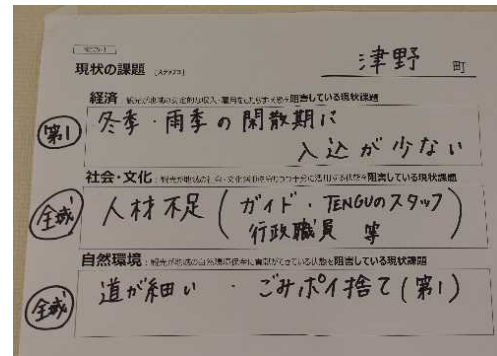


なりたい姿	
経済	観光従事者に四国カルストで年間を通して雇用があり、働くことができる状態。お客さんに満足してもらい、喜んでお金を落としてもらう。
社会・文化	社会インフラが整った状態。
自然	環境に負荷をかけない形で観光を推進していく。

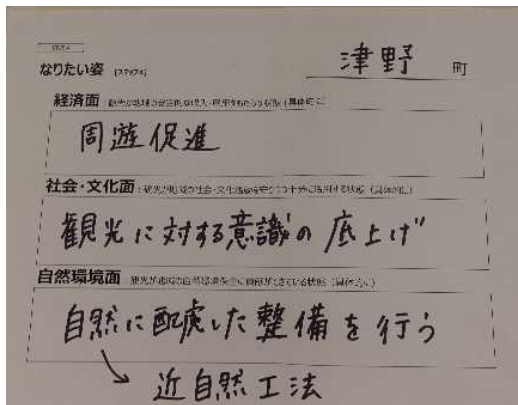


今後の課題		◎重要課題
1	経済	キャッシュレス対応
2		◎観光サービスの質的向上（食・宿泊・遊び）
3	経済/社会・文化	DXビッグデータの活用
4		◎住民の満足度向上
5	自然	水源の確保
6		冬場のヘリツアーなどのプログラム体制整備
7		ごみのポイ捨て
8		◎自然破壊

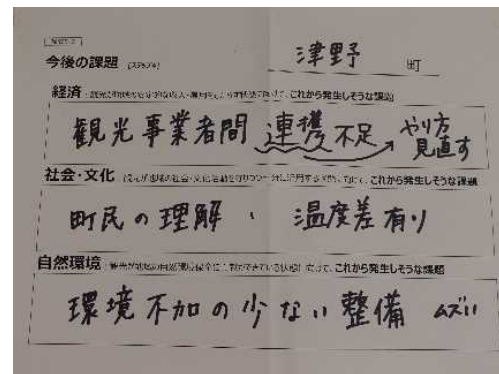
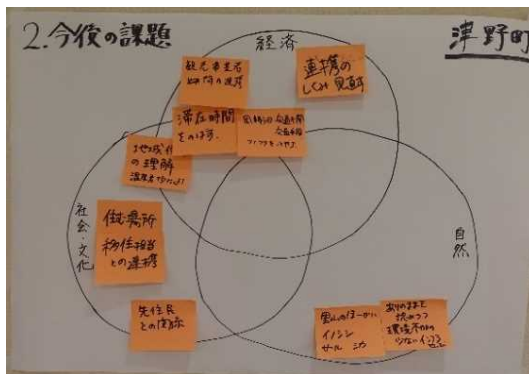
■ 津野町



現状課題		◎重要課題
1	経済	カルストからの立ち寄り周遊
2		◎季節性で変化する繁忙度 冬季の入込が少ない
3		食がない
4		飲食店が少ない
5		宣伝の仕方・広告費の使い道
6		冬場・雨季の閑散期対策
7	経済/社会・文化	WIFIインフラ整備
8	社会・文化	◎人材不足（ガイド・星ふるヴィレッジTENGUのスタッフ、行政職員等）
9		繋がりが無い（人・周遊）
10		忙しくて横のつながりが持ちにくい
11		マニア向け観光情報が少ない
12		案内看板の整備
13		リアルタイムの情報が少ない（ライブネットカメラなど）
14		車のライトやホテルの照明で星の写真が撮れない
15		インバウンド向け多言語ガイド看板少ない
16	社会・文化/自然	オーバーツーリズム
17	自然	自然スポットにトイレがない
18		ユニバーサルデザイン アクセシビリティ対応と自然の共存
19		登山道が悪い
20		◎道が細い
21		晴天時が少ない
22		◎ごみのポイ捨て



なりたい姿	
経済	観光スポットと観光スポットをつなぐ周遊促進が必須で、事業者通同士の横の連携ができることよい。
社会・文化	観光に対する意識の底上げをしていきたい。現在やっている事業への理解や温度差をなくしていくことが必要。
自然	自然に配慮した近自然工法で整備を行う。



今後の課題		◎重要課題
1	経済	◎観光事業者間の連携
2		連携の仕組みを見直す
3		滞在時間を延ばす
4		周遊時の交通手段を増やす
5	社会・文化	◎地域住民の理解、温度差を少なくする
6		住む場所が限られる 移住担当者との連携
7		住民との関係
8	自然	里山の崩壊（イノシシ・サル・鹿）
9		◎ありのままを認めつつ、環境負荷の少ないインフラ設備を整える

②意見交換

【四国運輸局】

久万高原町・津野町では、共通して道路をはじめとするインフラ整備、地域住民の意識向上が課題として挙げられた。優先的に取り組みたい課題に共通するものがあると考えられるが、どの点を優先していきたいか。

【津野町】

直近では、夏場を中心とした繁忙期の四国カルストの人材不足が課題である。逆に閑散期である冬場には人手があっても観光客が来ないというバランスが取れていない状態にある点を、解決する必要がある。

【久万高原町】

1番の課題は道路問題。昨年、積極的な道路情報の周知のため、久万高原町でカルストの広域のパンフレットを作成、また現在進めている高知県と愛媛県の土木事務所による縦断線の道路改良が成果となり、今年、ゴールデンウィーク、お盆、シルバーウィークに大きく目立った交通渋滞は発生しなかったように、じわじわ対処ができつつある。道路インフラの整備は今後も進めていかなくてはならない。冬季は全面閉鎖しているため、冬季の収益が課題となっており、これをどうするか考える必要がある。また、お金を消費してもらう仕組みができていないので、オーバーツーリズムとのバランスを取りながら進めていきたい。

優先順位としては、①インフラ整備、②お金を落としてもらう仕組みの対応。

【四国ツーリズム創造機構】

・地域に来訪していただいてもお金が落ちないという難しい課題があるが、共通の課題として挙がっていた閑散期対策について、現状、町の中心部でお金を使っていくサイクルが必要。夜の時間にお金を使ってもらうことが必要になってくるが、夜に楽しめるコンテンツはあるのか。

【津野町】

星ふるヴィレッジTENGUの訪問者は自然に関心のある人が多く、星空観賞は訴求力がある。語らいながらお酒を飲む場所があればまたリピーターになって集まるような形にできると考えるが、施設や人材などは不足している。目標を立てて、それに対してどうしていくか検討し、進めていく必要がある。

【久万高原町】

姫鶴荘に宿泊し、朝や夜も含めて宿泊するから楽しめる景色を見てもらいたいが、天気が悪いと霧で何も見えない。キャンセル料無料なので、天気が良いときにまた来てもらうようにしている状況。

【津野町】

姫鶴荘の宿泊者に津野町の星ふるヴィレッジTENGUで星空観賞・プラネタリウムなどのコンテンツを楽しんでもらうなど、町を越えた連携ができるとよいのではないか。

③解決課題の特定と具体化

■ 久万高原町 重要課題 1



- 観光のマナーとルールの未整備が課題で、レスポンシブルなルールの作成が必要となってきた。
- 四国カルストエリアでゴミを捨てないようにしてもらいたいが、持ち帰ってもらうことにより、他の施設に捨てられるという課題もある。
- ゴミ捨ての有料化、標識・看板などで、ゴミを捨てないように啓発をすること、カルスト以外の地域への周知をする仕組みづくりを行うことが必要。
- 【津野町】外から持ち込んで食べてもいいということにしているが、ほかのところで捨てられるよりはいいと考え、可能な限り声をかけている。星ふるヴィレッジTENGUでもゴミ箱を置いていない。現状、拾っていることもある。
- キャンプのゴミ回収から仕事が始まるくらいゴミが多いところがある。ゴミを持ち帰るとというのが明示されていない、呼びかけられていない。
- 急にコロナ後に来訪者が増えたため、対応が追いついていない。ゴミを多く出す傾向にあるキャンパーが増えた。RVパークではゴミの散乱はなく、客層が良い。ゴミを拾いながら紅葉を見るイベントなどもある。クリーンアップ自体をコンテンツにすることが考えられる。キャンパーでわざわざゴミ拾いをしてくれるお客さんもあり、マナーの良い来訪者もいる。

重点課題 1	観光のマナーとルールの未整備
最終アウトカム	レスポンシブルなルールの作成
中間アウトカム	ゴミを捨てないようにしてもらう
初期アウトカム	地域設備や道路のポイ捨てをなくす
具体的な内容	ゴミ捨ての有料化 標識や看板の設置 四国カルスト以外への周知

■ 久万高原町 重点課題2



- お金を使うコンテンツが少ないことが課題。現状、ソフトクリームを食べて帰る程度の人が多い。
- 観光収入を上げるため、お金を消費してもらう仕組みを作る。
- 地元の食材やメニューとの連携を行う。ガイドの育成・早朝と夜間のコンテンツの充実・接点を持って伝えることができるとよい。
- 【津野町との連携】 宿泊施設は、設備状況を考えると津野町の施設をお勧めしたい。大きな町や観光協会による周知や案内も重要だが、それだけではなく地域の個人個人がおすすめの場所や景色などを伝えることができるとよい。津野町も久万高原町の情報提供を行うなど相互に情報発信をしていけるとよい。久万高原町が作成したパンフレットを星ふるヴィレッジTENGUで配布することができているため、非常に助かっている。今年の夏やゴールデンウィークなど観光客が多いときに、ガイドを連れた観光案内を星ふるヴィレッジTENGUで実施し、おすすめはどこか聞かれた際に久万高原町のパンフレットを活用している。また、普段からスタッフも使用しているため、パンフレットの連携はそのまま継続できるとお互いの宣伝はしやすくなると思う。

重点課題2	お金を使うコンテンツが少ない
最終アウトカム	四国カルストをコアとして久万高原町の観光収入を上げる
中間アウトカム	久万高原町の素通り解消 早朝と夜間のコンテンツの充実 地元の食材やメニューとの連携
初期アウトカム	津野町をおすすめする 遊ぶ/泊まるコンテンツの作成 買う/食べるコンテンツの増加
具体的な内容	地域の観光ガイド育成 全体ではなく、各地区に特化した観光情報の発信 早朝ヨガプログラム 久万高原町の商品を姫鶴荘で販売する

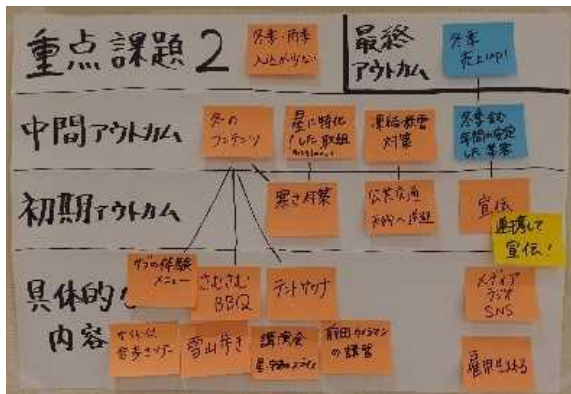
■ 津野町 重要課題 1



- ・ 人財不足への対応ができていないことが課題である。津野町に人が根付き、長く津野町のために取り組んでくれる「人財」が不足している。
- ・ 適材適所で、働く人が自己肯定感を感じながら、得意なことを発揮できる場を作っていけるとよい。
- ・ 仕事は自己表現の一つでもあるため、人材育成のシステム構築が必要。
- ・ 町の補助体制を活用した星のソムリエ養成講座や観光ガイドの養成講座があるが、講座に参加することも人材育成につながる。
- ・ 様々なツールや人との繋がりを活用し、本当に伝わってほしい人に情報が届くような発信を行う必要がある。
- ・ 管理者の意識改革が重要であり、そのために、地域の団体の情報共有、顔を合わせた情報共有が必要。
- ・ 【久万高原町との連携】冬季の手伝いに姫鶴荘から星ふるヴィレッジTENGUに、人材を派遣することができる。

重点課題 1	人財不足
最終アウトカム	適材適所
中間アウトカム	人材育成のシステム構築 自己肯定感を覚えられる 得意なことを発揮できる場 管理者の意識改革
初期アウトカム	機会創出 伝わってほしい人に情報が届く 情報共有 団体間の連携
具体的な内容	補助体制活用 星のソムリエ・ガイド養成講座などの人材育成プログラム Facebook LINEグループ 集活センター 任意団体

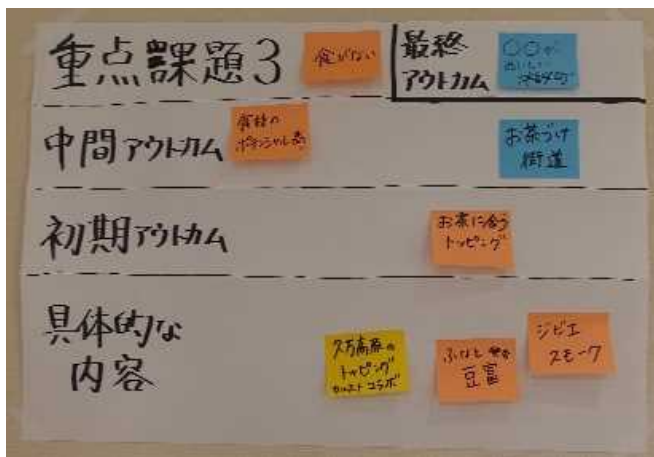
■ 津野町 重要課題2



- ・ 冬季の売り上げをアップさせ、年間を通して収入を得られるような体制にしたい。
- ・ そのためには冬季のコンテンツ造成が必要。
- ・ 寒い中でのテントサウナや雪歩きツアーなど、冬のコンテンツに加えるサブ体験メニューを具体的に検討。
- ・ 集客のためには、凍結・積雪対策として、公共交通で星ふるヴィレッジTENGUへ送迎ができるとよい。
- ・ メディア・SNSなどを活用して宣伝を行っていくことも必要。寒いからこそ楽しめるコンテンツを作成する。コンテンツを選ぶ楽しさも生み出せるとよい。

重点課題2	冬季・雨季の入込が少ない
最終アウトカム	冬季売上UP ▶ 雇用が生まれる
中間アウトカム	冬のコンテンツでの集客 星に特化した取組 凍結・積雪対策 冬季含む年間の安定した集客
初期アウトカム	寒さ対策 公共交通整備をし星ふるヴィレッジTENGUへ送迎 宣伝
具体的な内容	サブの体験メニュー開発 ガイド付き雪歩きツアー 前田カメラマンの講習 雪山歩き さむさむBBQ（寒い中でのBBQ体験） テントサウナ 星・宇宙の講演会 メディア(ラジオ/SNS)の活用

■ 津野町 重要課題3



- ・ 特別な食の魅力がないことが課題である。久万高原町も、肉・魚が特産ではないので、誘客には弱く、課題感がある。
- ・ 「〇〇がおいしい津野町」として認知されるようになるとよい。
- ・ 津野町はお茶があるので、いろいろなお店でお茶漬けが食べられるようにする「お茶漬け街道」をやってみてはいいのではないかと。ポテンシャルの高い食材が生かせる。
- ・ 具体的には、ジビエスモーク・豆腐チーズなど、津野町の特産品で、お茶に合うトッピングで特色を出すことが想定できる。
- ・ 久万高原町の特産品と絡めて四国カルストコラボトッピングとして売り出すこともできるとよい。
- ・ 【久万高原町連携】ドライトマト、乾燥野菜など具体的な連携に向けたアイデア出しをしていく。

重点課題3	特別な食の魅力がない
最終アウトカム	〇〇がおいしい津野町
中間アウトカム	ポテンシャルの高い食材を生かす お茶漬け街道の企画
初期アウトカム	お茶に合うトッピング
具体的な内容	ふなと豆腐の活用 ジビエスモークの活用 久万高原のトッピング カルストコラボ

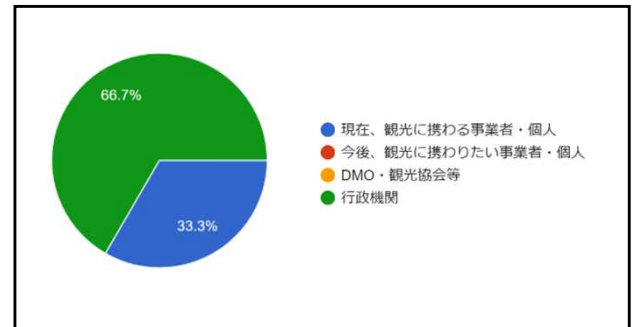
(3)実施の様子

	
会場	上戸課長挨拶
	
久万高原町グループワーク	津野町グループワーク
	
久万高原町発表	津野町発表
	
久万高原町岡班長挨拶	津野町野瀬課長補佐挨拶

(4) 参加者アンケート(概要)

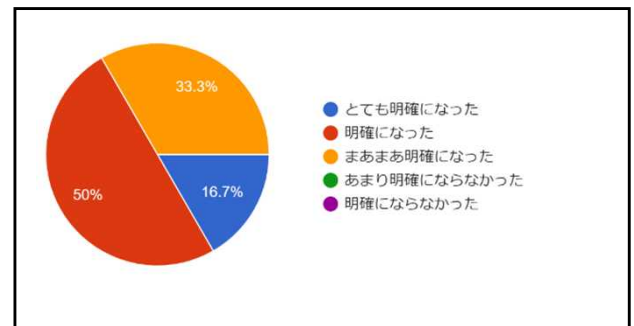
1. 回答者属性

アンケートでは、行政機関従事者、観光に携わる事業者・個人から回答があった。



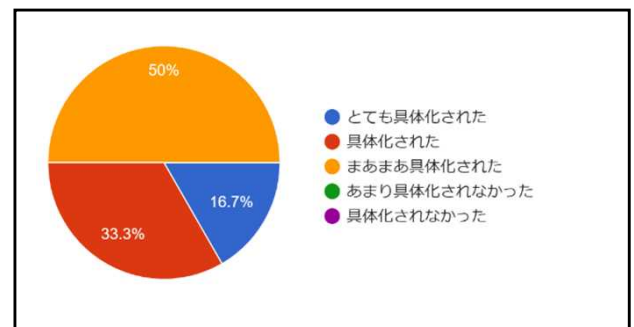
2-1. グループワーク前半について

「地域のなりたい姿と課題が明確になったか」に関しては、「とても明確になった」「明確になった」と答えた人が3分の2を超え、なりたい姿や課題を参加者で共有できたとの回答があった。



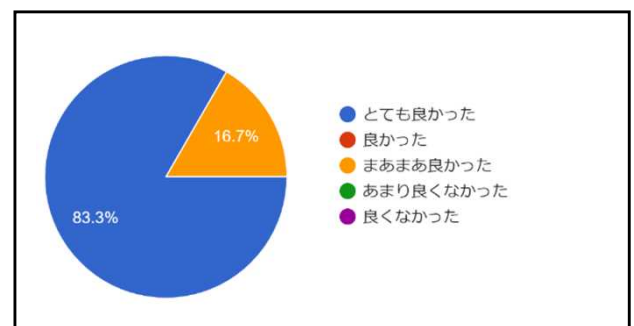
2-2. グループワーク後半について

「解決する課題の特定、取組・指標は具体化されたか」については、「とても具体化された」「具体化された」と答えた人が半数で、「最終目標に向けて具体的に対策方法について考えることが出来た」などの意見があった一方、「時間が足りなかった」との意見もあった。



3. 2町合同開催したことについて

「2町合同開催したことについて」は、80%以上がとても良かったと回答し、「町外のつながりができた」「共通点に感じている課題や連携してできることが明確になった」などポジティブな意見が多かった。



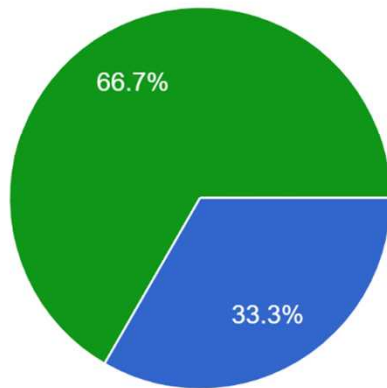
4. 今回のワークショップ全体について

「参加できて勉強になった」「定期的に話し合える場が必要だと強く感じた」「ワークショップの翌日、早速四国カルストに行ってみて、課題や解決策について改めて考えてみた」などの意見があった。

(4) 参加者アンケート(結果)

1-1 参加区分

6 responses



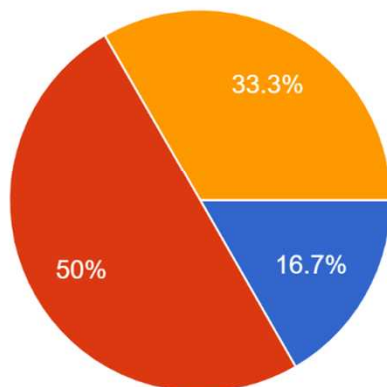
- 現在、観光に携わる事業者・個人
- 今後、観光に携わりたい事業者・個人
- DMO・観光協会等
- 行政機関

2. ワークショップに関する質問

2-1. グループワーク前半、アクションプラン1：地域のなりたい姿と課題の明確化

(1) 地域のなりたい姿と課題は明確になりましたか

6 responses



- とても明確になった
- 明確になった
- まあまあ明確になった
- あまり明確にならなかった
- 明確にならなかった

(1) について特にそう感じた内容や理由について記入してください

これまで感じていたことと大きく変わりはないですが、文字に起こされることでまた考え直せました。
紙に書き出すことでかなり整理されました。あとは行動をどう起こしていくかだとも思います。
ワークショップにより、ほかの方の意見も聞け参考になったが、時間が足りなかった
道路整備や労働力問題などがあがったのですが、今後の問題まではたどり着けなかったので今後考えていきたいと思います。
本町が抱える課題を参加者で共有できたこと
段階を追ってつきつめていくことで、課題やなりたい姿をグループで共有できたから。

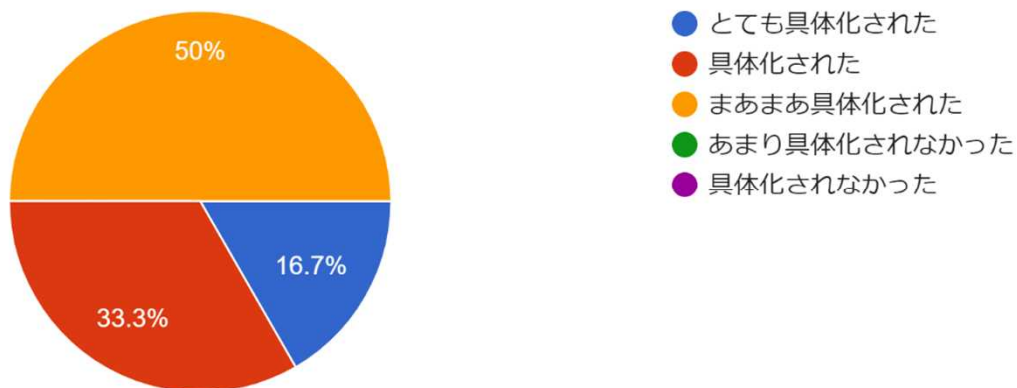
(2) その他、本ワークショップへのご質問・ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

もう少し時間が欲しかったです。
ないです
時間に余裕をもつか、課題の洗い出しを1つにしたほうが良いかも
楽しく有意義な時間を過ごせました。
今回は時間が少なかった。

2-2. グループワーク後半、アクションプラン2：解決する課題の特定、取組・指標の具体化

(1) 解決する課題の特定、取組・指標は具体化されましたか

6 responses



(1) について特にそう感じた内容や理由について記入してください

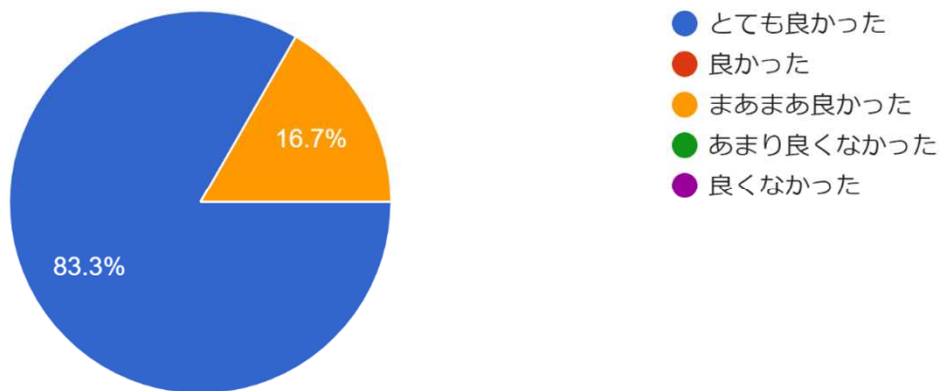
もっと明確な、明日からでもさあやろう！となれるところまで持っていきたかったが、そこはなかなか厳しかった。
いろんな方の意見をさく機会をいただけて、参考になりました。
課題への取り組み内容はでたが、さらに取り組んでいく中でも課題が出てくると思うので、時間に余裕があれば、そこまで話できたかも
最終目標に向けて具体的に対策方法について考えることが出来たと思います。
参加者から積極的な意見が提起されたこと。
ロジックツリーを用いることで、論理的に言及することができたから。

(2) その他、本ワークショップへのご質問・ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

ワークショップが進まなさそうになるとオブザーバーの方たちがサポートに入ってくれてありがたかった。
ないです
ワークショップは、課題を1つにしぼるか、時間に余裕をもつか、どちらかで実施すれば、具体的な計画の段階までいけるのではと感じました。
津野町との連携をこれからもっと深めて行きたいと思います。
同じく時間が少なかった。

3. 2町合同開催したことについて

6 responses



3について特にそう感じた内容や理由について記入してください

がっつり津野町の中身だけだったので。わざわざ一緒にやるのなら、もっと2町で共通することについて話す場があるといいと思いました
町外のつながりができました。
四国カルスト周辺地域という近い場所にしながら、民間事業者同士で話すこともありませんでした。今回のワークショップで実際に連携できるような話もできてよかったです。
お互いの問題点について話し合うことが出来た。
お互いに補完し合いたい課題や提案が出されたこと、
共通点に感じている課題や連携してできることが明確になり、互いにサポートすることができるから。具体的な解決策に向けたよりよい案が生まれるきっかけとなる

4. 今回のワークショップ全体についてのご意見やご質問等ございましたら、自由にご記入ください

ワークショップの中身はあまり一緒には揉めなかったけど、でも多少なりとも久万高原町さんの事情を聞けたりお話しする機会になったのでありがたかったです。
ないです
参加したみなさん、ワークショップに真剣に取り組む半日の作業だけでも疲れていたもので、休憩をとりながら丸1日時間をとったほうが負担がすくないかと思います。
またの機会があれば是非参加させていただきたいです。 このような機会に参加出来てすごく勉強になりました。ありがとうございました。
本事業が終了しても、このような枠組みは継続して残し、定期的に話し合える場が必要だと強く感じた。
2町合同のワークショップとなり、課題解決に向けた議論が活発に行われたと思います。ワークショップの翌日、早速四国カルストに行ってみて、課題や解決策について改めて考えてみました。貴重な機会をありがとうございました。

（５）実施成果と今後の展開

【成果】

■ エリアの観光への理解深化

本ワークショップを通じて、各エリアでの課題となりたい姿について具体的に検討することができ、観光の観点で総合的に各町についての理解を深めることができた。経済、社会・文化、自然の分野別で考えることで、各ステークホルダーが各自のできる現実的な課題への対応策を検討することができた。

■ 優先事項の明確化

様々な課題があることを認識していたが、何から手を付けるかという観点で意見を出すことにより、重要視する優先事項を明確にし、合意形成につながった。

■ 2町の相互理解・連携可能性

久万高原町・津野町の2町で課題を共有することで、自分たちのエリアだけで解決することのできない課題に対し、町域を越えて連携することで課題が解決できる可能性を確認することができた。こうした可能性を参加者全員で認識することができ、事業者の方々同士にとっては、相互理解や交流促進にもつながった。

【課題】

■ 更なる意見交換の必要性

今回は、話し合う内容が多く、時間が不足していたという声も多かった。今後も継続して意見交換を行っていくにあたり、時間の確保やテーマの絞り込みも必要と考えられる。



【今後の展開】

■ アクションプランへの落とし込み

今回、考えられる課題について詳細に検討したが、時間の制約もあり今後のアクションまでの整理が十分ではなかったと考えられる。今後すぐにでも取り掛かることができるアクションを明確にし、道筋をたてることできるよう、アクションプランへの落とし込みを行っていく必要がある。

■ 継続した検討体制の枠組みづくり

今回のワークショップで意見を出し合い合意形成を行うプロセスを実施し、推進体制ができてきているので、今後も継続して取り組むことができるよう、検討体制を整えていく必要がある。町や観光協会が率先して動くとともに、事業者も積極的に動ける人が中心となって連携を促進する必要がある。

2-3. 今後実施すべき対応策の取り纏め

事業を通じて作成したデスティネーションプロフィール、アセスメントレポート、ワークショップの内容を総合的に整理・分析したうえで、詳細なアクションプランの取り纏めを行った。

また、これまでの事業の最終報告として、ワークショップの結果をふまえた久万高原町・津野町のアクションプランを検討・整理した内容をもとに、関係者が集まって意見交換を行う場を設定し、今後の方向性の検討および意識共有を行った。

2-3-1. アクションプラン

ワークショップをもとに集約された情報を確認・分析し、各自治体の観光における現状、課題、方向性等をふまえたうえで、具体的な取り組みをとりまとめたアクションプラン（今後実施すべき対応策等）を作成した。作成したアクションプランは、末尾添付「アクションプラン」を参照。

作成概要	
項目設定	課題、JSTS-Dとの紐づけ、目指す姿、具体的な取り組み、事業化のポイントを詳細に記載。（項目の内容は次頁参照）
使用ツール	入力シート（エクセル形式）：アセスメントレポートシートに準じた形式にて作成。
引用・参考データ	・ワークショップセミナー結果 ・自治体提供データ/自治体ホームページ公表データ ・自治体総合計画・総合振興計画 ・自治体担当課ヒアリング・現地調査 ・その他観光分野の最新動向・事例

デスティネーションプロフィール、アセスメントレポート、ワークショップで検討した具体的な取り組みを総合的に整理・分析したうえで、アクションプランの詳細化を行った。

【作成のポイント】

ワークショップで取り上げられた重要課題をまとめ、JSTS-Dの項目との紐づけを行ったうえで、課題を解決し目指す状態を明らかにする。目指す状態を実現するためのアクションを具体化し、個別の取り組みを実行するための事業化の可能性について記載。

- ・将来的にも活用していけるフォーマット
- ・ワークショップでの関係者の意向を最大限取り入れたアクション設定
- ・課題の解決に対して必要と考えられるアクションを提案として追加（後の最終報告会で説明、共有。）
- ・事業対象自治体の他の計画（総合計画、観光振興計画等）との整合性がとれた内容
- ・個別の取り組みを実行に移す根拠資料となるように記載

アクションプランの整理・分析

No.	項目		作成・入力		説明
			自治体	リベルタ	
1	重点課題（優先課題）		○	---	ワークショップで各町から導かれた重要課題
2	関連する課題		○	---	ワークショップで挙げられた課題
3	対象エリア		○	○	課題のある（今後考えられる）エリア ・久万高原町 久万エリア/面河エリア/美川エリア/柳谷エリア/町全体 ・津野町 天狗高原エリア/源流点・風車エリア/不入・裏源流エリア/町全体
4	観光資源		○	○	関連する観光資源
5	JSTS-D指標		---	○	JSTS-Dの項目
6	目指す状態	方法	○	○	ワークショップで検討した、目指す状態にするための方法
		状態	○	○	ワークショップで検討した目指す状態
7	施策		○	○	考えられる施策 例）ごみ捨てに関するルール整備
8	取り組み		○	○	具体的取り組み 例）インバウンド向けのガイド育成
9	指標種別		○	○	指標の考え方 アウトプット：事業直結の結果、成果物 等 アウトカム：事業結果・成果物（アウトプット）に関連する成果
10	指標計測手法		---	○	指標の計測方法 例）参加者数
11	実施主体		---	○	取組の実施主体
12	連携先		○	○	取組を行う上での連携先
13	事業概算		---	○	取組を行うのに必要と想定される事業費 ・～100万円 ・101万円～300万円 ・301万円～500万円 ・501万円～1000万円
14	実施期間（目安）		---	○	取り組み実施期間の目安 ・R5年度（1年）内 ・R5～7年度（1～3年）内 ・R7～9年度（3～5年）内
15	備考（令和5年度概算要求）	事業名	---	○	令和5年度概算要求で活用が見込める事業
		補助・支援	---	○	各事業の補助・支援内容

アクションプラン入力シート

アクションプランの項目

アクションプラン										資料3 久万島渡町									
事業計画	実施年度	実施期間	実施主体	実施内容	実施方法	実施場所	実施時期	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数	実施回数
観光分野・観光振興	2025年度	4月～12月	観光振興課	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業
観光分野・観光振興	2026年度	4月～12月	観光振興課	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業
観光分野・観光振興	2027年度	4月～12月	観光振興課	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業
観光分野・観光振興	2028年度	4月～12月	観光振興課	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業	観光振興事業

課題の分類

アクション

事業化のポイント

2-3-1-1. 久万高原町のアクションプラン

久万高原町のアクションプランについて、主要な項目を抜粋した一覧を下記に示す。全項目については、末尾添付「久万高原町アクションプラン」を参照。

白字 「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」の様式を参考とする項目

黒字 選択入力

赤字 リベルタ追加提案

目指す状態		施策	取り組み	指標種別 （アウトプット・ア ウトカム）	指標計測 手法	実施主体	連携先
方針	状態						
レスポンスブルーツリ ズムを土台とした ルールづくり	ゴミ放置・ ポイ捨ての 削減	来訪者のゴミ捨てに 関するルール 整備	関係者によるワーキンググルー プの形成	アウトプット	・ワーキンググ ループ数 ・参画者（団 体）数	・久万高原 町 ・津野町	四国カルスト 関係自治体 （梶原町、 西予市、内 子町） ・久万高原 町観光協会 ・株式会社ソ ラヤマいしづ ち ・久万高原 町関係事業 者・個人
			ワーキンググループでの検討会 等の実施	アウトカム	（検討会の実 施回数）	・久万高原 町 ・津野町	
			来訪者のゴミに関するルール 作り	アウトプット	ルールの策定数	・久万高原 町 ・津野町	
			先進地事例等の勉強会・研 修の実施	アウトプット	勉強会・研修の 実施回数、参 加人数	・久万高原 町 ・津野町	
			ゴミ捨ての有料化	アウトプット	来訪者向けアン ケート、関係者 （地域内）向 けアンケート	・久万高原 町 （津野町）	
スポーツを活用した 活用した観光アク ション		来訪者のゴミ捨てに 関するマナー 啓発	標識や看板の設置	アウトプット	標識・看板の設 置数	・久万高原 町	
			ゴミ拾い×スポーツイベント （プロギング）の企画・実施 ＊ PlockaUppゴミ拾い + Jogging走る=Plogging	アウトプット	イベント実施回 数、イベント参 加人数、ゴミの 回収量（重 量）	・久万高原 町 （津野町）	
			ゴミ拾いツアーの商品化	アウトカム	（ツアー造成 数）	・久万高原 町 （津野町）	
エコ・ツーリズムを活 用したゴミ・ゼロの 仕組みづくり		ゴミの削減・不法 投棄の防止	ゴミ収集・分別の仕組みづくり （「来場者参加型」のしくみをつ くる、イベント環境対策プロ ジェクト「ごみゼロ・ナビゲーシ ョン」）	アウトプット	ごみゼロ・ナビ ゲーション実施 回数	・久万高原 町 （津野町）	
			ボランティア（有償）、地域お こし協力隊等の活用	アウトプット	ボランティア参加 者数	・久万高原 町 （津野町）	
			ゴミ回収・分別量の計測、公 表	アウトプット	ゴミ回収量、資 源ごみ回収量	・久万高原 町 （津野町）	
推進エリア（四国 カルスト）を格とし た、全域でのルール の徹底・推進		来訪者のゴミ捨てに 関するマナー の周知	情報発信	アウトプット	自治体ホーム ページ・広報等 での発信数、 SNS等での情 報発信数	・久万高原 町 （津野町）	

- 重点課題のマナー・ルール、ゴミに関して出来るアクションとしては、来訪者のゴミ捨てに関するルールを今後整備していく場合に久万高原町だけではなく1市4町（津野町、梶原町、内子町、西予市）の連携が必要。
- 対象地域全体でワーキンググループを形成し、勉強会や意見交換の場を作っていけると良い。
- 来訪者自身が自発的に参加する形でできるようなものが有効。夏場にスポーツ系の合宿等で宿泊者や利用が多く、高地トレーニング（ランニング）する方も今後誘客の対象になることが見込まれ、プロギングは、四国カルストでも相性が良いと考えられるため提案。

目指す状態		施策	取り組み	指標種別 (アウトプット・ アウトカム)	指標計測 手法	実施主 体	連携先			
方針	状態									
・一年を通じた 四季折々のコン テンツの充実 ・朝、晩のブラン ディング ・エリアの特色を 活かしたコンテ ンツの充実（お遍 路、修験）	・四国カルストでの消 費拡大 ・来訪者層の拡大	コンテンツ開発	早朝コンテンツの造成 （四国カルスト）	アウトプット	コンテンツ造成数	・久万高 原町 ・久万高 原町観 光協会 ・株式会 社ソラヤ まいしづち ・津野町	・町内事業者			
			夜間コンテンツの造成 （四国カルスト）	アウトプット	コンテンツ造成数		・町内事業者			
			雨天時の代替コンテンツ （プランB）の準備 ＊星ふるヴィレッジ TENGU（津野町）との 連携	アウトプット	コンテンツ造成数		・町内事業者 ・津野町関係 者			
			エコ・ツーリズム、自然保 護に関わるコンテンツ造 成	アウトプット	コンテンツ造成数		・町内事業者 ・近隣自治体			
	ガイド人材の増加	人材育成	インバウンド対応ガイド育 成	アウトプット	有償ガイド育成数		・町内事業者 ・近隣自治体			
			観光ガイド育成	アウトプット	有償ガイド育成数		・町内事業者 ・近隣自治体			
			四国カルスト専門ガイド 育成（案）	アウトプット	有償ガイド育成数		・町内事業者 ・近隣自治体			
			四国カルストにおける来 訪マナー・ルールの整備	アウトプット	来訪マナー・ルール		・町内事業者 ・近隣自治体			
			少数・高単価の誘 客	インバウンド誘客	インバウンド商品開発 （欧米豪市場）		アウトプット	コンテンツ造成数	・町内事業者 ・近隣自治体	
							アウトカム	滞在ツアー（モデ ルコース）数	・町内事業者 ・近隣自治体	
	＊レスポンスブル・ ツーリズム ＊ウェルネス・ツー リズム	アウトプット			研修実施回数、 研修参加人数		・町内事業者 ・近隣自治体			
	欧米豪市場に関するニー ズ調査	アウトプット			対象旅行会社へ のヒアリング数、対 象市場の旅行者 へのヒアリング数		・町内事業者 ・近隣自治体			
	ターゲット市場・ターゲット 像の設定	アウトカム	---		・町内事業者 ・近隣自治体					
	地域資源の相 互理解・情報共 有の機会づくり	事業者間連携の強 化・促進	事業者向け研修		町内事業者、関係者向 けコンテンツ勉強会		アウトプット	・研修参加者数 ・体験実施コンテ ンツ数	・久万高 原町 ・久万高 原町観 光協会 ・株式会 社ソラヤ まいしづち	・町内事業者 ・近隣自治体

- ・現状コンテンツが充実しておらず、朝晩のブランディングが必要。町内でなかなか滞在に繋がっていないという状況の中で泊まったから見られる景色、泊まったからできる体験、といったものを作っていくことは必要。
- ・部分単価が低い、消費が落ちないという点に関しては、インバウンド特に欧米豪市場は消費単価も高く、日本人であれば、日帰りで行ってしまうようなところも珍しい日本の奥地ということで見せていくことで宿泊を伴う誘客は十分にできると考え提案。久万高原町には札所は2つあることも組み込みインバウンド誘客に着目することは令和5年度の事業としても十分可能。
- ・人材に関しても域外から通訳案内士さんと連携して協力いただくことも可能だが町内にインバウンド対応できる人材を育てていくことも必要。四国カルストに関しては、今後ゴミマナー等を整備していくということであれば、しっかり発信していけるような四国カルスト専門ガイド（仮）を自治体間で連携して一緒に育ていくというのもブランディングにつながる。
- ・インバウンド誘客を、レスポンスブル・ツーリズム、ウェルネスツーリズムの切り口で進めることもできる。市場、ターゲット、セグメント等の調査も事業として実施していく必要がある。

目指す状態		施策	取り組み	指標種別 (アウトプット・アウトカム)	指標計測手法	実施主体	連携先
方針	状態						
久万高原町食材の ブランディング 「野菜が美味しい久 万高原町」	地域特有、 希少性の 高い食材の 発掘	地元の食材発掘・ 調査	久万高原町食材の 整理、リスト化	アウトプット	選定した食材 数、リスト数	・久万高原 町 ・久万高原 町観光協 会 ・株式会社 ソラヤマい づち	・町内事業 者
			食文化の情報収集、 リスト化	アウトプット	情報収集・整 理数		・町内事業 者
		食の情報整理	食に関する人材、農 家、団体等の整理	アウトプット	情報収集・整 理数		・町内事業 者
			年間の高原野菜 (食材) カレンダー の作成	アウトプット	例) 津野町の 食材カレンダー		・町内事業 者
	地域特有、 希少性の 高い食材の 活用	メニュー開発	ご当地メニューの開 発	アウトプット	創作メニュー数		・町内事業 者 ・近隣地域 (津野 町)
			ビーガン・ベジタリア ンに関する勉強会	アウトプット	研修実施回数 研修参加人数		・町内事業 者 ・近隣地域 (津野 町)
			ビーガン・ベジタリア ンメニューの開発	アウトプット	創作メニュー数		・町内事業 者 ・近隣地域 (津野 町)
		情報発信	情報マップの作成	アウトプット	ご当地メニュー 提供店マップ作 成		・町内事業 者
			情報マップ配布	アウトカム	マップ配布数 (ダウンロードを 含む)		・町内事業 者
			SNS発信	アウトプット	SNS等での情 報発信数		・町内事業 者
			SNS反響	アウトカム	SNS等のユー ザー数、閲覧 数		・町内事業 者
		販売促進	姫鶴荘での商品販 売	アウトプット	販売数、販売 売上	・姫鶴荘	・町内事業 者
		ツアー開発	食コンテンツの開発 * 生産農家への訪 問を組み込んだ食ツ アー	アウトプット	コンテンツ造成 数	・久万高原 町 ・久万高原 町観光協 会 ・株式会社 ソラヤマい づち	・町内事業 者 ・近隣地域 (津野 町)

- ・ 久万高原町の食材を活かしたブランディングが必要。
- ・ インバウンド、特にサステナブルやウェルネスをテーマとした客層はベジタリアンやビーガンの方の割合が高く、おいしい野菜を提供できる地域というのは、相性がいい。野菜を強みとして地域としてとがらせていくのも1つの戦略になる。
- ・ 津野町では、優先課題の3番として食が出てきているので、連携して取り組んでいくことで、四国カルストのエリアとしての強みにつなげる。
- ・ 食を活かしたツアーやコンテンツで地域の方との交流をからめると魅力がより強まる。

2-3-1-2. 津野町のアクションプラン

津野町のアクションプランについて、主要な項目を抜粋した一覧を下記に示す。全項目については、末尾添付「津野町アクションプラン」を参照。

白字 「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」の様式を参考とする項目

黒字 選択入力

赤字 リベルタ追加提案

目指す状態		施策	取り組み	指標種別 (アウトプット・アウトカム)	指標計測 手法	実施主体	連携先
方針	状態						
適材適所に活躍できる人財（材）の育成と機会創出	スタッフの維持・増加 (主に星ふるヴィレッジ TENGU)	人材確保	人材確保の支援	アウトプット	通年従事者数、季節従事者数	・津野町 ・星ふるヴィレッジ TENGU	・町内事業者 ・久万高原町 姫鶴荘
			季節に応じた施設稼働率・必要従業員数の把握	アウトプット	月別施設稼働率・稼働目標、必要人員数	・津野町 ・星ふるヴィレッジ TENGU	・町内事業者 ・近隣自治体
	事業者間連携の強化・促進		情報交換の場づくり	アウトカム	---	・津野町 ・町内事業者	・町内事業者 ・久万高原町 姫鶴荘
	ガイド人材の増加	人材育成	インバウンド対応ガイド育成	アウトプット	有償ガイド育成数	・津野町	
			観光ガイド育成	アウトプット	有償ガイド育成数	・津野町	
			四国カルスト専門ガイド育成（案）	アウトプット	有償ガイド育成数	・津野町 ・久万高原町	四国カルスト関係自治体 (梶原町、西予市、内子町)
			四国カルストにおける来訪マナー・ルールの整備	アウトプット	来訪マナー・ルール		
			星に関する専門ガイド育成（案）	アウトプット	有償ガイド育成数	・津野町 (・久万高原町)	四国カルスト関係自治体 (梶原町、西予市、内子町)
			お茶専門ガイド育成（案）	アウトプット	有償ガイド育成数	・津野町	

- ・ 適材適所に活躍できる“人財（材）”が、非常に重要。1人1人ができることを引き出して、情報共有し地域、町内の中で循環できるような仕事の機会を増やす等の取り組みが重要。
- ・ 人材育成は、他に挙げられていた季節変動、閑散期の対策、食の課題とも連動するため、取り組みも連動できるとよい。

2-3-1-2. 津野町のアクションプラン

津野町のアクションプランについて、主要な項目を抜粋した一覧を下記に示す。全項目については、末尾添付「津野町アクションプラン」を参照。

目指す状態		施策	取り組み	指標種別 (アウトプット・アウトカム)	指標計測手法	実施主体	連携先
方針	状態						
・一年を通じた四季折々のコンテンツの充実 ・冬の津野町のブランディング	・閑散期コンテンツの造成・強化 ・一年を通じた集客の安定化	コンテンツ開発	星に特化したコンテンツの開発	アウトプット	星に関するコンテンツ造成数	・津野町 ・(株)五藤光学研究所	
			冬季コンテンツの開発	アウトプット	コンテンツ造成数(天狗高原エリア)	・津野町	・町内事業者 ・四国カルスト関係自治体(梶原町、西予市、内子町)
				アウトプット	コンテンツ造成数(他エリア)	・津野町	・町内事業者
			雨季コンテンツ(Bプラン)の開発	アウトプット	コンテンツ造成数	・津野町	・町内事業者
	冬季における少数・高単価の誘客	インバウンド誘客	冬季のインバウンド商品開発(欧米豪市場)	アウトプット	コンテンツ造成数	・津野町	・町内事業者 ・近隣自治体
			町内事業者向けインバウンド研修	アウトカム	滞在ツアー(モデルコース)数	・津野町	・町内事業者 ・近隣自治体
				アウトプット	研修実施回数、研修参加人数	・津野町	・町内事業者 ・近隣自治体
			欧米豪市場に関するニーズ調査	アウトプット	対象旅行会社へのヒアリング数、対象市場の旅行者へのヒアリング数	・津野町	・町内事業者 ・近隣自治体
			ターゲット市場・ターゲット像の設定	アウトカム	---	・津野町	・町内事業者 ・近隣自治体
	地域資源の相互理解・情報共有の機会づくり	事業者間連携の強化・促進	事業者向け研修会	アウトプット	・研修参加者数 ・体験実施コンテンツ数	・津野町	・町内事業者 ・近隣自治体

- ・ 繁忙期と閑散期の差が激しい状態に課題があるので、閑散期である冬のコンテンツ強化や、単価の底上げが必要。
- ・ 冬の星を生かしたコンテンツに関して、ガイド育成を行っていくと地域として特色が出る。
- ・ アウトドア系コンテンツの場合、雨の日の代替プランが必要になってくるので屋内や文化系のコンテンツを整えていくと、雨にも対応でき課題解決につながる。
- ・ インバウンド誘客では、特に冬の商品の造成・強化が考えられる。ターゲットに関して、星と組み合わせるのであれば、日本は北半球なので南半球の市場向けに星のコンテンツをつくとよい。
- ・ インバウンド、星関連のコンテンツとなると人数も限られてくるので、質の向上に繋がっていく。少人数高単価の商品設計を行う戦略も考えられる。

2-3-1-2. 津野町のアクションプラン

津野町のアクションプランについて、主要な項目を抜粋した一覧を下記に示す。全項目については、末尾添付「津野町アクションプラン」を参照。

目指す状態		施策	取り組み	指標種別 (アウトプット・アウトカム)	指標計測 手法	実施主体	連携先
方針	状態						
食に関する津野町の ブランディング 「〇〇が美味しい津 野町」	地域特有、 希少性の高 い食材の発 掘	食材発掘・調査	津野町食材の整理、 リスト化	アウトプット	選定した食材 数、リスト数	・津野町	・町内事業者
			食文化の情報収集、 リスト化	アウトプット	情報収集・整 理数	・津野町	・町内事業者
		食の情報整理	食に関する人材、団 体等の整理	アウトプット	情報収集・整 理数	・津野町	・町内事業者
			年間食材カレンダーの 作成	アウトプット	例) 津野町の 食材カレンダー	・津野町	・町内事業者
	地域特有、 希少性の高 い食材の活 用	メニュー開発	ご当地メニューの開発	アウトプット	創作メニュー数	・津野町	・町内事業者 ・近隣地域 (久万高原 町)
			ビーガン・ベジタリアン に関する勉強会	アウトプット	研修実施回数 研修参加人数	・津野町	・町内事業者 ・近隣地域 (久万高原 町)
			ビーガン・ベジタリアン メニューの開発	アウトプット	創作メニュー数	・津野町	・町内事業者 ・近隣地域 (久万高原 町)
		情報発信	情報マップの作成	アウトプット	ご当地メニュー 提供店マップ 作成	・津野町	・町内事業者
			情報マップ配布	アウトカム	マップ配布数 (ダウンロード を含む)	・津野町	・町内事業者
			SNS発信	アウトプット	SNS等での情 報発信数	・津野町	・町内事業者
			SNS反響	アウトカム	SNS等のユー ザー数、閲覧 数	・津野町	・町内事業者
		ツアー開発	食コンテンツの開発	アウトプット	コンテンツ造成 数	・津野町	・町内事業者 ・近隣地域 (久万高原 町)

- ・ 食については、ブランディングができていない状態。
- ・ 久万高原町とコラボレーションしていくことで事業として食の商品造成に取り組むことができる。
- ・ 久万高原町と同様、インバウンドがターゲットであれば、サステナブルをテーマでビーガンやベジタリアン向けの勉強会やメニューを開発していくことで、ターゲット層に選ばれる地域になっていける。

2-3-2. 最終報告会

(1) 実施概要

- 日時 : 令和4年11月30日(水) 14:00 ~ 16:00
- 実施方法 : 会場(津野町役場西庁舎1階ホール)及びオンライン
- 参加者 : 会場7名、オンライン20名
- 内容 :
 - ①開会挨拶(四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 上戸 康弘)
 - ②実施業務報告(リベルタ株式会社)
 - ・基礎勉強会の実施報告(オンライン)
 - ・ワークショップの実施報告(オンライン)
 - ・アクションプランの整理(会場)
 - ③意見交換(全体)

会議の様子



会場①



会場②

(2) 参加者

	区分	氏名	所属	役職	会場
1	久万高原町	岡 誠也	久万高原町 ふるさと創生課 観光振興班	班長	オンライン
2	久万高原町	西村 哲也	久万高原町 ふるさと創生課	課長	オンライン
3	久万高原町	竹森 洋輔	(一社) 久万高原町観光協会	代表理事	オンライン
4	久万高原町	山之内 野乃花	(一社) 久万高原町観光協会		オンライン
5	久万高原町	福田 剛正	(一財) 柳谷産業開発公社		オンライン
6	久万高原町	田村 有加	Petit Clif (キッチンカー経営)	社長	オンライン
7	津野町	大崎 陽子	津野町 観光推進課	課長	会場
8	津野町	野瀬 隆行	津野町 観光推進課	課長補佐	会場
9	津野町	高橋 芙柚香	津野町 観光推進課		会場
10	津野町	久保浦 彩	津野町 観光推進課		オンライン
11	津野町	豊田 坂江	維新の魁(さきがけ) 吉村虎太郎社中	代表	会場
12	津野町	大崎 正	貝ノ川棚田保存会	会長	会場
13	津野町	藤村 祐子	フォレストアドベンチャー・高知		会場
14	オブザーブ	松本 栄志	四国ツーリズム創造機構	シニアマネージャー	オンライン
15	オブザーブ	長尾 智史	高知県観光政策課	チーフ(観光戦略担当)	オンライン
16	オブザーブ	高橋 奨	高知県観光政策課	主幹	オンライン
17	オブザーブ	齊藤 弓子	高知県地域観光課	主査	オンライン
18	オブザーブ	西村薫李	高知県計画推進課	地域支援企画員	オンライン
19	事業実施主体	上戸 康弘	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 課長	オンライン
20	事業実施主体	青井 孝憲	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 主査	オンライン
21	事業実施主体	武市 琉来	国土交通省 四国運輸局	観光地域振興課 係員	オンライン
22	事業実施主体	福本 陽奈	国土交通省 四国運輸局 愛媛運輸支局	総務・企画観光部門 係員	オンライン
23	事業実施主体	山本 圭	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官	オンライン
24	事業実施主体	白方 宏樹	国土交通省 四国運輸局 高知運輸支局	総務・企画観光部門 係員	オンライン
25	受託事業者	林 美希子	リベルタ 株式会社	執行役員	会場
26	受託事業者	村井 友利乃	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント	オンライン
27	受託事業者	金氣 文隆	リベルタ 株式会社	トラベルコンサルタント	オンライン

(3) 実施内容

基礎勉強会の実施報告、ワークショップの実施報告、アクションプランについての説明を行った後、意見交換を行った。

1.開会挨拶（要旨） 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 上戸 康弘

- ・ アセスメントレポートの結果では、町としての具体的な取り組みがなく検討もまだしていない項目もいくつかあった。今後、両町の観光振興計画にも入れて頂くようなので、それと共にJSTS-Dの項目について、現状把握や自己分析して頂き、観光関係者の方、住民の方も含めて共有して頂くことで、より持続可能な観光に関する理解の促進、合意形成、人材育成等にも活用し、より持続可能な観光地づくりに取り組んでいきたい。
- ・ 11月18日には、ワークショップを開催し、四国カルストを中心に両町の課題の抽出・整理、意見交換を行った。人手不足やインフラ整備の不足、老朽化、訪問者の意識が十分ではないということも聞こえてきた。これは、すぐに解決できるような内容ではないが、前向きに両町については、カルスト周辺の皆様、自治体の皆様も含めて意識を共有し取り組んで頂きたい。
- ・ 様々な事例があるが、今後、両町でも訪問税や協力金について検討して頂いても良いかと思う。また全国で10か所以上マイカー規制に取り組んでいるので検討しても良い。現在は、フィーダー路線のバスを自治体で走らせているので、バスの活用、公共交通の活用、またはシャトルバスの活用というのも可能性を探ってみても良い。この両町だけでなくカルスト周辺の自治体の方々、観光地域の皆様、四国全体の持続可能な観光地としてのあり方を考えて頂ければと思う。

2.実施業務報告

●基礎勉強会の実施報告要旨（最終報告会資料1に沿って報告）

- ・ 講演(オンライン)：持続可能な観光における世界の潮流・持続可能な観光マネジメント（事例紹介）
〈スピーカー〉国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所 飯田 明博氏
UNWTOの紹介、国際観光の動向について、持続可能な観光と地域振興(国内外の事例)としてオランダ（アムステルダム）、パラオ、カナダ（トムソン・オカナガン）、ハワイ（ハナウマ湾）、沖縄の事例紹介を行った。
- ・ 事例紹介1（オンライン）：持続可能な観光推進モデル事業について
〈スピーカー〉国土交通省 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 上戸 康弘氏
持続可能な観光推進事業（令和5年度 観光庁概算要求中）の主な事業は、①持続可能な観光の推進における優良モデルの構築②持続可能な観光の推進に意欲的な地域を対象とした人材育成。
令和4年度持続可能な観光推進事業では、持続可能な観光地経営のモデル形成事業で四国地域採択6件あった。令和3年度事業は、国際的な認証機関（グリーン・ディステネーションズ、GD）による評価・表彰制度「TOP100選」へのエントリー支援が入っていた。
- ・ 事例紹介2（会場）：持続可能な観光開発における国内事例
〈スピーカー〉リベルタ株式会社 林 美希子
JSTS-Dは町の健康診断のようなもの。JSTS-Dの分野別の達成度を可視化することで、課題解決をするプランを作成することにつながる。地域の分類・事例として、釜石市、ニセコ町、三浦半島、釧路市阿寒湖温泉地区、上勝町を紹介した。欧米豪の若年層の世代が海外旅行において、サステナブルな取り組みを重視傾向にあり、旅ナカでの取り組みも一般的という感覚が多い。高年層は、サステナブルに関心層と無関心層にはっきりと分かれる傾向にある。

アンケート結果は、「とても役に立った」「役に立った」という意見がほぼ全体を占め、学んだ知識をスタッフで共有し、運営に活かしたい等の前向きな意見があった。成果としては、持続可能な観光について学ぶことで理解を深めることができ、国内外の事例を多く知ること自身のエリアの今後の取組について考える良い機会となった。課題としては、今後も補助金の活用や持続可能な観光の取組について情報を発信・提供する必要がある。

●ワークショップの実施報告要旨（最終報告会資料2に添って報告）

グループワーク前半「地域のなりたい姿と課題」について

【久万高原町】

現状の課題としては、労働力の問題、インフラの整備、道路の整備、観光客へのマナー周知、年間を通した雇用等。なりたい姿としては、社会インフラが整った状態、環境に負荷をかけない形でやっていきたい等。今後の課題としては、観光サービスの質的向上、住民の満足度の向上、ゴミのポイ捨て、自然を破壊しない等。優先的に取り組みたい課題は、インフラ整備、お金を消費してもらう仕組みづくり等。夜に楽しめるコンテンツは、宿泊するから楽しめる景色を見てもらいたいがプログラム化までは行っていない状況。

【津野町】

現状の課題としては、冬場・雨季の入込が少ない、人材不足、四国カルストの道が細い、ごみのポイ捨て等。なりたい姿としては、観光スポットをつなぐ周遊促進、事業者同士の横の連携を意識したい、観光に対する意識の底上げをしたい、現在やっている事業への理解や温度差をなくしていく、自然に配慮した近自然工法で整備を行う等。今後の課題としては、観光事業者間の連携、地域住民の理解、温度差を少なくする、環境負荷の少ないインフラ設備等。優先的に取り組みたい課題は、人材不足。夜に楽しめるコンテンツは、星空観賞がある。

グループワーク後半「解決課題の特定と具体化」について

【久万高原町】

重要課題は、①観光のマナーとルール未整備。解決する具体的な内容としては、ごみ捨ての有料化、標識・看板などで、ごみを捨てないよう啓発をすること、カルスト以外の地域への周知をする仕組みづくりを行うこと等。②お金を使うコンテンツが少ない。解決する具体的な内容としては、ガイドの育成、全体ではなく各地区に特化した観光情報の発信、早朝ヨガプログラム、久万高原町の商品を姫鶴荘で販売する等。

【津野町】

重要課題は、①人材不足への対応ができていない。解決する具体的な内容としては、補助体制活用、星のソムリエ・ガイド養成講座などの人材育成プログラム、Facebook・LINEグループ、集落活動センター・任意団体等。②冬季・雨季入込が少ない。解決する具体的な内容としては、サブの体験メニュー開発、星・宇宙の講演会、メディアの活用等。③特別な食の魅力がない。解決する具体的な内容としては、ふなと豆腐の活用、ジビエスモークの活用、久万高原町のトッピング・カルストコラボ等。

アンケート結果は、「参加できて勉強になった」「定期的に話し合える場が必要だと強く感じた」「ワークショップの翌日、早速四国カルストに行ってみて、課題や解決策について改めて考えてみた」などポジティブな意見があった。今後の展開としては、今後すぐにでも取り掛かることができるアクションを明確にし、道筋をたてることができるよう、アクションプランへの落とし込みを行っていく必要がある。また継続して取り組むことができるよう、検討体制を整えていく必要がある。町や観光協会が率先して動くとともに、事業者も積極的に動ける人が中心となって連携を促進する必要がある。

●アクションプランの整理要旨（末尾別添「アクションプラン」に沿って報告）

11月18日にワークショップを実施し、地域の課題やなりたい姿、重点課題について話した内容を基にアクションプランを整えた。地域の経営部分、観光に関する振興計画の策定、ハード系の道路整備等も自治体の役割実施業務として含まれるが、このアクションプランでは、ワークショップに参加をいただいた自治体、観光協会やDMO、観光事業者や個人の皆様方から出た絞り込んだソフト系の内容に特に重点を置いてまとめている。

【久万高原町】

久万高原町について、重点課題、優先課題は①観光マナーとルール、②コンテンツ不足、消費に繋がっていないこと。フォーム内の対象エリアとして、観光振興計画を基に四国カルストを含む柳谷、久万、面河、美川の4つに分類。そのエリアに関する課題なのか町全体の問題かと整理できるようにしており、課題に絡む観光資源とJSTS-Dに関連する指標も示している。

フォーム内黄色い部分について、重点課題のマナー、ルール、ゴミに関して出来るアクションとしては、来訪者のゴミ捨てに関するルールを今後整備していく場合に久万高原町だけではなく1市4町（津野町、梶原町、内子町、西予市）の連携が必要。対象地域全体でワーキンググループを形成し、勉強会や意見交換の場というのを作っていければ良いのでは。また、それ以外の施策としては、三浦半島のように来訪者自身が自発的に参加する形でできるようなものも有効ではないか。夏場にスポーツ系の合宿等で宿泊者や利用が多く、高地トレーニング（ランニング）する方も今後誘客の対象になると考えるので、プロギング（ゴミ拾いとスポーツをイベントとして実施するアクション）は、四国カルストでも非常に相性がいいのではという思いで入れさせていただいた。

ゴミに関しては、マナー作りや関係者の中で意見交換をしていく、今後の方針やルールを整えていくようなワーキンググループの形成という部分と実際に来る人のアクションにつながるようなイベントから始めて、ツアー化していく、旅行者に向けて発信していくというようなステップを踏むのが良いのでは。ゴミの削減、不法投棄の防止は、回収した先の分別のルールなども四国カルストエリア、県や自治体をまたいでの取り組みになるかと思うので、この辺りも産業課の方等も巻き込みながら取り組んでいく形になるかと思う。

2番目の課題コンテンツ不足、消費につながらないという点について、久万高原町の方では具体的なアクションとして朝晩のブランディングの必要性が出てきた。町内でなかなか滞在に繋がっていないという状況の中で泊まったから見られる景色、泊まったからできる体験、そういったものを作っていくことは必要ではないか。道後温泉に泊まり、1時間あれば来られるというアクセスの良さや、津野町と連携することで宿泊は津野町で行い、朝登ってきて姫鶴荘の方で朝ヨガをするという意見も出てきた。部分単価が低い、消費が落ちないといった部分に関しては、インバウンド、特に欧米豪から来る方は消費単価も高く、日本人であれば、日帰りで行ってしまうようなところも珍しい日本の奥地ということで見せていくと宿泊を伴う誘客は十分にできていると考えている。久万高原町には札所が2つあることも組み込み、インバウンド誘客に着目することは令和5年度の事業としても十分可能かと考えている。

人材に関しても域外から通訳案内士さんと連携して協力いただくことも可能だが町内にインバウンド対応できる人材を育てていくことも必要。四国カルストに関しては、今後ゴミマナー等を整備していくということであれば、しっかり発信していけるような四国カルスト専門ガイド（仮）を自治体間で連携して一緒に育てていくというのもブランディングにつながるのでは。

インバウンド客自身にもルールについてメッセージを伝えていくことも必要。切り口としては、レスポンシブルツーリズムでカルストに来る方、久万高原町に来る方はこんなことを守ってくださいねというメッセージを出していくことも非常に有効では。久万高原町に関しては、お遍路の要素や石鎚山といった修験的な部分、高原・高地の景色も綺麗という点ではデトックスに繋がるような見せ方も十分できるでは。朝のヨガという意見も関係者の方から出てきたが、ウェルネスツーリズムの切り口で見せていくことも十分可能ではと考える。

またインバウンドやサステナブルの具体的なテーマに沿った商品開発・研修の実施。市場、ターゲット、セグメント等の調査も事業として実施していく必要があるのでは。

食に関する意見が出ていたが、久万高原町の特徴として高原野菜というのがある。調べると西の軽井沢という書き方をしているところがあった。野菜が美味しく、育てている方の顔まで見える情報も多くあった。インバウンドの方、特にサステナブルとかウェルネスとなると非常にベジタリアンやビーガンの方の割合が高くなってくる。これとおいしい野菜を提供できる地域というのは、すごく相性がいいのでそういうメニューを強めて地域としてとがらせていくのも1つの戦略になるのでは。

津野町では、優先課題の3番として食が出てきているので、連携して取り組んでいくことで、特にインバウンドの方というのは、久万高原町に行くとか、津野町に行くというよりも四国というところで四国カルストに行くというように広いエリアで考えるので、連携しながら高原野菜や津野町のお茶をうまく重ねて、健康思考、ヘルシー思考といった方のニーズにしっかり届くような食の部分も強めていくことを令和5年以降の事業の中で実施していけると非常に強く魅力的な地域になっていくのでは。

生産農家の顔が見える情報があったので、そういう農家の協力をいただいて人の魅力と食を組み合わせたような、ご家庭にちょっと訪問するようなツアーやコンテンツというものも作ると特に観光という作り込んだものよりも、そういった地域の方との交流というのが喜ばれるという風に観光の商品も変わってきているので魅力がより強まるのでは。

右側の方には補足で入れた指標として、これを実施することによって何を成果として見ていくのかという手法を他地域の事例などを基に入れている。

実施主体に関しては久万高原町、津野町、愛媛県、高知県にも入っていただいて、より地域連携して進めていく必要がある。非常にそういった要素が特に四国カルストに関しては、県と連携しながらやっていく必要があると思っている。

1つ1つの取り組みをいくつか組み合わせて事業として実施するというのが基本になるかと思うので、費用はそれぞれ概算で入れている。実施期間に関しても5年より先の長期的なものというよりも、まずは目先の重点と思う課題に対して、具体的にできることで今回のアクションプランに整理している。

事業に関しては、具体的にどういう事業を国のお金を使っていけるかということで令和5年の概算要求が出て詳細がまだなので、決定ではないがこの事業だったら使えるのではないかなというものを入れ込んでいる。

【津野町】

対象エリアに関しては、観光振興計画を基に天狗高原、源流点、不入・裏源流の3エリアに分けている。重点課題として、①人財（材）。“人財”が、非常に重要。1人1人ができることを引き出して、情報共有し地域、町内の中で循環できるような仕事の機会を増やす等の活発な意見が出ていた。

特に人材育成という部分では、課題②季節変動、閑散期の対策、③食と連動してくる。特に食については、津野茶を活用した商品造成をもし進めていくのであれば、それを説明できる人材（ガイド、ソムリエ等、目に止まる、耳に残るようなネーミングも重要）の育成も有効では。

冬の星を生かしたコンテンツ、冬だけでなく星を生かしたコンテンツという風な意見も非常に出ており、これもネーミングを星ソムリエが良いのか、ガイドが良いのかということもあり、これに関しても、育成に力を入れていけると良いと思う。課題②について、冬期、雨が降ってしまうと入り込みが減ってしまうという意見が出ていた。

具体的な対策として、冬季のコンテンツ開発、星に特化したコンテンツ開発。特にアウトドア系の場合、雨の日の代替プランが必要になってくるので屋内や文化系のコンテンツというものを整えていくと、雨にも対応でき課題解決につながるのでは。インバウンド誘客では、特に冬の商品の造成・強化といったところが可能性として考えられるので、インバウンドの中でも特に冬期を狙った雪や星の商品開発も有効では。

ターゲットに関しても、星と組み合わせるのであれば、日本は北半球なので南半球の市場向けに星のコンテンツを設けるとよいのではないかと。南半球から来る人にとっては北半球で見る星には希少性があり、わざわざ日本で見たい星、というように繋がっていくのではないかと。

インバウンド、四国カルストや星となると人数も限られてくるので、質の向上に繋がっていき、少人数高単価といった商品に設計していくことも十分戦略として考えられるのではないかと。課題③食については、久万高原町とコラボレーションしていくことで事業として食の商品造成に取り組んで良いのでは。こちらも同様にインバウンドがターゲットであれば、サステナブルをテーマでビーガンやベジタリアン向けの勉強会やメニューを開発していくことでそういったターゲットの方に選ばれる地域になっていけるといところで入れている。

【事例紹介1 プロギングジャパン・iPledge ごみゼロナビゲーション】

一般社団法人プロギングジャパンという団体がある。プロギングは、ゴミ拾いと走るというものを組み合わせた造語でスウェーデン語を使っており、ヨーロッパ系の方にも馴染みのあるアクション。プロギングは、2時間ぐらいのイベントとして実施されることが殆どだが、これを観光や合宿系で来る方のトレーニング、地域の高校生等周辺の大学生への授業の一環としてもできるのではないかと。またキャンプで泊まりに来ているような方にも参加できるように形にしていくと自発的なアクションに繋がるのではないかと。特定非営利活動法人iPledgeと連携し、ボランティアシステムを導入するのも良いのでは。

●事例1：ゴミ拾い×スポーツ（プロギング）

団体名 一般社団法人プロギングジャパン
URL <https://plogging.jp/>

10/23はプロギングの日

プロギングとは、ゴミ拾いと走るというものを組み合わせた造語でスウェーデン語を使っており、ヨーロッパ系の方にも馴染みのあるアクション。プロギングは、2時間ぐらいのイベントとして実施されることが殆どだが、これを観光や合宿系で来る方のトレーニング、地域の高校生等周辺の大学生への授業の一環としてもできるのではないかと。またキャンプで泊まりに来ているような方にも参加できるように形にしていくと自発的なアクションに繋がるのではないかと。特定非営利活動法人iPledgeと連携し、ボランティアシステムを導入するのも良いのでは。

●事例2-2：三浦半島のゴミ問題解決（受託NPO）

団体名 特定非営利活動法人iPledge(アイプレッジ)
URL <https://www.ipledge.jp/>
ごみゼロナビゲーション <https://www.gomizero.org/>

ごみゼロナビゲーションとは、三浦半島のゴミ問題を解決するための取り組み。プロギングと連携し、ボランティアシステムを導入し、地域の高校生等周辺の大学生への授業の一環としてもできるのではないかと。またキャンプで泊まりに来ているような方にも参加できるように形にしていくと自発的なアクションに繋がるのではないかと。特定非営利活動法人iPledgeと連携し、ボランティアシステムを導入するのも良いのでは。

末尾別添「最終報告会資料1」参照

【事例紹介2 三浦半島 葉山海水浴場ゴミゼロナビゲーション（エコステーション）プロジェクト】

勉強会の中でも紹介した三浦半島の事例では、ゴミを有料にする際には、住民や来訪者にアンケートをとり、どのぐらいのラインの価格が妥当なのかということも検討した上で有料化に踏み切ったといったような事例を紹介した。その続きの部分として、持続可能な観光地のトップ100選（Green Destinations、オランダ）に選ばれた際に葉山町の産業振興課の方が作成しエントリーしたグッドプラクティスストーリーを紹介する。

ノミネートされた部分は、SDGs17のゴール12「責任ある消費と生産」。有料化したことで海岸はきれいになりゴミの総量も減ったが、海岸裏の住宅街等へごみの不法投棄が増加したという状態が生じた。その対応として、管理者が常駐するエコステーションを作り、管理者がゴミを分別するのではなく、ゴミを持ち込む人自身が分別まで行うことでマナーを体感しながら意識向上に繋げていくアクション型のごみの分別回収に切り替えた。ポイントは、自治体の職員の方等がスタッフとして対応するのではなく、音楽フェス等イベント会場でアクション型のゴミ回収分別などを多数実施しているNPOに委託することでスムーズな運営に繋がった。行政や清掃系の企業が入るのではなくビーチの利用者である若い方等を中心としたボランティアがスタッフとなることで実際にビーチに来ている方と身近な同年代等の方が多いためコミュニケーションもスムーズになり、回収のトラブル自体が減少した。

エコステーションで分別（可燃・不燃・資源）し、資源ごみをリサイクルに回す際に有料化した。また処理にかかるコストを見える化することでマナーの啓蒙を行った。これにより、ビーチ利用者の意識の向上、利用率の向上、ごみ分別の徹底に繋がり、飛躍的にその回収状況が改善された。

こういうことを長期的に続けていくことで、ビーチに来る利用者の意識を変えていく努力が必要だということを非常に強く感じたということがこの取り組みで地域・自治体を感じたことであった。

2019年には、エコステーションで1150キログラムの資源ごみ（ペットボトル、缶、ガラス瓶等）を回収した。2016年と比較すると全体的に資源ごみの回収量が増えたという結果であった。

ビーチ内には、ボランティアで参加してくれるスタッフ、回収スタッフの方がごみ回収分別ルールの看板を持って、海岸を歩いたり、協力を呼び掛けたということで海岸利用者の意識向上が図られた。ボランティアの参加人数も記録を取っており2019年夏15日間では延べ130名のボランティアが参加し、うち93%が13歳～22歳という層のボランティアでエコステーションが運営された。

●事例2-1：三浦半島のゴミ問題解決（TOP100に選ばれた取り組み）



2020 TOP 100 GOOD PRACTICE STORY

TITLE OF THE STORY: Hayama Beach Zero-Touch Navigation (Eco-Station) Project

Submitted by: Miura Peninsula, Kanagawa Prefecture

Country: Japan

Submitted by: Masaru Ito

Project Lead: Head of the Industrial Promotion Division, Hayama Town

Submitted by: Masaru Ito

Keywords:

- Climate Change
- Community
- Environment
- Health
- Local Economy
- Local Government
- Local Industry
- Local Society
- Local Culture
- Local Education
- Local Sports
- Local Tourism
- Local Safety
- Local Security
- Local Disaster Preparedness
- Local Resilience
- Local Sustainability
- Local Innovation
- Local Leadership
- Local Partnership
- Local Collaboration
- Local Synergy
- Local Impact
- Local Contribution
- Local Benefit
- Local Value
- Local Quality
- Local Quantity
- Local Frequency
- Local Duration
- Local Intensity
- Local Extent
- Local Scope
- Local Scale
- Local Level
- Local Range
- Local Depth
- Local Breadth
- Local Height
- Local Width
- Local Length
- Local Area
- Local Volume
- Local Mass
- Local Weight
- Local Force
- Local Power
- Local Energy
- Local Heat
- Local Cold
- Local Light
- Local Sound
- Local Smell
- Local Taste
- Local Touch
- Local Feel
- Local Thought
- Local Emotion
- Local Behavior
- Local Action
- Local Reaction
- Local Response
- Local Result
- Local Outcome
- Local Effect
- Local Impact
- Local Contribution
- Local Benefit
- Local Value
- Local Quality
- Local Quantity
- Local Frequency
- Local Duration
- Local Intensity
- Local Extent
- Local Scope
- Local Scale
- Local Level
- Local Range
- Local Depth
- Local Breadth
- Local Height
- Local Width
- Local Length
- Local Area
- Local Volume
- Local Mass
- Local Weight
- Local Force
- Local Power
- Local Energy
- Local Heat
- Local Cold
- Local Light
- Local Sound
- Local Smell
- Local Taste
- Local Touch
- Local Feel
- Local Thought
- Local Emotion
- Local Behavior
- Local Action
- Local Reaction
- Local Response
- Local Result
- Local Outcome
- Local Effect

【和訳】

2020年版 TOP100 グッドプラクティスストーリー

ストーリーのタイトル
葉山海水浴場ゴミゼロナビゲーション（エコステーション）プロジェクト

サステイナブル
神奈川県三浦半島

国名
日本

投稿者名
Masaru Ito

電子メールアドレス
(省略)

役職
葉山町産業振興課課長

ノミネート部門

- ☐ 文化・社会
- ☐ 環境・気候
- ☐ 自然・エコリズム
- ☐ 島と海辺
- ☐ 新型コロナウイルス感染症に対する当面の対応
- ☐ ポストコロナの回復
- ☒ SDGs17いずれか
- ゴール12 責任ある消費と生産

出典：Greendestinations (Miura-Oeninsula-Kanagawa-Prefecture-GPS-2020)

末尾別添「最終報告会資料1」参照

3.意見交換

<アクションプランについて>

- ・1市4町の担当者会の中でも、来年度以降どのような取り組みを進めていくかの参考になる。来年度以降の事業にアクションプラン活用ができる有効性を感じた。
- ・1つのシートになっているので、わかりやすく意見がまとまっていて、理解できた。
- ・課題がアクションプランを見ることで明確になった。これから取り組むべき点もより明確になった。津野町だけではなく四国カルスト全体という課題にもなるので連携して進めたい。
- ・受け手側の今の思いで商品を作るというのが、求められているものなのかという点の疑問は、アクションプランの中であった。ターゲット調査、市場調査、顧客満足度調査などをおかないと、ピントがずれたことやしていることにもなりかねない。アクションプランの1番右の個別の事業で提案されているが、過去のこれまでの先例の中で、市場調査をしっかりとやっている事例があれば教えていただきたい。
- ・2020年にJSTS-Dは公表されていたが、なかなか中身を深く読みとくところまでは行っておらず、今回このような機会をいただき現状の健康診断ができた。ワークショップ・アクションプランで取り組みの方向性が少し見えてきた。実践に移していくのは、一気にいかないが、事業者の方や地域の方とも、話を重ねながら、連携しながら進めていきたい。カルストの市町連携の中で順次進めていけるとよい。

<連携について>

【久万高原町】

- ・今後1市4町の連携の中で、このアクションプランが1つでも近々実現できるよう行動を取っていきたい。

【津野町】

- ・津野町で足りない部分を久万高原町に助けてもらう、逆に津野でできることを久万高原町でやらせていただく等、色々なところを補えると感じた。特に津野は人材不足なので久万高原町と協力したい。
- ・2町は食も似ているのでお互いに食材の提供などもしていけたら良い。

＜具体的取り組みについて＞

【食】

- ・ビーガンやベジタリアンが可能性としてあるが、最近、販売中よくお客様からこの商品の中には何が入っているかと聞かれるようになった。商品自体色々考えていきたいなと思っており、カルストに来たらこれが食べられるという全体での商品のイメージとして取り組めるのはとてもありがたい。
- ・ビーガンメニューはものすごく提案しやすく、外国人観光客の方の需要があると感じるので、ビーガン対応のメニュー開発はぜひとも進めていてもらいたい。
- ・インバウンド対策をして多国籍の方が来るようになったら、色々な文化の方がいるので対策を検討する必要がある。
- ・津野町は、お茶やスイーツはあるが、肉系などがなく、パツとしないと思っていた。それを今回ビーガン、ベジタリアンという話が出た時にハッとした。

【人材育成】

- ・人材も高齢化の波が来ていて、人材育成の方法を検討する必要がある。
- ・レジャー施設の冬場の雇用は色々課題があり、集客が確実に減少するので、冬場の雇用の人材確保が厳しいが、そのような時に、インバウンド関係、観光ガイド関係等の勉強会に参加して、スキルアップをすることでパフォーマンスのアップにも繋がるのではと感じた。研修会も1人ではなく事業者の中で複数名参加する。
- ・まず自分の施設のスタッフのホスピタリティを上げるために何をしたらいいのか、人材を磨いていくことに力を入れつつ、施設を魅力的にみんなで育てていきたい。それがこの四国カルスト界隈の地域を盛り上げていくことに繋がったらよい。
- ・人材不足がある中で対応ができそうなNPO、団体となると、なかなか人がいないところが、自分たちの課題であると思った。田舎バージョンだったら、このようなものがないのではないかなというのを教えていただきたい。

【プロギング】

- ・プロギングの事例が有効であれば、実際にやってみたいと思うが、予算の問題もある。
- ・プロギング、トレーニング、ヨガなど観光協会でも早速できることを取り組みたい。
- ・アクションプランを基に環境等にも配慮した事業展開をしていかないといけない。久万高原町のプロギングのようなものも活用したイベント等も開催していきたいし、観光客も津野町の町民も環境に配慮できるような展開をしていきたい。
- ・陸上の学生等も活用しながらプロギングができれば、非常に面白い。
- ・プロギングは、初めて聞いたが、手が出しやすかった。他の事例についても、海のゴミを拾う三浦半島の例で、NPO等も関わって成功したという話の時に、これは都会だからできるなと思って聞いた部分があった。

【コンテンツ】

- ・雨の日でも施設が通常運営していることを周知できてない。近隣の施設との連携を従業員1人1人が強くすることで、広がりが出てくると思うので発信をしていきたい。
- ・冬のコンテンツについて、施設の一部を使って、サウナを企画しているところ。お試しでやってみるところからでもはじめる。
- ・私たちのキャンドルイベントをイルミネーションに変えながら、1日だけでなく一定の期間はイベントができるようなことも考えていきたい。
- ・津野町は魅力的な場所なので、リトリート的な感じの癒されるものをやりたい。
- ・冬場の閑散期で閉鎖をされる、道が狭くて渋滞になるという話は、ちょっと目線を変えてケーブルカーは作れないのか。金額的なものは別として、人を運んで、ウォーキングとかサイクリング等を使って周遊してもらう、滞在を伸ばしてもらう。麓でお金が落ちていないという課題には、道の駅を作るなど期待ができる。

＜事業全体について＞

- ・顔を合わせてワークショップすることで、色々と分かり合えたところもあった。5市町での連携でもワークショップの提案はさせていただいている。
- ・この事業をきっかけに四国カルストエリアの2つの町が1つになって、課題解決に向けて取り組んでいける。
- ・勉強になって終わりではなく、実際に行動に移せるものは、実行していきたい。また、税金を使ってやるのであれば、優先順位や費用対効果も考え、必要なところに必要なお金を使っていいただければと思う。
- ・2町の職員、観光協会職員も、研修を受けていただければ、よりGSTCからの勉強になると思うので、理解度が深まっていくのではないかな。
- ・全国から来ていただけるお客さんも、癒される、この自然がそのまま残っているところはない等言っていたけどいる。自信を持ってこの町を紹介したい。観光推進課も出来たのでお互いに意見出したり求めたり、津野町を盛り上げていきたい。

【四国運輸局】

- ・今回の事業は調査事業ということで、観光庁から予算を取ってきて実施しているので、今のところ継続的な具体的な事業の実施が今は見えていない。せっかく良い事業になったので、何か繋げていければと補正予算、令和5年度予算についても何かできないかなと考えていきたい。人材育成事業も引き続きある見込み。

3. まとめ

【事業成果と今後の展開】

・今回の事業を通して、デスティネーションプロフィール、アセスメントレポート、アクションプランフォームの作成・データの収集・分析、関係者との共有ができた。各フォームは、今後も継続して使用できる形式としており、担当者が変わるなどしても関係者の共通認識を持てる基礎資料・事業の根拠資料として自治体が主体的に活用していくことが期待される。

・勉強会・ワークショップ・報告会と関係者が顔を合わせて意見を交わす場を設けたことで、関係者間での意思疎通が図られ、合意形成につながるとともに、横の連携が強まり新たな取り組みが生まれることが見込まれる。

・今回の事業は、久万高原町・津野町の2町が対象エリアであったが、今後、西予市、内子町、梶原町を含めた四国カルストエリア1市4町での連携が期待される。特にインバウンドや遠方からの誘客に際しては、自治体境界ではなくエリアとしてのデスティネーション価値が問われるため、広域連携が不可欠。

・アクションプランの中で、優先度が高いものから順に、各主体が率先して取り組みを進めていくことが期待される。アクションプランを共有して満足するのではなく、各ステークホルダーがそれぞれの役割を認識し、自発的に動いていくことが求められる。

・特に、コンテンツの開発については具体的な提案が多く挙げられた。JSTS-Dの項目と紐づけて考えることで、サステナブルな観光コンテンツの造成を進めていくことができるとよい。

・インバウンド誘客をはじめとしたポストコロナの観光対応を進めていくうえで、受け入れ環境整備は不可欠であり、観光事業者、住民、来訪者等それぞれが不満を持つことなくある程度の譲り合いができるシステムを構築していくことで、このエリアでの持続可能な観光が推進されることが考えられる。

【令和5年度事業について】

アクションプランにおける各取り組みを実行に移すため、事業化する際の予算と期間の目安を示した。また、最終報告会時点で令和5年度概算要求の中で公表されている事業について、各取り組みで活用できる可能性のあるものについて具体的な事業を紐づけ、補助・支援の概要を示した。最終報告会での関係者の意向の通り、各取り組みの具体化に向けて予算を確保し事業を実施していくことが期待される。

<活用可能性のある令和5年度事業>

観光庁	・観光地・観光産業再生のための人材育成・確保等事業
	・通訳ガイド制度の充実・強化
	・新たな交流市場の創出事業：将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成
	・持続可能な観光推進モデル事業
	・地域の資源を生かした宿泊業等の食の価値向上事業
	・ポストコロナを見据えた受入環境整備促進事業
文化庁	・文化観光コンテンツの充実事業

令和4年度 愛媛県久万高原町及び高知県津野町における
日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光地経営の現状・課題調査事業

《事業実施報告書》

令和4年12月発行

国土交通省 四国運輸局

事業受託者：リベルタ株式会社 東京都新宿区戸山1丁目19番7号
